

長崎市在宅医療・介護連携実態調査結果報告書

令和5年2月

長崎市

目 次

P

I 調査概要

(1) 調査目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査期間	2
(4) 調査方法	2
(5) 回収率	2
(6) 調査回答についての留意事項	3

II 調査結果

(調査票の項目は、【基本調査】【日常の療養支援】【入退院支援】【急変時の対応】【看取り】の5項目です。

は回答対象が全種別事業所、は各項目中の質問内容により回答対象が一部の種別事業所のみになります。また、目次に記載している質問内容の「1つ選択」や「複数選択」は省略(結果には記載)、「※一部抜粋」は自由記述回答内容から一部抜粋して結果に記載しています。

【基本調査票】の質問内容について

1	貴事業所の種別についてお伺いします。	5
2	回答者の職種名についてお伺いします。	6
3-(1)	貴事業所には地域連携室等(他事業所との連携窓口となる部署)の設置がありますか。	6
3-(2)	3-(1)で「①設置している」、「②設置していないが担当者がいる」と答えた方、他事業所との連携窓口を担当するのはどなたですか。	6
4-(1)	全体的に在宅医療と介護の連携はとれていると思いますか。	7
4-(2)	4-(1)で「①とれている」、「②概ねとれている」と答えた方、選択した理由や連携の状況を具体的に記入してください。(※一部抜粋)	7
4-(3)	4-(1)で「③あまりとれていない」、「④とれていない」と答えた方、理由は何だと思えますか。	7
4-(4)	また、その中でも優先度が高い課題を3つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	8
5-(1)	地域包括支援センターが開催している地域ケア会議に参加したことがありますか。	9
5-(2)	5-(1)で「①ほとんど参加している」、「②必要に応じて参加している」と答えた方、参加してみてどうでしたか。	9
5-(3)	5-(1)で「③ほとんど参加していない」、「④参加したことがない」と答えた方、参加しない理由は何ですか。	9
6-(1)	長崎市や包括ケアまちなかラウンジが開催する「在宅医療と介護に関する多職種の研修会」や地域包括支援センターが開催する「関係機関との連絡会」に参加したことがありますか。	10
6-(2)	6-(1)で「①ほとんど参加している」、「②必要に応じて参加している」と答えた方、参加してみてどうでしたか。	10
6-(3)	6-(1)で「③ほとんど参加していない」、「④参加したことがない」と答えた方、参加しない理由は何ですか。	10
7-(1)	在宅医療と介護の連携の推進のために何が必要だと考えますか。	11
7-(2)	また、その中でも優先度が高いものを5つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	12

病院・診療所・歯科診療所・薬局にお伺いします。

8	貴事業所では、訪問による診療、サービス提供等を実施していますか。	13
9-(1)	在宅医療を開始するために必要なことは何ですか。	13
9-(2)	また、その中でも優先度が高いものを3つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	14

【日常の療養支援に関する調査票】の質問内容について

(※つぎの質問内容は、㉗～㉙に共通です。)

10-(1) 貴事業所は、地域の他事業所や他職種(以下の㉗～㉙)と、それぞれのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思えますか。

10-(2) 「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

10-(3) 「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由についてあてはまるもの全てに○をつけてください。

10-(4) また、連携ができていない具体的な状況を記入してください。

㉗ 病院の医師との連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	15
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	15
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	15
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	15

①病院の看護師との連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	16
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	16
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	16
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	16

②病院の医療ソーシャルワーカーとの連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	17
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	17
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	17
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	17

③診療所との連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	18
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	18
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	18
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	18

④歯科診療所との連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	19
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	19
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	19
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	19

⑤薬局との連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	20
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	20
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	20
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	20

⑥訪問看護ステーション(訪問リハビリを含む)との連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	21
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	21
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	21
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	21

⑦地域包括支援センターとの連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	22
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	22
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	22
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	22

⑧居宅介護支援事業所との連携

10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	23
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	23
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	23

10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	23
㊸入所系施設（基本調査票設問1で㉕～㉞）との連携		
10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	24
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	24
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	24
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	24
㊹介護事業所（基本調査票設問1で㉒～㉔）との連携		
10-(1)	どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。	25
10-(2)	10-(1)で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	25
10-(3)	10-(1)で「③あまり連携できていない」、「④連携できていない」と答えた方、その理由は何ですか。	25
10-(4)	連携ができていない具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	25
11-(1)	貴事業所は、サービス担当者会議に参加(文書による意見照会や意見交換を含む)していますか。	26
11-(2)	11-(1)で「①必ず参加している」、「②概ね参加している」と答えた方、参加してみてどうでしたか。	26
11-(3)	11-(1)で「③あまり参加していない」、「④参加していない」と答えた方、参加していない理由について、あてはまるもの全てに○をつけてください。	26
12-(1)	貴事業所には、多職種連携に係る情報提供に用いている書式・様式がありますか。	26
12-(2)	貴事業所独自で使用している書式・様式で、他事業所と共通利用しているものがあれば具体的に記入してください。(※一部抜粋)	27
13-(1)	貴事業所は、多職種連携に使用しているシステム・ツールがありますか。	27
13-(2)	多職種連携に係る情報を共有するシステムや書式を作成し、運用する必要性を感じますか。	27
14	長崎市では、高齢者の自立支援・重度化防止に向けた介護予防の推進のため、在宅支援リハビリセンターを市内8か所に設置しています。これについてあてはまるもの1つに○をつけてください。	27
15-(1)	利用者・患者の在宅療養の障壁になっているものは何だと思えますか	28
15-(2)	また、その中でも優先度が高い課題を5つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	29 30
16	日常の療養支援において在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。	30
17	日常の療養支援を行うにあたっての医療と介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください。(※一部抜粋)	30

【入退院支援に関する調査票】の質問内容について

18-(1)	入院早期から、利用者・患者の在宅療養に備えた関係者との情報交換は重要だと思いますか。	31
18-(2)	また、①～④を選択した理由や具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	31

居宅介護支援事業所以外にお伺いします。

19-(1)	利用者・患者の担当のケアマネジャーを把握していますか。	31
19-(2)	「③ほとんど把握していない」、「④把握していない」と答えた方、理由を具体的にご記入ください。(※一部抜粋)	31
20-(1)	貴事業所は、退院し、在宅療養に移行する利用者・患者の退院時共同指導(以後、「退院前カンファレンス」という) (退院支援に関する報酬の加算の有無は問わない)に参加したことがありますか。	32
20-(2)	20-(1)で「③ほとんど参加していない」、「④参加していない」と答えた方、その理由は何ですか。	32

病院以外にお伺いします。

21-(1)	利用者・患者が入院する(した)場合に、在宅での生活状況等について病院に情報提供を行っていますか。	32
21-(2)	21-(1)で「①病院からの要請に関わらず提供している」、「②病院からの要請があった場合提供している」と答えた方、どのような手段で情報提供していますか。	33
21-(3)	21-(1)で「①病院からの要請に関わらず提供している」、「②病院からの要請があった場合提供している」と答えた方、いつ情報提供していますか。	33
22-(1)	利用者・患者が入院した場合、病院から経過情報を取得していますか。	33
22-(2)	22-(1)で「①ほとんどの利用者・患者の情報を取得している」、「②必要と判断した利用者・患者の情報を取得している」と答えた方、どのような手段で経過情報を取得していますか。	34
22-(3)	22-(1)で「①ほとんどの利用者・患者の情報を取得している」、「②必要と判断した利用者・患者の情報を	34

	取得している」と答えた方、情報はいつ取得していますか。	
23	利用者・患者が入院した場合、病院に退院前カンファレンス・サービス担当者会議の開催を依頼していますか。	34
24-(1)	退院時にはどのような情報が必要ですか。	35
24-(2)	また、その中でも優先度が高い情報を5つまで順位をつけて回答してください。	36
25	利用者・患者が退院する際、病院から連絡がありますか。	37
26	退院の連絡はどの時点であることが多いですか。	37
27	退院の連絡はいつあればよいですか。	37

病院にお伺いします。

28-(1)	患者が退院し、在宅療養に移行する場合、退院前カンファレンス(退院支援に関する診療報酬の加算の有無は問わない)を開催していますか。	38
28-(2)	28-(1)で「①ほとんどの患者に開催している」、「②必要と判断した場合に開催している」、「③事業所から要請された場合に開催している」と答えた方、退院前カンファレンスへの参加を呼びかける事業所・職種は何ですか。	38
28-(3)	28-(1)で「①ほとんどの患者に開催している」、「②必要と判断した場合に開催している」、「③事業所から要請された場合に開催している」と答えた方、実際に、退院前カンファレンスに参加している事業所・職種は何ですか。	39
29-(1)	退院前カンファレンス開催における課題は何ですか。	39
29-(2)	また、その中でも優先度が高い課題を3つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	40
30	必要に応じて患者の退院前や退院後に在宅医療や介護の事業所と一緒に訪問を実施していますか。	40
31-(1)	患者が入院する(した)際、かかりつけ医と連携していますか。	41
31-(2)	31-(1)で「①ほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と回答した方、どのような手段で連携していますか。	41
31-(3)	31-(1)で「①ほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と回答した方、かかりつけ医とはどの時点で連携していますか。	41
32-(1)	患者が入院する(した)際、患者の在宅療養に備え、訪問看護師、ケアマネジャーなど関係職種と連携していますか。	42
32-(2)	32-(1)で「①在宅サービスを利用するほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合に連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と答えた方、どのような手段で連携していますか。	42
32-(3)	32-(1)で「①在宅サービスを利用するほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合に連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と答えた方、訪問看護師、ケアマネジャーなど関係職種とはどの時点で連携していますか。	42
33	患者が退院し、在宅療養に移行する場合、どのような情報を提供していますか。	43
34	入院前の患者情報(介護や日常生活に関する情報)を担当ケアマネジャーから取得していますか。	44
35	入退院支援において在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。	44
36	入退院支援を行うにあたっての在宅医療と介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください。(※一部抜粋)	44

【急変時の対応に関する調査票】の質問内容について

37-(1)	利用者・患者の急変時の対応についてかかりつけ医と連携がとれていますか。	45
37-(2)	また、その理由や具体的な状況を記入してください。(※一部抜粋)	45
38	利用者・患者の急変時の対応についてマニュアルを作成していますか。	45
39	利用者・患者の急変時の対応についてサービス担当者会議などで話し合い、多職種間で情報を共有できていますか。	46
40-(1)	利用者・患者の急変時の対応について、利用者・患者や家族へ説明していますか。	46
40-(2)	40-(1)で「①説明している」と答えた方、利用者・患者や家族にいつ説明していますか。	46
40-(3)	40-(1)で「②説明していない」と答えた方、理由は何かですか。(※一部抜粋)	47

病院以外にお伺いします。

41-(1)	利用者・患者の急変時に救急車を要請した際に、受け入れてくれる病院がなかなか見つからず、時間を要したことがありますか。	47
--------	--	----

41-(2)	41-(1)で「①なかなか見つからず時間を要したことがある」と答えた方、受け入れ病院が見つかりにくかった状況について具体的にご記入ください。(※一部抜粋)	47
--------	---	----

病院・診療所以外にお伺いします。

42-(1)	急変時の対応に不安を感じますか。	48
42-(2)	42-(1)で「①大いに感じる」、「②少し感じる」と答えた方、その理由は何ですか。(※一部抜粋)	48
43	急変時の対応に関する研修を実施・参加していますか。	48
44	急変時の対応に関する職員への教育にはどのような内容が必要だと思いますか。	49
45	急変時の対応において在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。	49
46	現状の救急医療体制で改善してほしいことがあればお書きください。(※一部抜粋)	50
47	急変時の対応を行うにあたっての在宅医療と介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください。(※一部抜粋)	50

【看取りに関する調査票】の質問内容について

48-(1)	在宅で看取りすることに不安や負担を感じますか。	51
48-(2)	48-(1)で「①大いに感じる」、「②少し感じる」と答えた方、その理由は何ですか。	51
49	看取りに関する研修を実施・参加していますか。	51
50	在宅での看取りに関する職員への教育にはどのような内容が必要だと思いますか。	52
51-(1)	貴事業所では、利用者・患者に看取りに関する希望を確認していますか。	52
51-(2)	51-(1)で「①すべての利用者・患者に確認している」、「②必要な利用者・患者のみ確認している」と答えた方、いつ確認していますか。	52
52-(1)	利用者・患者の家族に看取りに関する希望を確認していますか。	53
52-(2)	52-(1)で「①すべての利用者・患者の家族に確認している」、「②必要な利用者・患者のみ確認している」と答えた方、いつ確認していますか。	53
53	51-(1)または 52-(1)で「①すべての利用者・患者の家族に確認している」、「②必要な利用者・患者のみ確認している」と答えた方、看取りに関する希望を聞く際に活用しているものは何ですか。	53
54	長崎市がACP(人生会議、アドバンス・ケア・プランニング)について考えるきっかけ作りとして、令和元年度に作成した「元気なうちから手帳」についてお伺いします。	54
55	市民のACPIに対する考え方が広まっていると感じますか。	54
56	医療・介護従事者のACPIに対する考え方が広まっていると感じますか。	54
57	ACPIに取り組む事業所が増えていると感じますか。	54
58-(1)	在宅で看取りを実施するうえで重要なことは何だと思えますか。	55
58-(2)	また、中でも優先度が高い課題を5つまで順位をつけて回答してください。	56
59	貴事業所は、在宅での看取りにチームの一員として対応していますか。	57

59で看取りに「①対応している」と回答した事業所にお伺いします。

60	令和2年度に看取りに対応した件数は何件でしたか。	57
61	看取りに関する指針やマニュアルを作成していますか。	57
62	看取り希望者に文書による意思確認等をもらっていますか。	58
63	看取り期に入った利用者・患者に対し、看取り計画を立てていますか。	58
64	看取りに関するカンファレンスを実施していますか。	58
65	デスクカンファレンスを実施していますか。	58
66	家族のグリーフケアを実施していますか。	59
67	職員のグリーフケアを実施していますか。	59

59で看取りに「②対応していない」と回答した事業所にお伺いします。

68	看取りに対応していない理由は何ですか。	59
69	看取りにおいて在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。	60
70	看取りを行うにあたっての医療と介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください。(※一部抜粋)	60

入所系施設（基本調査票の1で②5～③6）にお伺いします。

71	令和3年12月末現在の入所(居)者は何人ですか。	61
----	--------------------------	----

72-(1)	入所(居)者のうち看取りを希望している利用者を把握していますか。	61
72-(2)	「①把握している」と答えた方、令和 3 年 12 月末現在で看取りを希望している入所(居)者は何人いますか。	62
73-(1)	事業所の関連法人の医療機関や協力医療機関への医学的管理の依頼状況はどうなっていますか。	62
73-(2)	73-(1)で「①定期的に依頼している」、「②必要時依頼している」と答えた方、緊急時の対応状況はどうなっていますか。	62
74	訪問看護ステーションへの医学的管理の依頼状況はどうなっていますか。	63
75	R3 年 12 月末現在の職員体制を常勤・非常勤別に数字でご記入ください。	63
76	R3 年 12 月末現在の夜勤帯の職員体制を数字でご記入ください。	65
77-(1)	対応可能な医療処置は何ですか。	66
77-(2)	R3 年 12 月末現在で医療処置を受けている入所(居)者は何人いますか。	66
78	H29～R2 年度に貴事業所で看取りを行った人数を年度別に数字でご記入ください。	67
79-(1)	令和 2 年度に、看取り期(回復が望めない状態)において、施設における看取り介護を実施していたにも関わらず病院へ搬送し、そのまま病院で亡くなった入所(居)者は何人いますか。	67
79-(2)	また、そうなったのはどのような理由からですか。	68

III 考察

I 調査概要

(1) 調査目的

長崎版地域包括ケアシステムの構築推進にあたり、重要な要素である在宅療養者の生活における在宅医療と介護の連携の実態把握及び課題抽出を行い、今後の施策へ反映させる。

(2) 調査対象

市内の在宅医療と介護に関する事業所 2,100 か所

	事業所種別	対象数
1	病院（※1）	44
2	介護医療院	2
3	診療所（※2）	416
4	歯科診療所	268
5	薬局	269
6	訪問看護ステーション	55
7	訪問リハビリステーション	30
8	地域包括支援センター	20
9	居宅介護支援	154
10	訪問介護	150
11	夜間対応型訪問介護	2
12	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9
13	小規模多機能型居宅介護	34
14	看護小規模多機能型居宅介護	5
15	訪問入浴介護	4
16	通所介護	90
17	地域密着型通所介護	96
18	通所リハビリテーション	51
19	認知症対応型通所介護	20
20	短期入所生活介護	67
21	短期入所療養介護	27
22	福祉用具貸与・特定福祉用具販売	42
23	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	28
24	介護老人保健施設（老人保健施設）	17
25	介護療養型医療施設（療養病床）	4
26	特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）	59
27	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	70
28	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（特別養護老人ホーム）	17
29	軽費老人ホーム・ケアハウス	14
30	原爆一般養護ホーム	1
31	原爆特別養護ホーム	1
32	養護老人ホーム	8
33	生活支援ハウス	3
34	サービス付き高齢者向け住宅	23
	計	2100

※1 病院については、1事業所につき4名（地域連携室、病棟、外来、医師）の回答を依頼

※2 休止中・小児科単科・その他（長崎病理診断科/長崎市夜間急患センター/長崎市障害福祉センター診療所/長崎県長崎子ども・女性・障害者支援センター/公益財団法人長崎原子爆弾被爆者対策協議会中央検診所）を除外した箇所数

(3) 調査期間

令和4年3月7日～令和4年4月22日

(4) 調査方法

市ホームページより調査票をダウンロードし、回答をメールで送信

(5) 回収率

調査対象事業所数 2,100、回答対象数は 2,232、回答数は 1,391、回答率は 62.3% (③/②)

	対象	①対象 事業所数	②回答 対象数	③回答数	④回答率 (%)
1	病院（地域連携室、病棟、外来、医師）	44	176	48	27.3
2	介護医療院	2	2	1	50.0
3	診療所	416	416	200	48.1
4	歯科診療所	268	268	122	45.5
5	薬局	269	269	175	65.1
6	訪問看護ステーション	55	55	50	90.9
7	訪問リハビリテーション	30	30	23	76.7
8	地域包括支援センター	20	20	20	100.0
9	居宅介護支援	154	154	129	83.8
10	訪問介護	150	150	98	65.3
11	夜間対応型訪問介護	2	2	1	50.0
12	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9	9	8	88.9
13	小規模多機能型居宅介護	34	34	25	73.5
14	看護小規模多機能型居宅介護	5	5	3	60.0
15	訪問入浴介護	4	4	2	50.0
16	通所介護	90	90	71	78.9
17	地域密着型通所介護	96	96	76	79.2
18	通所リハビリテーション	51	51	44	86.3
19	認知症対応型通所介護	20	20	11	55.0
20	短期入所生活介護	67	67	51	76.1
21	短期入所療養介護	27	27	12	44.4
22	福祉用具貸与・特定福祉用具販売	42	42	28	66.7
23	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	28	28	24	85.7
24	介護老人保健施設（老人保健施設）	17	17	14	82.4
25	介護療養型医療施設（療養病床）	4	4	1	25.0
26	特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）	59	59	47	79.7
27	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	70	70	50	71.4
28	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（特別養護老人ホーム）	17	17	16	94.1
29	軽費老人ホーム・ケアハウス	14	14	13	92.9
30	原爆一般養護ホーム	1	1	1	100.0
31	原爆特別養護ホーム	1	1	1	100.0
32	養護老人ホーム	8	8	7	87.5
33	生活支援ハウス	3	3	2	66.7
34	サービス付き高齢者向け住宅	23	23	17	73.9
	計	2,100	2,232	1,391	62.3

(6) 調査回答についての留意事項

- ・この調査票の「在宅医療と介護」を受ける対象者は65歳以上の高齢者を指します。小児や、年齢が若いがんや難病患者、障がい者における在宅医療と介護の連携は含みませんのでご注意ください。
- ・この調査票の「在宅」とは、「自宅」だけでなく、「高齢者の入所系施設（特別養護老人ホーム、認知症対応型共同生活介護、有料老人ホーム等）での生活」も含まれます。
- ・この調査票の「事業所」とは、介護保険事業所や「〇〇事業所」との名称がつくところだけでなく、医療機関や薬局など調査対象となっている全ての関係機関とします。
- ・この調査票は、病院以外の事業所につきましては、在宅医療と介護の連携において、実際に業務にあっている各職種にもご確認いただき、事業所を代表して1名がご回答ください。
- ・この調査票は、病院につきましては、①地域連携室、②病棟の医師、③病棟の看護師、④外来のそれぞれ代表の方1名がご回答ください。（病棟や外来の診療科は問いません。1病院につき4名までの回答になります。）
- ・この調査票は、在宅療養者の生活の場において、在宅医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面（①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り）および基本調査票の5つのシートに調査票が分かれています。
- ・この調査における連携とは、在宅療養者の支援における、連絡・相談・調整・意見交換・情報共有や多職種協働等のことを指します。
※「連携」という言葉が少し抽象的で明確な定義づけはありませんが、広く捉えていただき、「高齢者の在宅療養を支援する」という共通の目指すべき姿に向かって、医療機関や介護事業所などの医療・介護に携わる機関・事業所・専門職等の皆さんがお互いの機能を補完しながら取り組んでいることすべてと考えてもらって結構です。

基本調査票

- ・問2 回答者の職種名については、主たる職種をお答えください。
- ・問5-(1) この調査における地域ケア会議とは、地域ケア個別会議は個別の事例について多職種で検討する会議、地域ケア推進会議は個別事例の検討等から明らかになった地域課題等への対応を検討する会議、徘徊模擬訓練等、多職種で課題に対して検討する会のことを指します。
- ・問6-(1) この調査における関係機関との連絡会とは、事業所連絡会、居宅連絡会等、地域包括支援センターが多職種に呼びかけ行う、勉強会や研修会、顔の見える関係づくりの会のことを指します。
- ・問9-(1) 在宅医療を開始するために必要なことについては、現在の在宅医療実施の有無に関わらずお答えください

日常の療養支援

- ・問10 ご自身の所属・職種以外との連携についてお答えください。例えば、病院の医師が回答される場合、「**ア**病院の医師との連携」については回答しなくて結構です。
- ・問11-(1) サービス担当者会議とは、ケアマネジャーが主催し、利用者の状況等に関する情報を各サービス担当者等と共有するとともに、専門的な見地から意見を求め、具体的サービスの内容の検討、調整を図る会議。

- ・問 14 在宅支援リハビリセンターとは、リハビリ専門職が、地域に関与し、保健・医療・福祉・介護の関係機関と連携・協力して高齢者の在宅生活を支える地域リハビリテーションを推進し、さらに高齢者自身が要介護状態となる徴候に早期に気付くための支援体制づくりを行うため、長崎市が市内 8 箇所の医療機関等を選定し設置している機関のこと。
- ・問 15-(1) 現在の在宅医療実施の有無に関わらずお答えください。

入退院支援

- ・問 23 退院前カンファレンス・サービス担当者会議の開催を依頼については、地域包括支援センターやケアマネジャーを通して、病院に依頼している場合も含まれます。
- ・問 24-(1) ACPとは、人生の最終段階における医療・ケアについて前もって考え、家族や医療ケアチーム等と繰り返し話し合い、共有する取り組み。
- ・問 29-(1) 退院前カンファレンス開催における課題については、退院前カンファレンス開催の有無に関わらずお答えください。
- ・問 30 患者の退院前や退院後に在宅医療や介護の事業所と一緒に訪問を実施していますかについては、過去に一回でも在宅医療・介護の事業所と一緒に訪問したことがある場合は、一緒に訪問を実施しているを選択してください。
- ・問 32-(1) 患者が入院する(した)際の関係職種との連携については、以前から在宅療養している患者、新規で在宅療養に移行する患者、どちらも含まれます。

急変時の対応

- ・この調査における「急変時」とは、意識障害、窒息など呼吸機能の低下、誤嚥、転倒、発熱、嘔吐、激しい痛みなど高齢者に起こる急な体調の変化のことで、日頃の疾患の経過からは予測しにくい状態の変化を指します。

看取り

- ・この調査における「在宅での看取り」は、医師より「終末期」と判断されている利用者を在宅または施設において支援し、ご逝去の後、死亡診断までを自宅内または施設内で行うことを指します。
- ・この調査における「終末期」とは、適切な治療を受けても回復の可能性がなく、死期が間近であると判定された場合を指します。
- ・問 48-(1) 在宅で看取りすることの不安や負担については、現在の在宅看取り実施の有無に関わらず、ご自身が看取りケアを行う医療・介護スタッフであると想定してお答えください。
- ・問 58-(1) 在宅で看取りを実施するうえで重要なことについては、現在の在宅看取り実施の有無に関わらずお答えください。
グリーフケアとは、身近な人との死別を経験し、悲嘆に暮れる人を、悲しみから立ち直れるように支援すること。
デスカンファレンスとは、利用者・患者の死後に行われるカンファレンス。
- ・問 59 チームの一員とは、医療・介護のスタッフが一緒になってサービス等を提供する際にその中の一事業所となっていることを指します。
※担当している患者・利用者が看取り期になった場合に、事業所として、看護介護等のサービスを提供しているかどうかをお答えください。

II 調査結果

1 貴事業所の種別についてお伺いします。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)

(下表③は回答事業所数、④は回答事業所回答総数です) (令和4年5月11日現在)

	事業所種別	①調査事業所数	②調査事業所 回答依頼総数 (注1)	③回答事業所数	④回答事業所 回答総数	⑤調査事業所別回答 依頼総数の回答率(%) (注2)	⑥全調査事業所回答 総数の回答率(%) (注3)
1	病院(地域連携室、病棟、外来、(代表)医師)	44	176	33	48	27.3	3.5
2	介護医療院	2	2	1	1	50.0	0.1
3	診療所	416	416	200	200	48.1	14.4
4	歯科診療所	268	268	122	122	45.5	8.8
5	薬局	269	269	175	175	65.1	12.6
6	訪問看護ステーション	55	55	50	50	90.9	3.6
7	訪問リハビリステーション	30	30	23	23	76.7	1.7
8	地域包括支援センター	20	20	20	20	100.0	1.4
9	居宅介護支援	154	154	129	129	83.8	9.3
10	訪問介護	150	150	98	98	65.3	7.0
11	夜間対応型訪問介護	2	2	1	1	50.0	0.1
12	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9	9	8	8	88.9	0.6
13	小規模多機能型居宅介護	34	34	25	25	73.5	1.8
14	看護小規模多機能型居宅介護	5	5	3	3	60.0	0.2
15	訪問入浴介護	4	4	2	2	50.0	0.1
16	通所介護	90	90	71	71	78.9	5.1
17	地域密着型通所介護	96	96	76	76	79.2	5.5
18	通所リハビリテーション	51	51	44	44	86.3	3.2
19	認知症対応型通所介護	20	20	11	11	55.0	0.8
20	短期入所生活介護	67	67	51	51	76.1	3.7
21	短期入所療養介護	27	27	12	12	44.4	0.9
22	福祉用具貸与・特定福祉用具販売	42	42	28	28	66.7	2.0
23	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	28	(注4) 28	24	24	85.7	1.7
24	介護老人保健施設(老人保健施設)	17	17	14	14	82.4	1.0
25	介護療養型医療施設(療養病床)	4	4	1	1	25.0	0.1
26	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム等)	59	59	47	47	79.7	3.4
27	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	70	70	50	50	71.4	3.6
28	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(特別養護老人ホーム)	17	17	16	16	94.1	1.2
29	軽費老人ホーム・ケアハウス	14	14	13	13	92.9	0.9
30	原爆一般養護ホーム	1	1	1	1	100.0	0.1
31	原爆特別養護ホーム	1	1	1	1	100.0	0.1
32	養護老人ホーム	8	8	7	7	87.5	0.5
33	生活支援ハウス	3	3	2	2	66.7	0.1
34	サービス付き高齢者向け住宅	23	23	17	17	73.9	1.2
	①②③④は合計数、⑤⑥は%(パーセント)	2,100	2,232	1,376	1,391	62.3	100.0

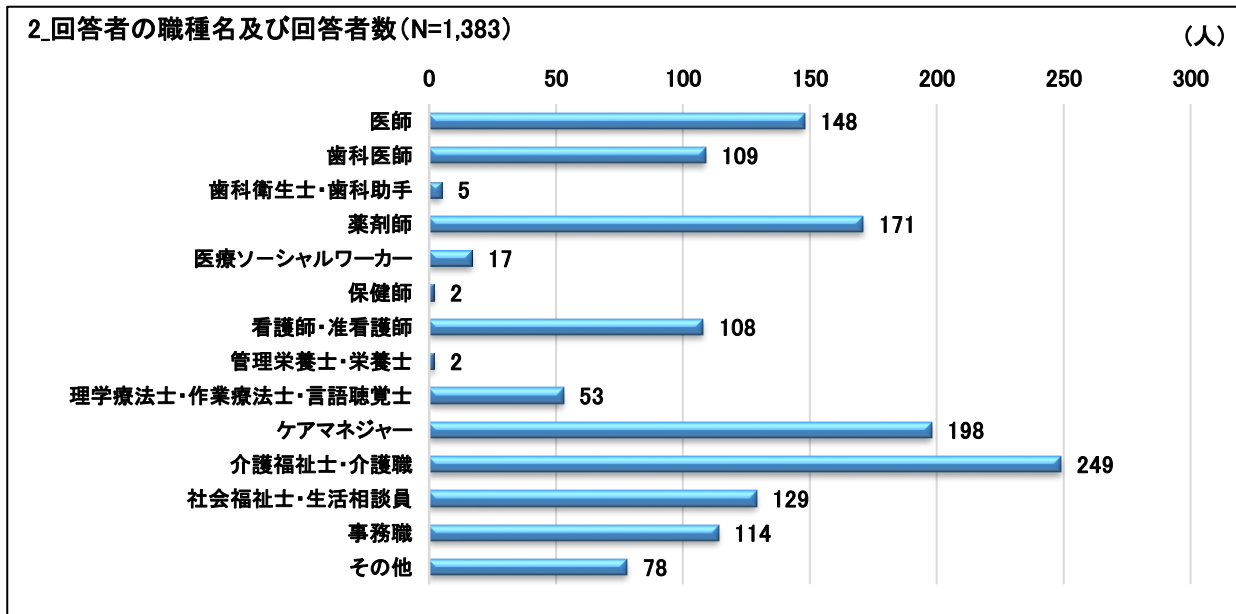
(注1)②1病院の回答依頼総数は、1病院につき4回答(事業所数×4)

(注2)⑤回答率=事業所種別の④回答総数÷②回答依頼総数×100

(注3)⑥回答率=事業所種別の④回答総数÷④回答総数合計数×100

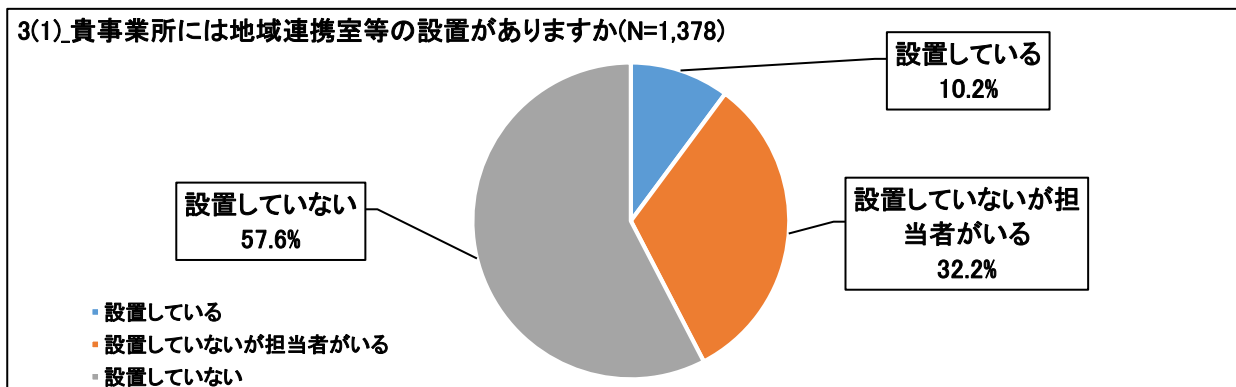
(注4)事業所種別23介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の施設数は28箇所(ユニット数は32)

2 回答者の職種名についてお伺いします。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)

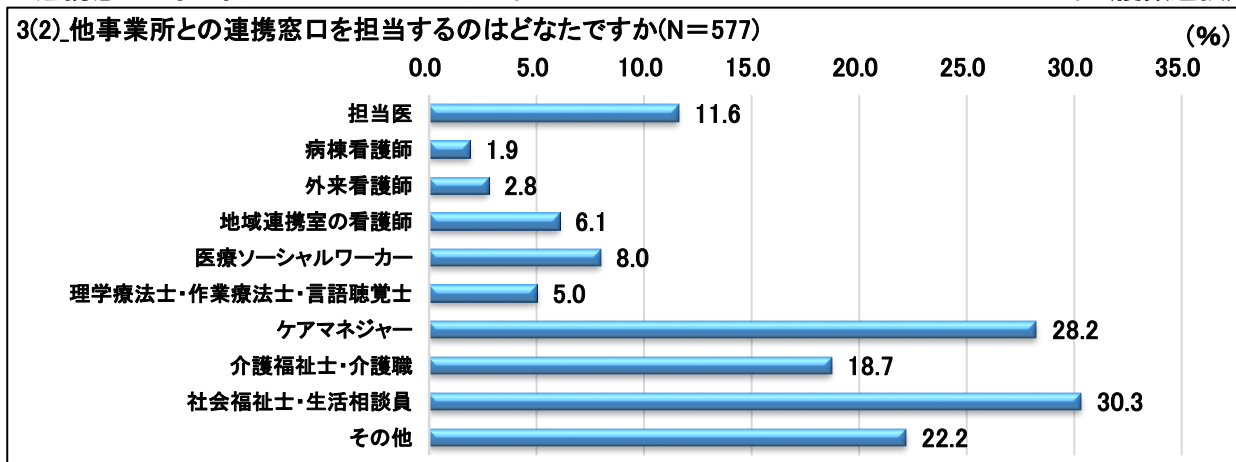


(※その他の回答職種:施設長、管理者、代表取締役、福祉用具専門相談員、福祉用具プランナー・福祉住環境コーディネーター等)

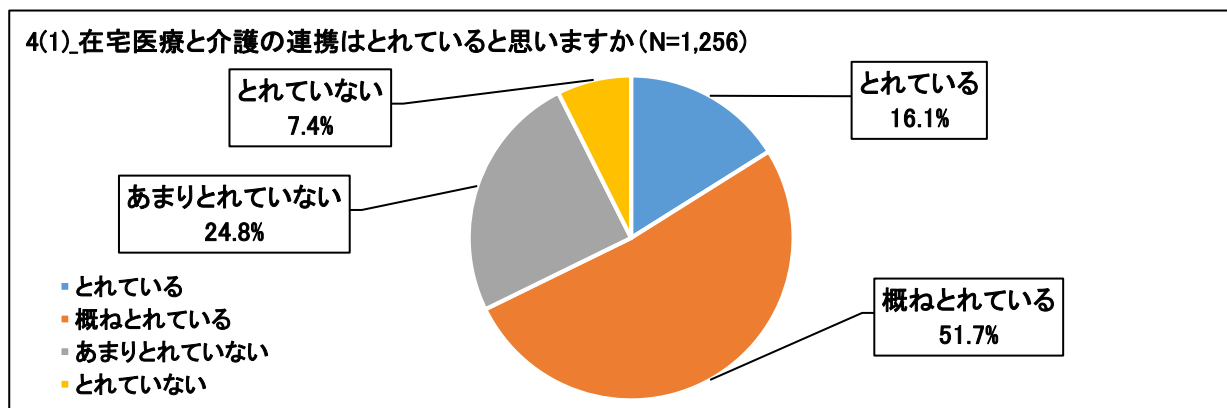
3-(1) 貴事業所には地域連携室等(他事業所との連携窓口となる部署)の設置がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



3-(2) 3-(1)で「①設置している」、「②設置していないが担当者がいる」と答えた方、他事業所との連携窓口を担当するのはどなたですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



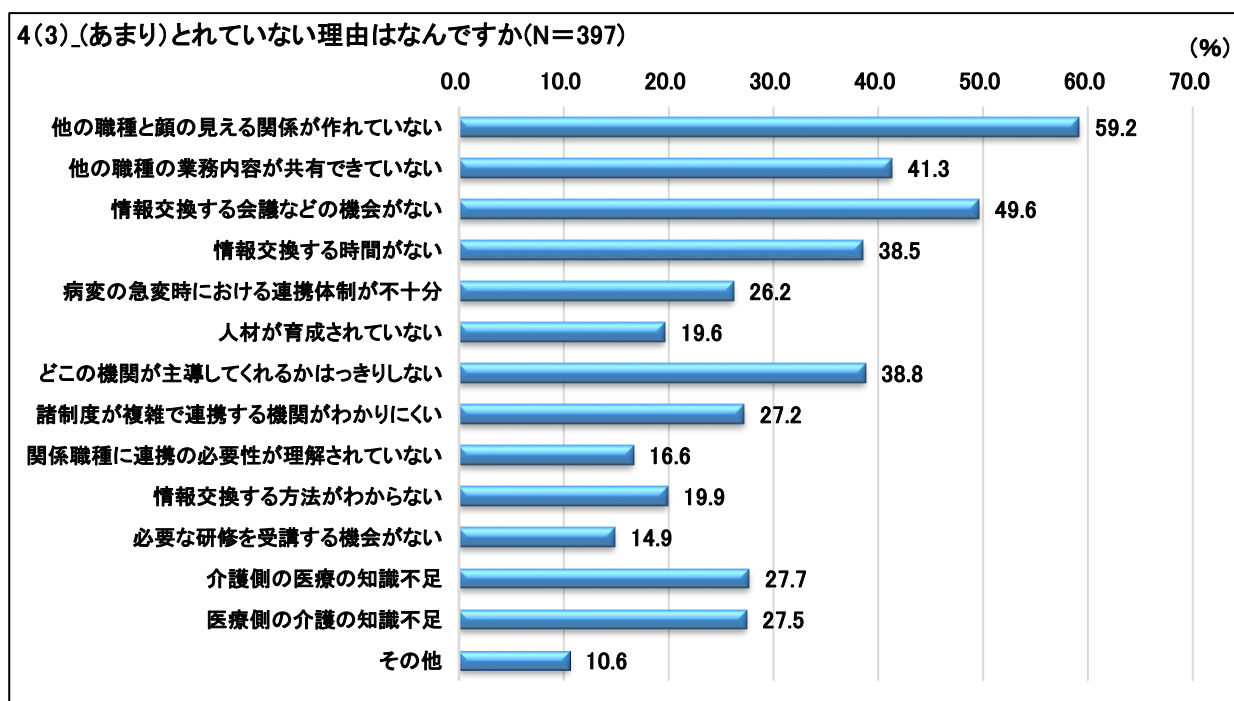
4- (1) 全体的に在宅医療と介護の連携はとれていると思いますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。(1つ選択)



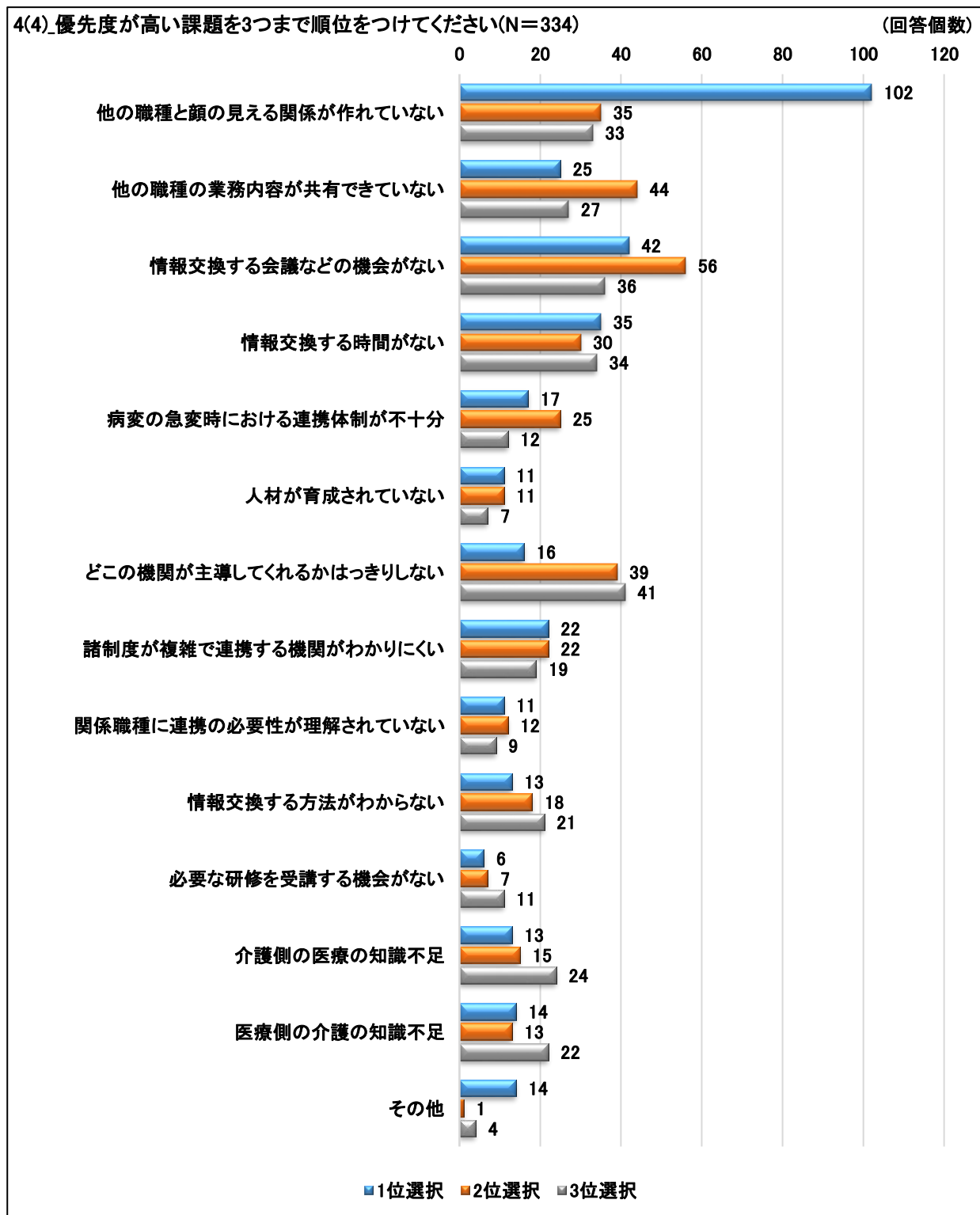
4- (2) 4- (1) で「①とれている」、「②概ねとれている」と答えた方、選択した理由や連携の状況を具体的に記入してください。

- ・入退院時にケアマネ等との情報交換（連携シートや電話連絡）、退院前カンファレンスを行っている（病院）
- ・ケアマネや訪問看護、包括等と連携している（診療所、薬局、訪問看護）
- ・担当会議での情報交換や、随時電話や文書で情報共有をしている（訪問看護）
- ・多職種連携会議、地域ケア会議、医療介護ネットワーク会議等に参加している（薬局）
- ・ケアマネを通して情報共有を図っている（歯科、訪問看護、介護事業所）
- ・定期的な往診がある（GH、有料老人ホーム）

4- (3) 4- (1) で「③あまりとれていない」、「④とれていない」と答えた方、理由は何だと思えますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



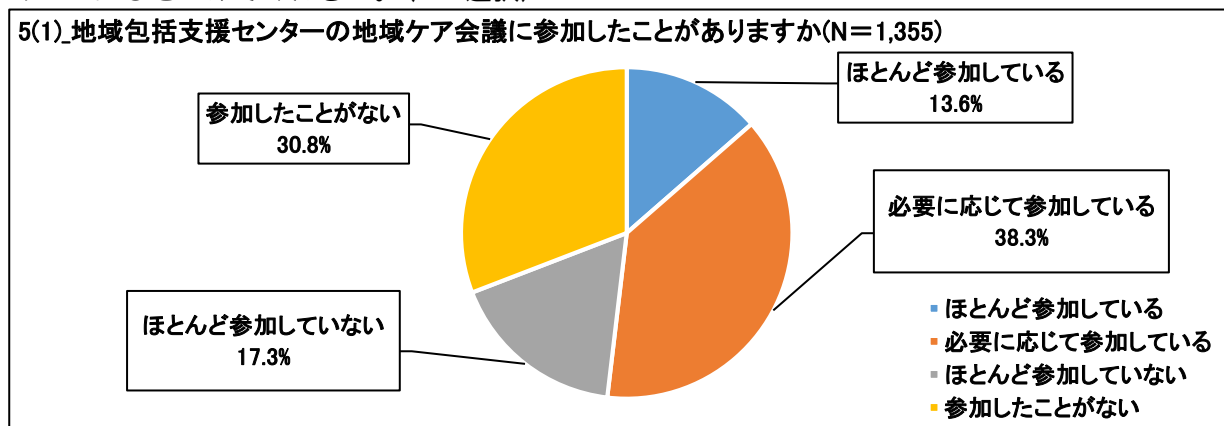
4-(4) また、その中でも優先度が高い課題を3つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(3位まで選択)



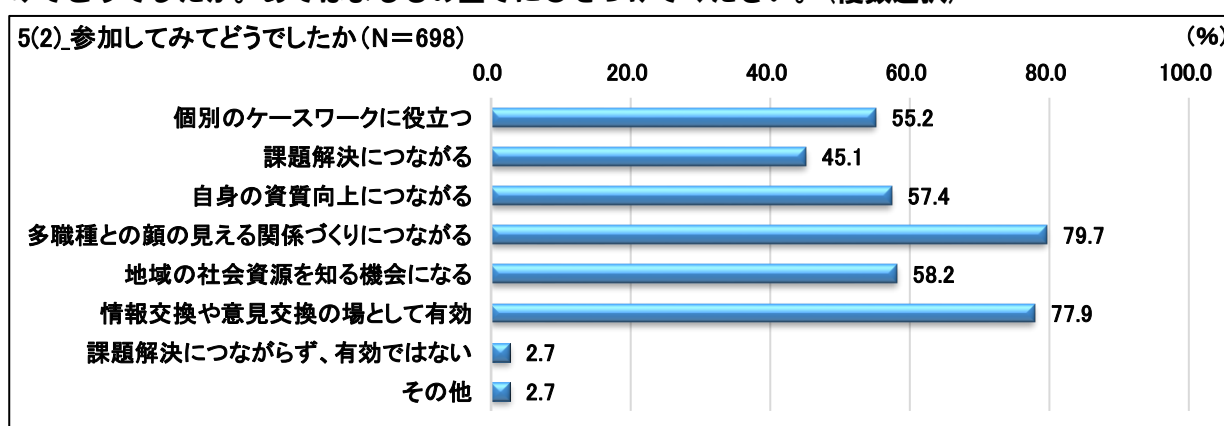
優先順位の具体的状況

- ・業務の都合上、連携会議等に出席できない(診療所、歯科、薬局)
- ・情報交換する機会が少ない、減った(居宅、小規模、通所介護、ショートステイ)
- ・他職種の業務内容を把握できていない、互いの職種を理解しあうことが重要(訪問看護、訪問介護)
- ・多職種との接点がない、ケアマネを通しての情報共有のみ(薬局、訪問介護、通所介護、通所リハ)

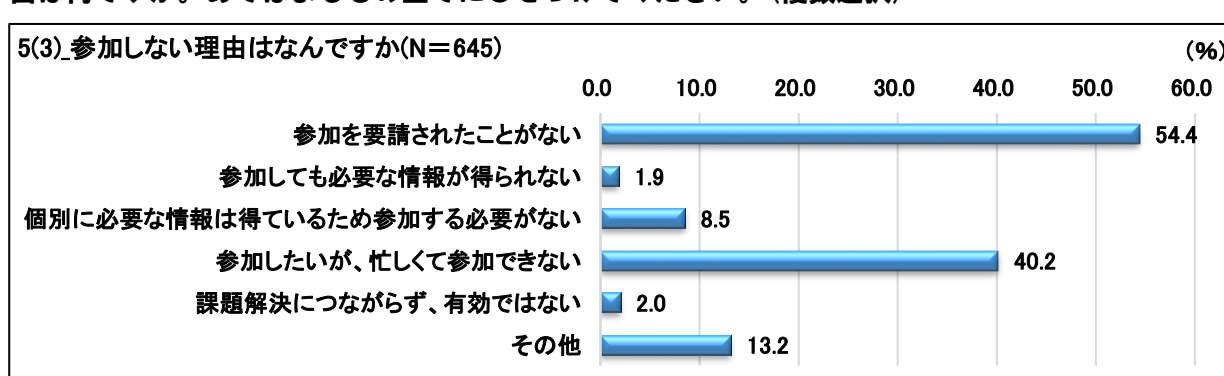
5- (1) 地域包括支援センターが開催している地域ケア会議に参加したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



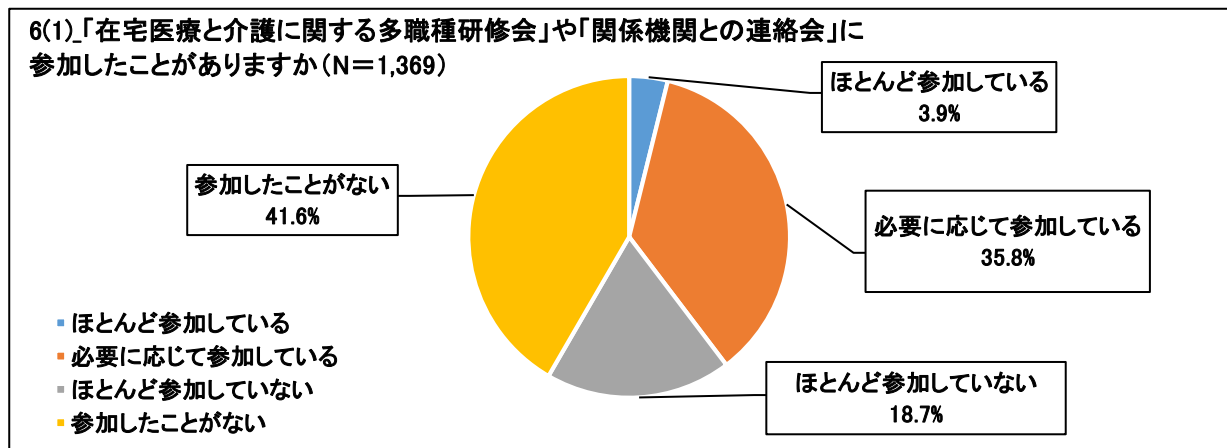
5- (2) 5- (1) で「①ほとんど参加している」、「②必要に応じて参加している」と答えた方、参加してみようでしたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



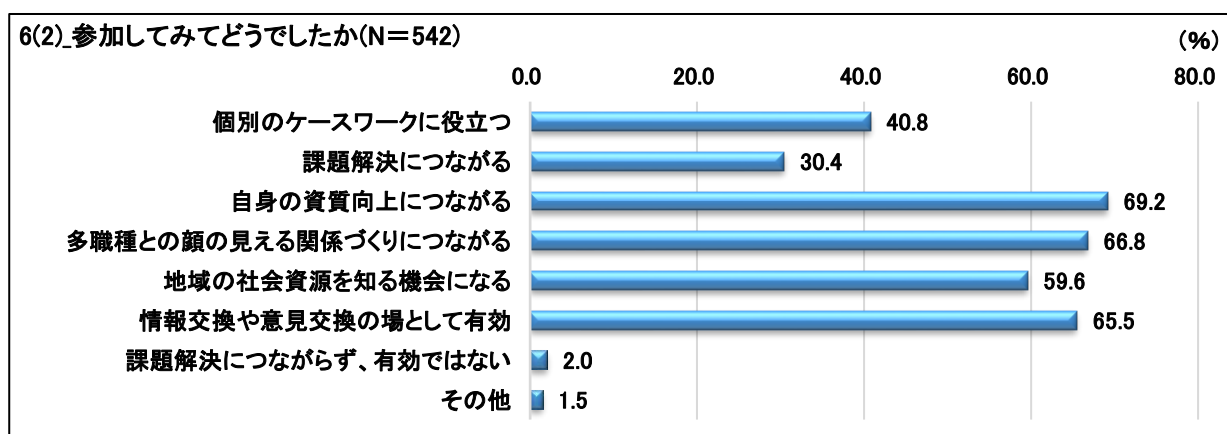
5- (3) 5- (1) で「③ほとんど参加していない」、「④参加したことがない」と答えた方、参加しない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



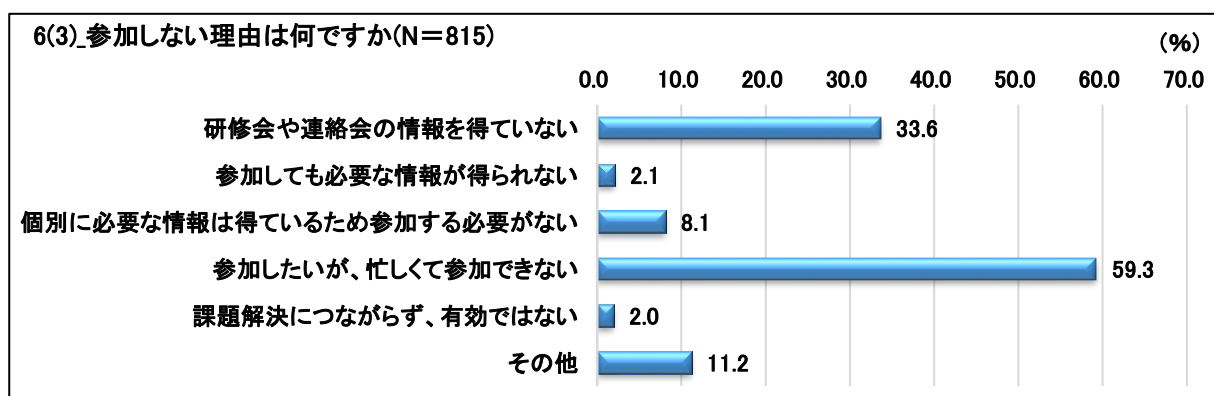
6- (1) 長崎市や包括ケアまちななかラウンジが開催する「在宅医療と介護に関する多職種研修会」や地域包括支援センターが開催する「関係機関との連絡会」に参加したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



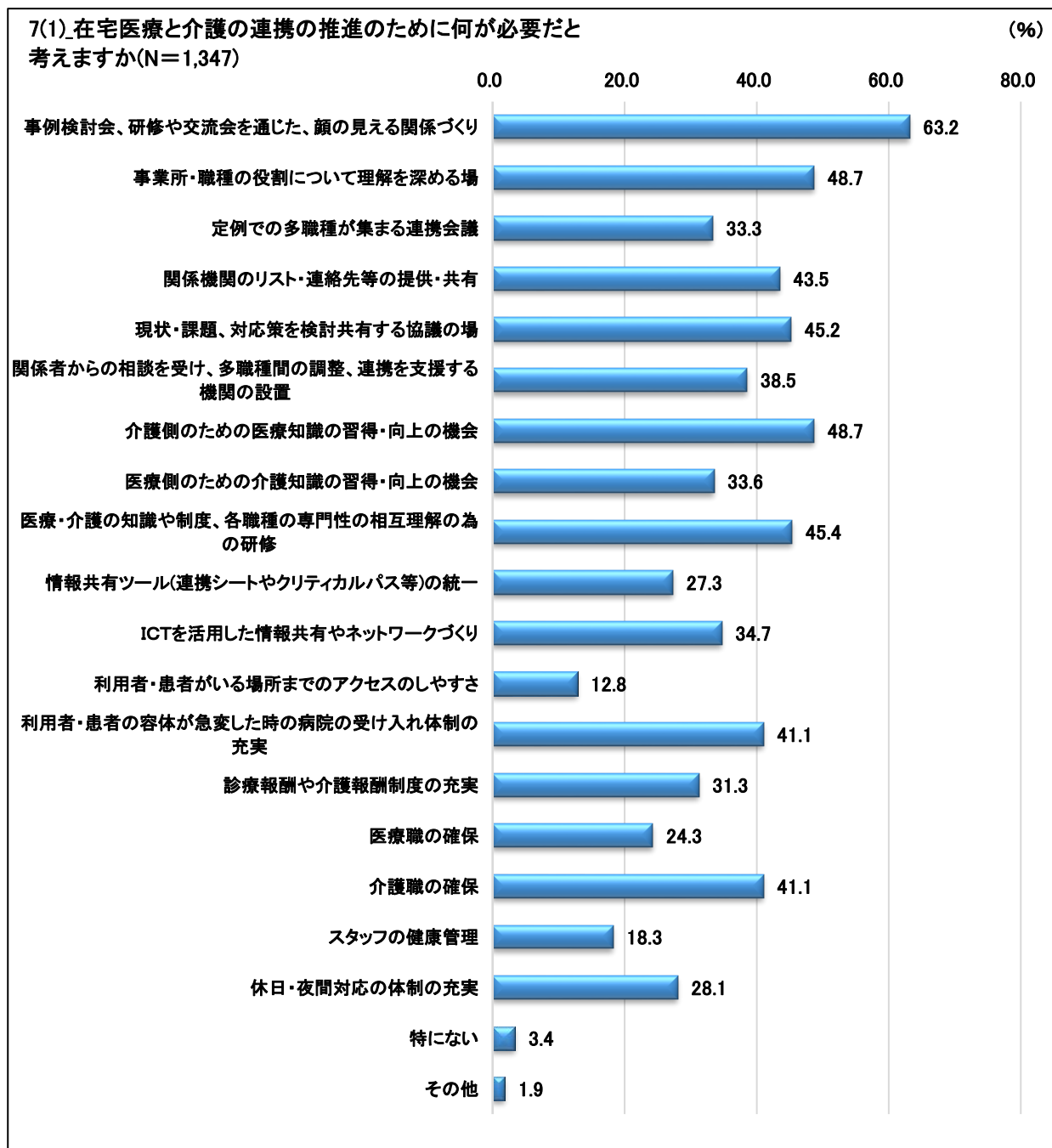
6- (2) 6- (1) で「①ほとんど参加している」、「②必要に応じて参加している」と答えた方、参加してみてどうでしたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



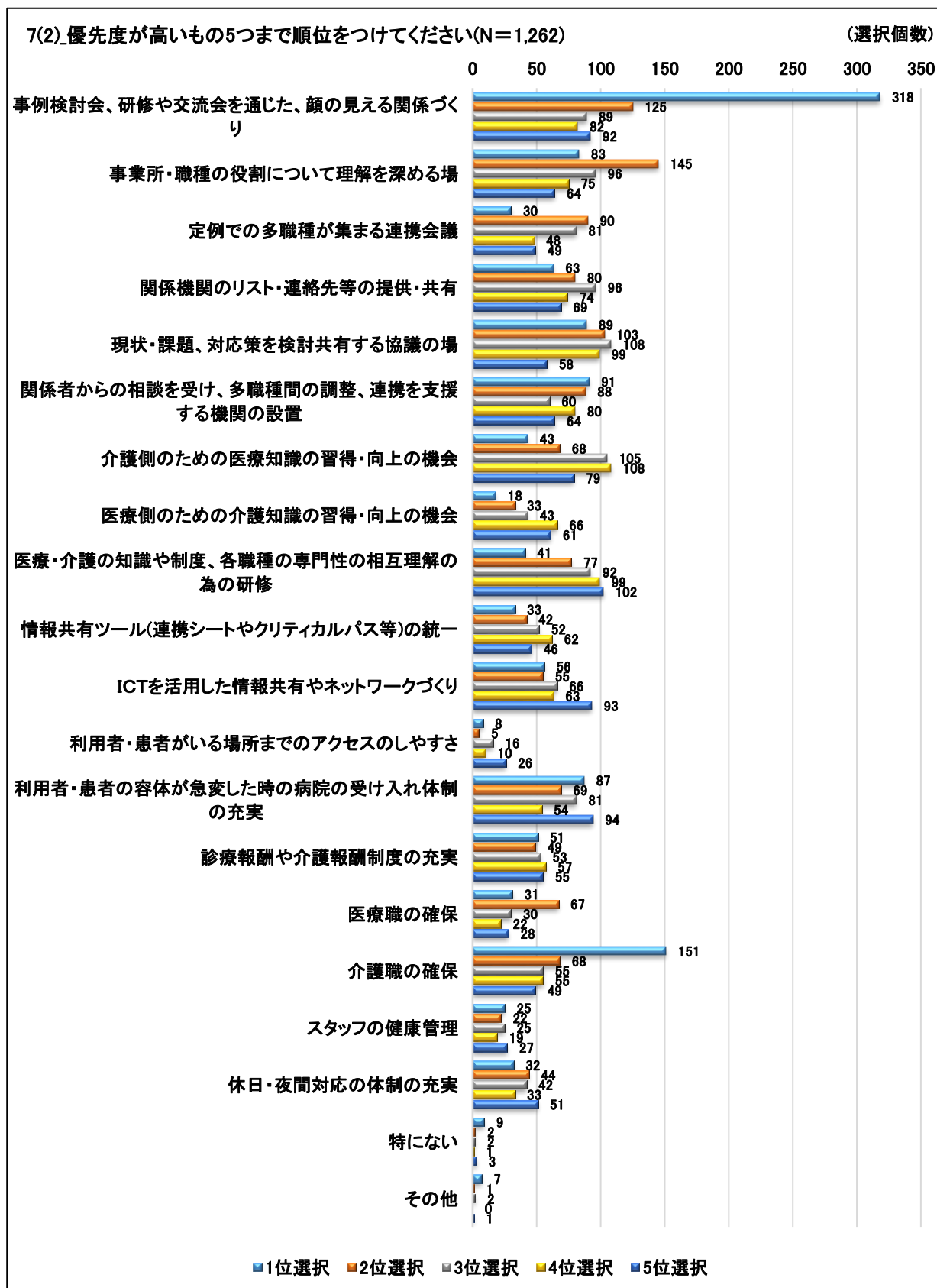
6- (3) 6- (1) で「③ほとんど参加していない」、「④参加したことがない」と答えた方、参加しない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



7-(1) 在宅医療と介護の連携の推進のために何が必要だと考えますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



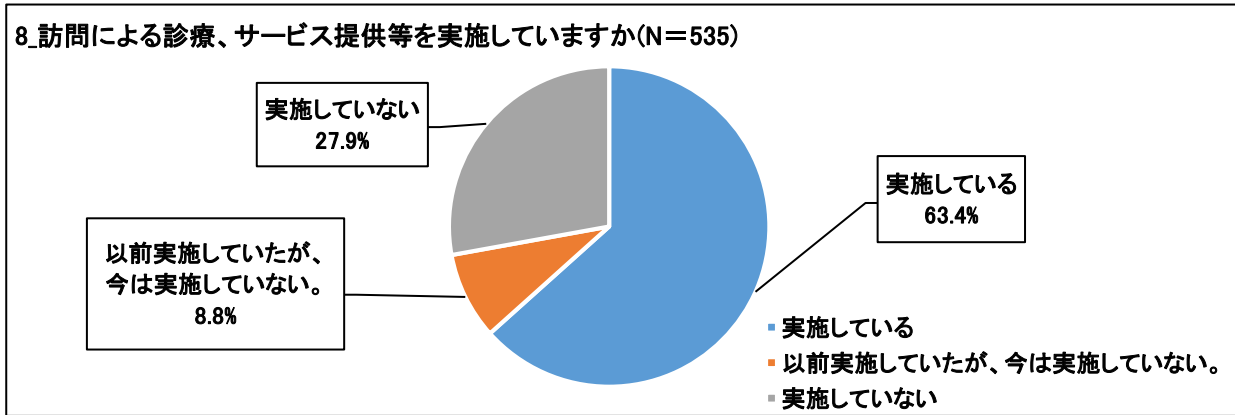
7-(2) また、その中でも優先度が高いものを5つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(5位まで選択)



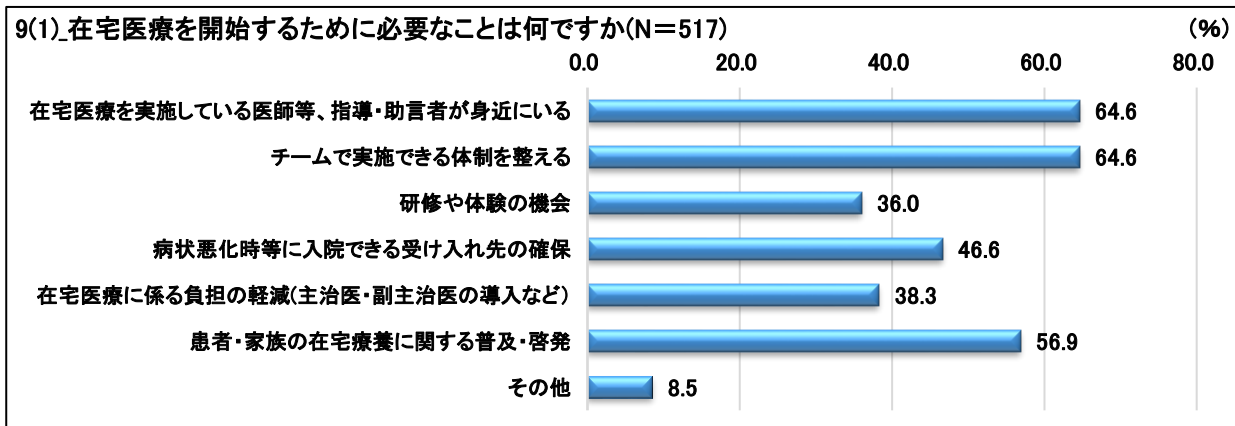
優先順位の課題の具体的な状況

- ・顔の見える関係ができれば相談しやすくなる、問題の解決につながる（診療所、薬局、居宅）
- ・事例検討会や研修など定例的な多職種の情報交換の場（病院、診療所、薬局、包括、居宅）
- ・介護スタッフ不足（居宅、通所介護、特養、小規模、短期入所、老健、GH、診療所、薬局）
- ・連携を深めるためには互いの職種内容を理解する必要がある（病院、薬局、包括、居宅、訪問介護）

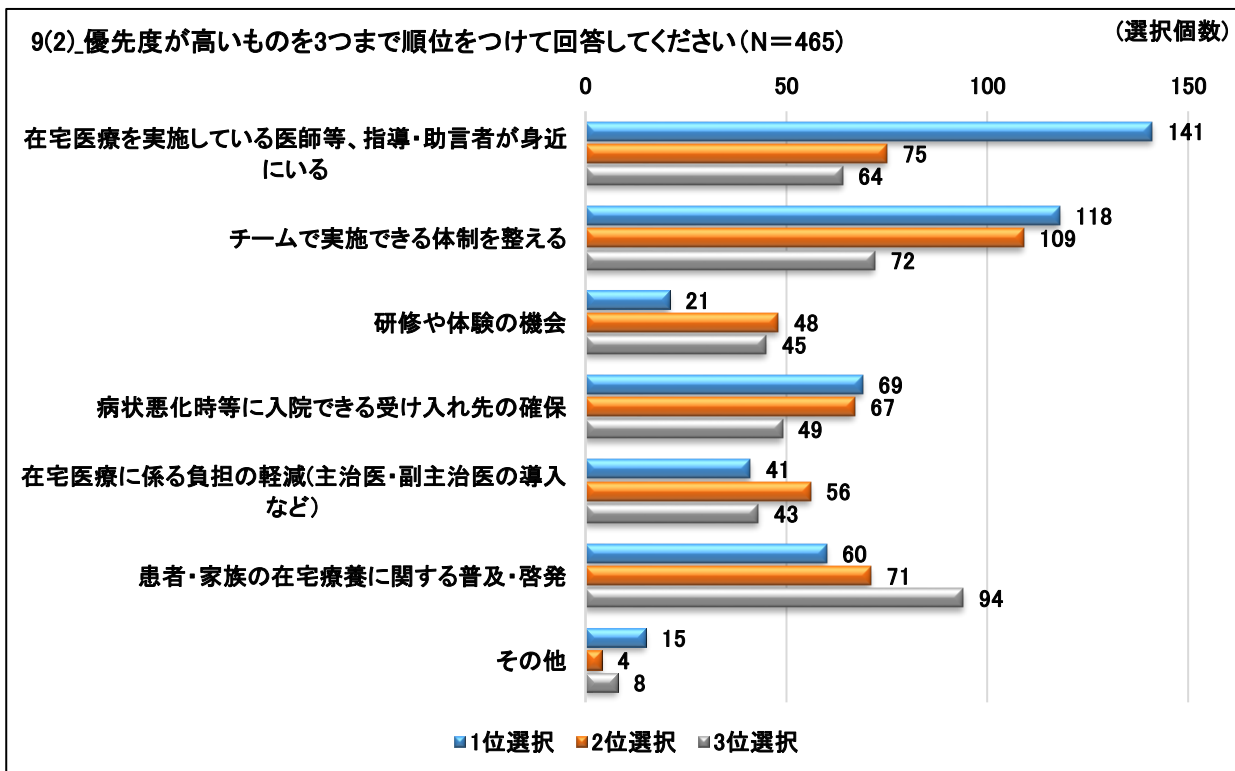
8 病院・診療所・歯科診療所・薬局にお伺いします。貴事業所では、訪問による診療、サービス提供等を実施していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



9-（1）病院・診療所・歯科診療所・薬局にお伺いします。在宅医療を開始するために必要なことは何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）



9-（2）また、その中でも優先度が高いものを3つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。（3位まで選択）



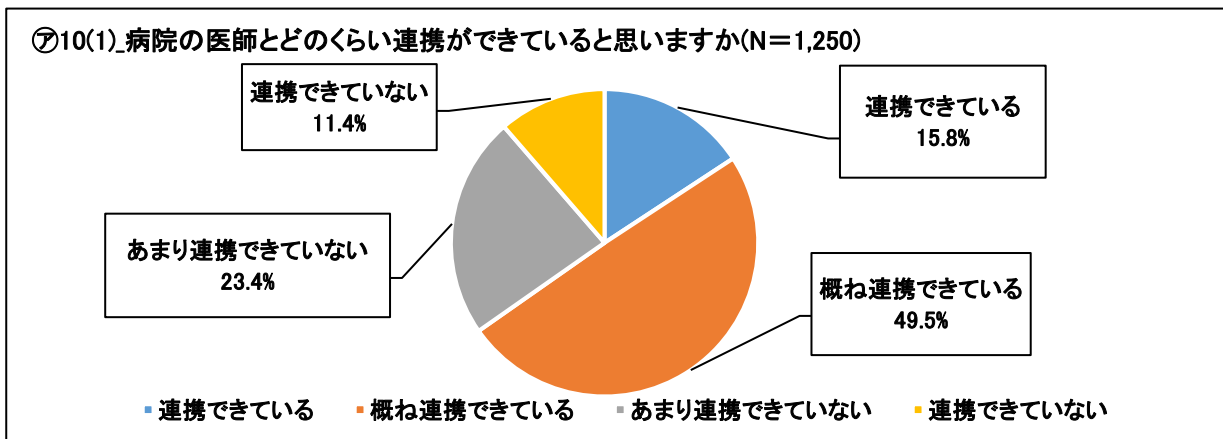
優先順位の具体的状況

- ・経験が必要となるため周囲の助言が不可欠（診療所、薬局）
- ・在宅で患者を支えるためにチームでの役割分担が重要（病院、診療所）
- ・急変時の受け入れ策がはっきりしていれば、在宅医療が行いやすい（病院、診療所）
- ・自宅での療養が可能であること、在宅医療の啓発が必要（診療所、歯科、薬局）
- ・在宅医療は患者や家族の理解・協力が不可欠（診療所）
- ・主介護者は家族であり、チームで患者や家族を支える（診療所）
- ・医療職・介護職の負担の軽減（病院、診療所）

日常の療養支援に関する調査票

ア 病院の医師との連携

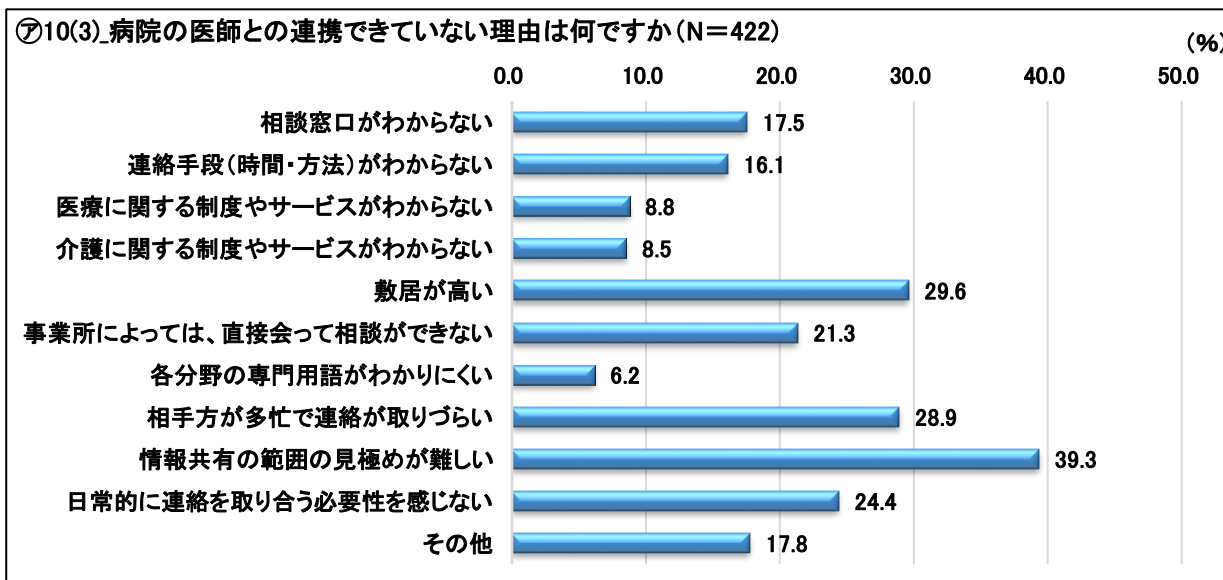
10- (1) ア 病院の医師との連携について、どのくらい連携ができていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・ 文書、電話、メール等で連絡を取っている (歯科・薬局・居宅)
- ・ 退院前カンファレンスや病院主催の研修会等に積極的に参加し連携している (診療所・薬局)
- ・ 毎月の報告書、指示受け等、あじさいネット、電話、メール等を使い連携している (訪問看護)
- ・ 地域連携室を通し連携している (訪問リハ・包括・居宅・小規模多機能)
- ・ ケアマネジャーを通し連携している (訪問介護・通所介護・定期巡回)
- ・ 嘱託医や協力病院とは定期的な往診もあり連携できている (特養・GH)

10- (3) ア 病院の医師との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

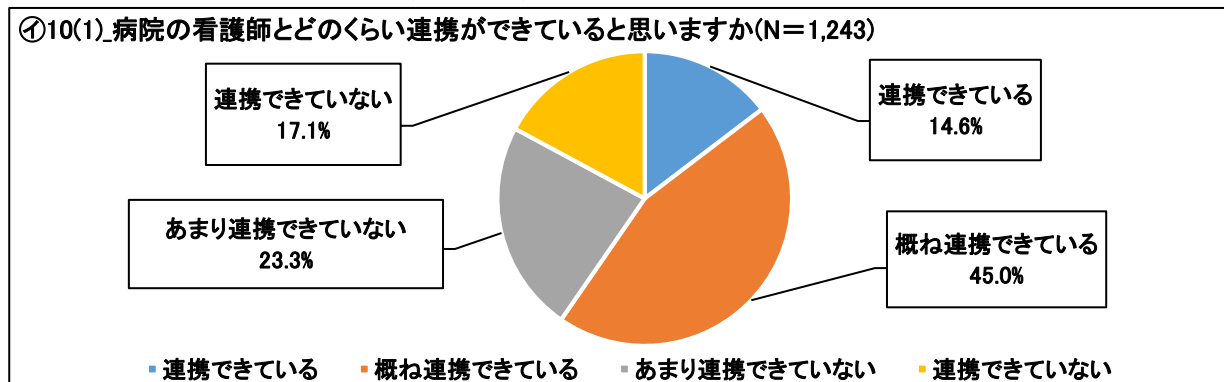


10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入してください。

- ・ 必要性を感じず、どう連携を取ればよいかわからない (歯科)
- ・ 大きな病院はいつ・どこに連絡をしてよいかわからない (歯科・薬局・訪問看護)
- ・ 敷居が高く多忙なので連絡するのが申し訳ないと感じる (居宅)
- ・ 介護側から連絡を行うことは医療知識がないことから負担と感じる (小規模多機能・通所介護)
- ・ 医師と情報交換を行う場がない (訪問介護)
- ・ カンファレンス等の会議以外ではうまく情報共有できていない (訪問リハ)

①病院の看護師との連携

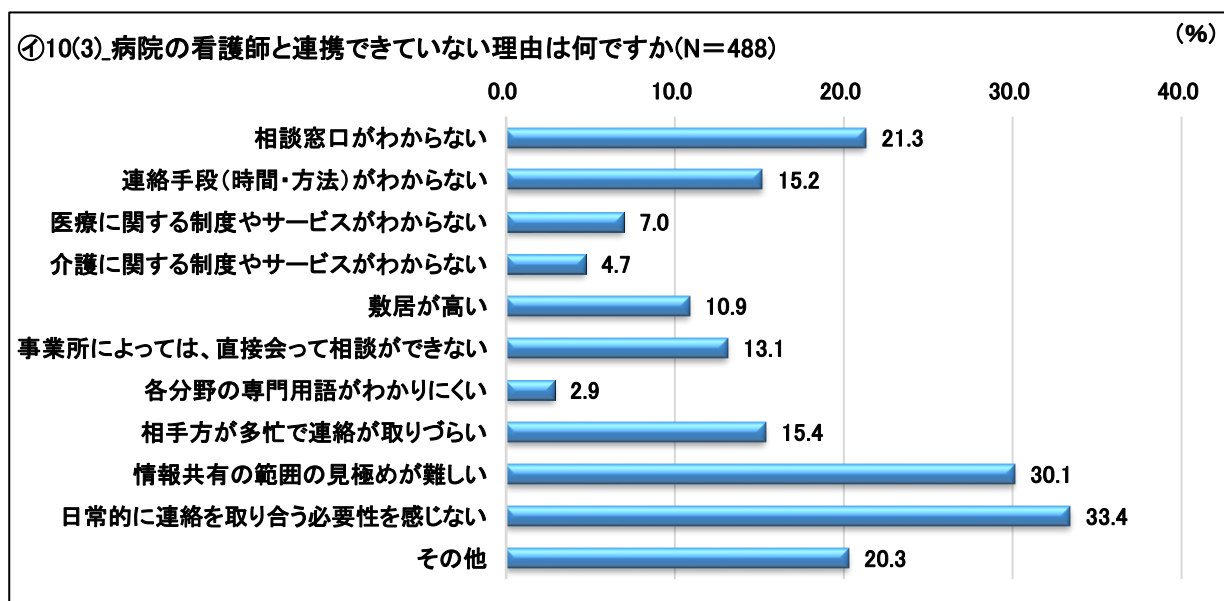
10- (1) ①病院の看護師との連携について、どのくらい連携ができていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・連携室の看護師を通し随時連絡や情報共有を行っている（診療所・居宅）
- ・情報提供書や電話で必要な情報はやりとりしている（歯科・薬局）
- ・退院前カンファレンスやサマリーでやりとりしている（訪問看護・小規模多機能）
- ・連携室の看護師とは連携がとりやすく、主治医との仲介役になってくれるので助かる（居宅）
- ・入退院時に病状やケアの方法について情報交換し、必要時も電話相談等できている（GH・特養）

10- (3) ①病院の看護師との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

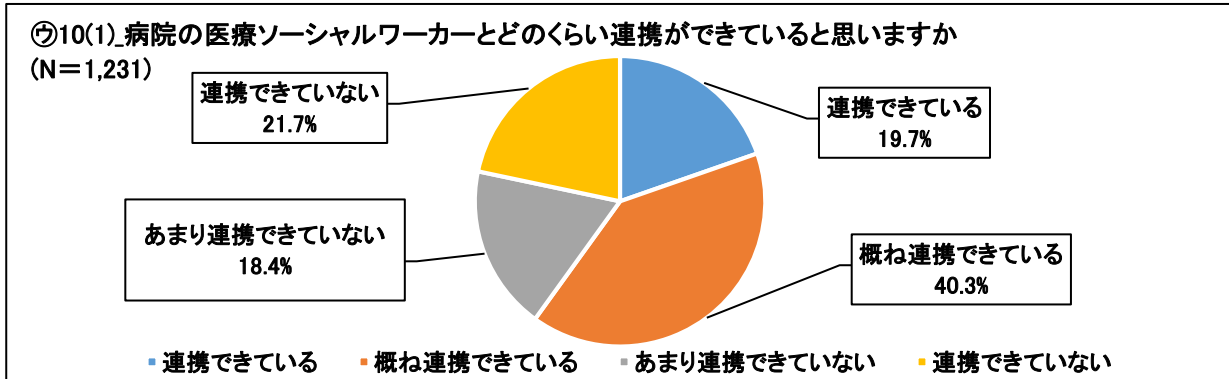


10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入してください。

- ・医師同士又は訪問看護師と連絡をとっている（診療所）
- ・疑義照会以外どのような場合に連携して良いかわからない（薬局）
- ・病棟看護師との連携が難しい。在宅でのイメージが共有できていないと感じる。（訪問看護）
- ・多忙そうで敷居が高く情報をもらいにくい。看護師よりソーシャルワーカーとの連携が多い。（居宅）
- ・ケアマネジャーを介して情報共有している（定期巡回・訪問介護・通所介護）
- ・医師同士でやりとりしているので連携する機会がない（老健・ケアハウス・有料老人ホーム）

㊦病院の医療ソーシャルワーカーとの連携

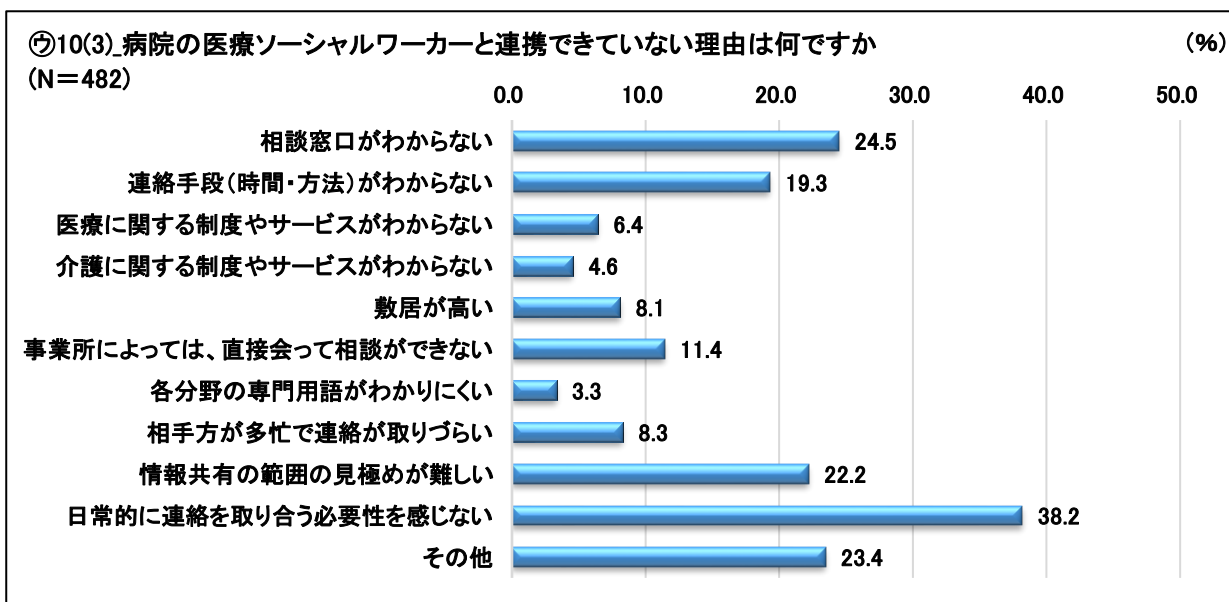
10- (1) ㊦病院の医療ソーシャルワーカーとの連携について、どのくらい連携ができていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・連携室の窓口として退院後の在宅の視点を持ち相談・支援してくれる（診療所・薬局・訪問看護・包括・居宅・福祉用具）
- ・診療情報や電話等でやりとりしている（歯科）
- ・入院時情報連携シートを活用し連携している（居宅）
- ・入退院時、施設受入時の調整・情報交換を行っている（短期入所・特養・有料老人ホーム・GH）
- ・医師や病棟との橋渡しをしてくれている（有料老人ホーム）

10- (3) ㊦病院の医療ソーシャルワーカーとの連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

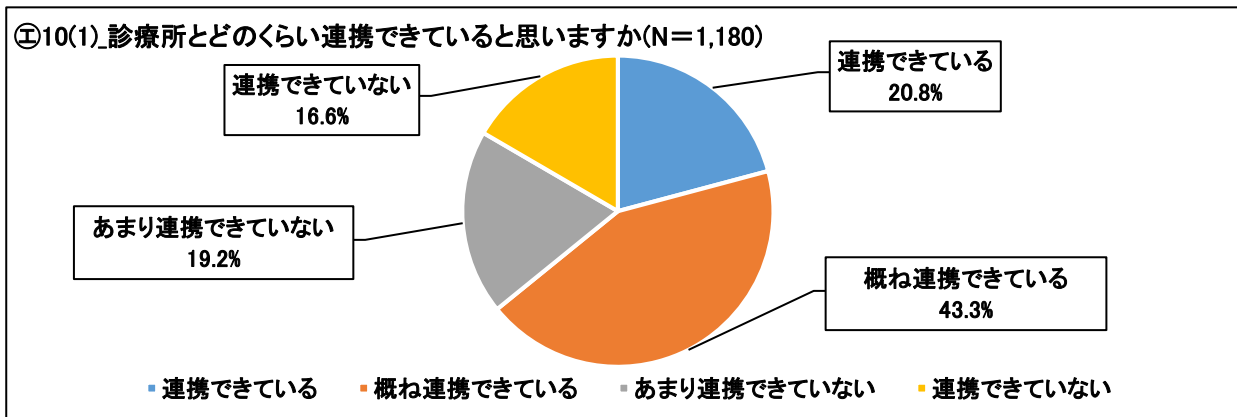


10- (4) 連携できていない具体的な状況を記入してください。

- ・必要性を感じない（診療所・歯科・薬局）
- ・具体的な業務内容を知らず、連携の仕方がわからない。（薬局）
- ・ケアマネジャーとの連携が主である（訪問看護・訪問介護・通所介護）

⑤診療所との連携

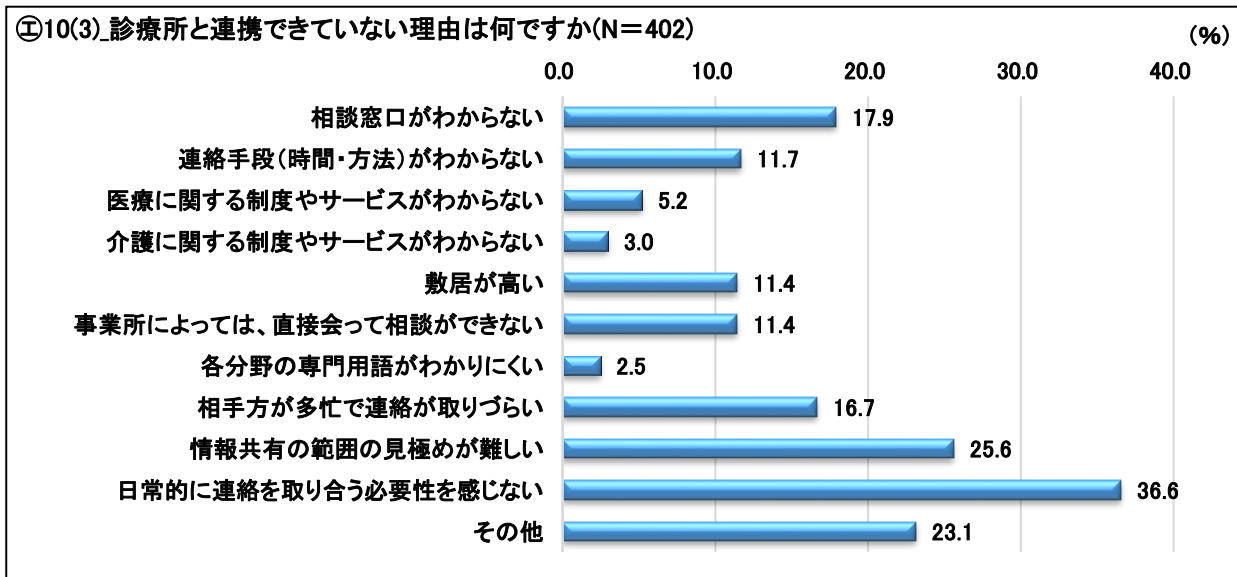
10- (1) ⑤診療所との連携について、どのくらい連携ができていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・連携室を通して連携はとれている（病院）
- ・診療情報提供書や必要時電話等で情報共有している（歯科・老健）
- ・疑義照会や在宅訪問時の状況等、よく連絡を取り合っている（薬局）
- ・大きな病院よりは敷居が低く顔の見える関係が作りやすい（薬局・訪問看護・定期巡回）
- ・嘱託医、協力医の定期的な往診や急変時の連絡体制もあり連携とれている（有料老人ホーム・GH・特養・サ高住）

10- (3) ⑤診療所との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

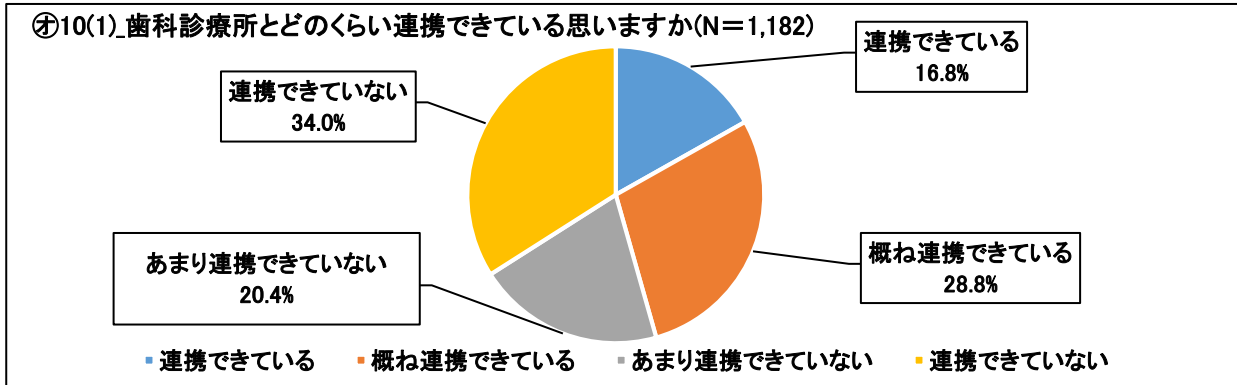


10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入してください。

- ・相談窓口や相談して良い時間帯がわからない（居宅・小規模・通所リハ）
- ・介護分野について十分理解が得られない場合がある（包括）
- ・会議や研修で会う機会が殆どない（包括）
- ・嘱託医、協力病院との連携が主である（短期入所・特養・GH）

④ 歯科診療所との連携

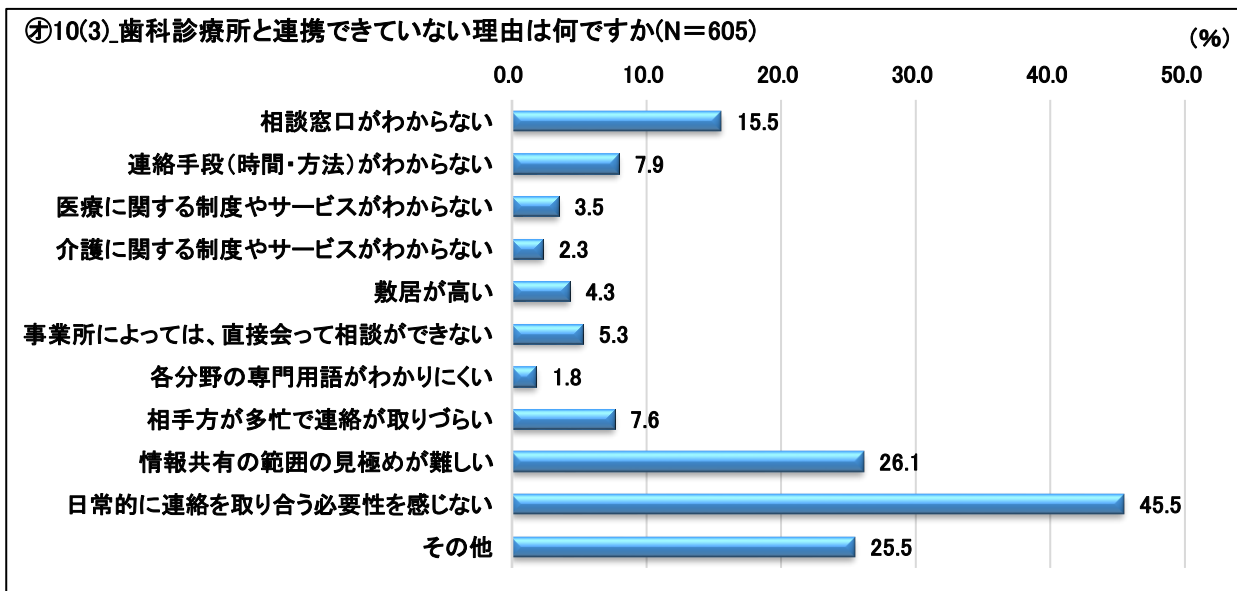
10- (1) ④ 歯科診療所との連携について、どのくらい連携ができていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・ 歯科医師会を通じて訪問診療の依頼をしている (病院)
- ・ 診療情報提供書にて情報共有している (診療所)
- ・ 疑義照会時に連絡をしている (薬局)
- ・ 歯科医師の訪問診療時に合わせて訪問し情報共有するよう努めている (訪問看護)
- ・ 地域ケア会議や他会議を通し連携している (包括)
- ・ 直接顔を合わせる機会をつくり、居宅療養管理指導の相談・依頼をするなど連携している (居宅)
- ・ 協力歯科医療機関があり定期的な訪問・相談ができている (定期巡回・小規模多機能・短期入所・特養・老健・有料老人ホーム・GH)

10- (3) ④ 歯科診療所との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

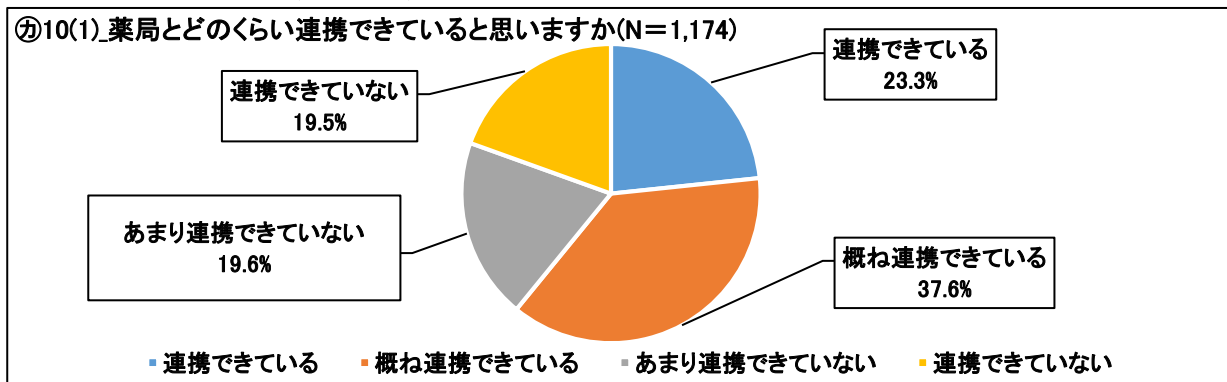


10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入してください。

- ・ 治療時には依頼できているが、歯科予防の面では常日頃からの連携ができていない (居宅)
- ・ 歯科に課題があっても後回しになってしまう (病院)
- ・ 必要性を感じない (診療所・薬局)
- ・ 直接連携するケースは少ない (訪問看護・居宅)

㊦薬局との連携

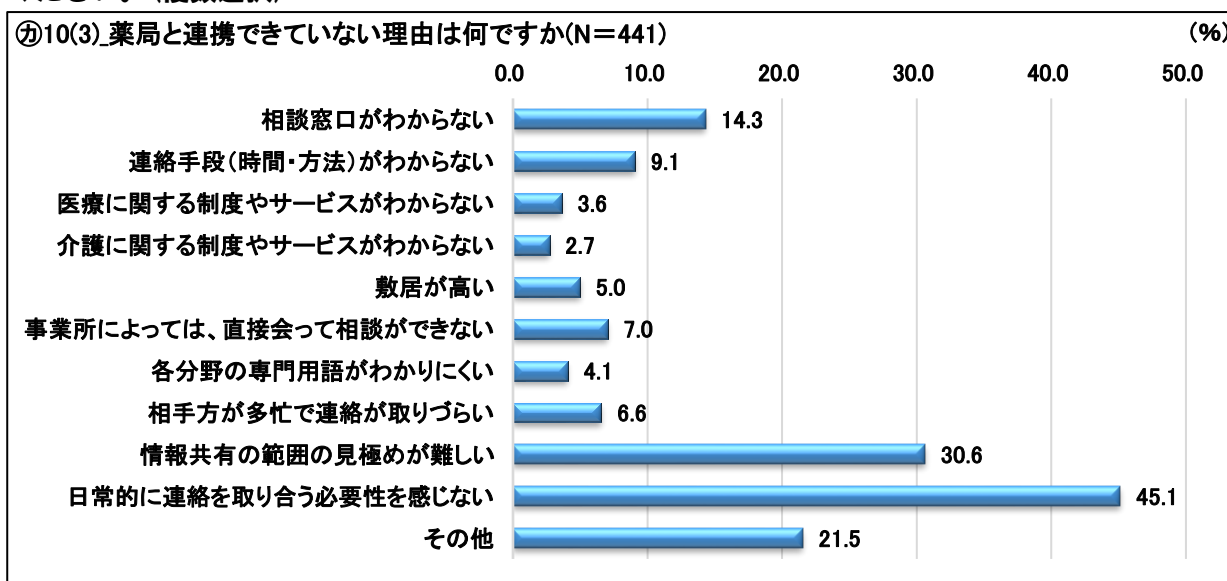
10- (1) ㊦薬局との連携について、どのくらい連携ができていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・会議等に積極的に参加いただき、ケースに対する気づき等も連絡してくれている（病院）
- ・病状に応じて一包化の相談や服薬管理等細目に連絡をとりあい調整している（診療所・訪問看護）
- ・ケア会議他会議等を通し相談しやすくなった（包括・居宅）
- ・在宅医療に力をいれている薬局が増えたため相談しやすい状況（居宅）
- ・施設での研修を開催し服薬方法や効能等の講義を受けている（特養・有料老人ホーム）

10- (3) 薬局との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

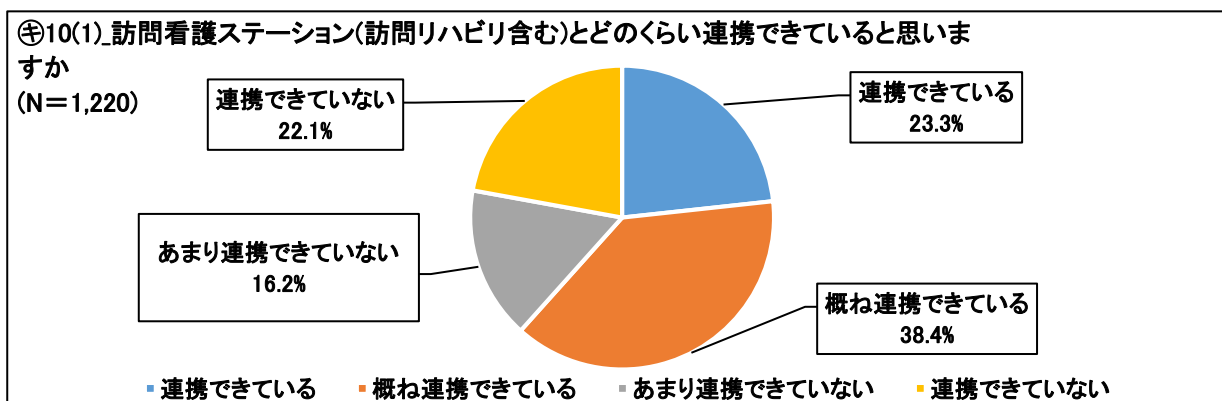


10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入してください。

- ・ケアマネジャーを介しての連携が主である（病院・訪問介護・通所介護・短期入所）
- ・連携の必要性を感じない（歯科）
- ・薬の確認は直接医師にすることが多い(居宅)

④訪問看護ステーション（訪問リハビリを含む）との連携

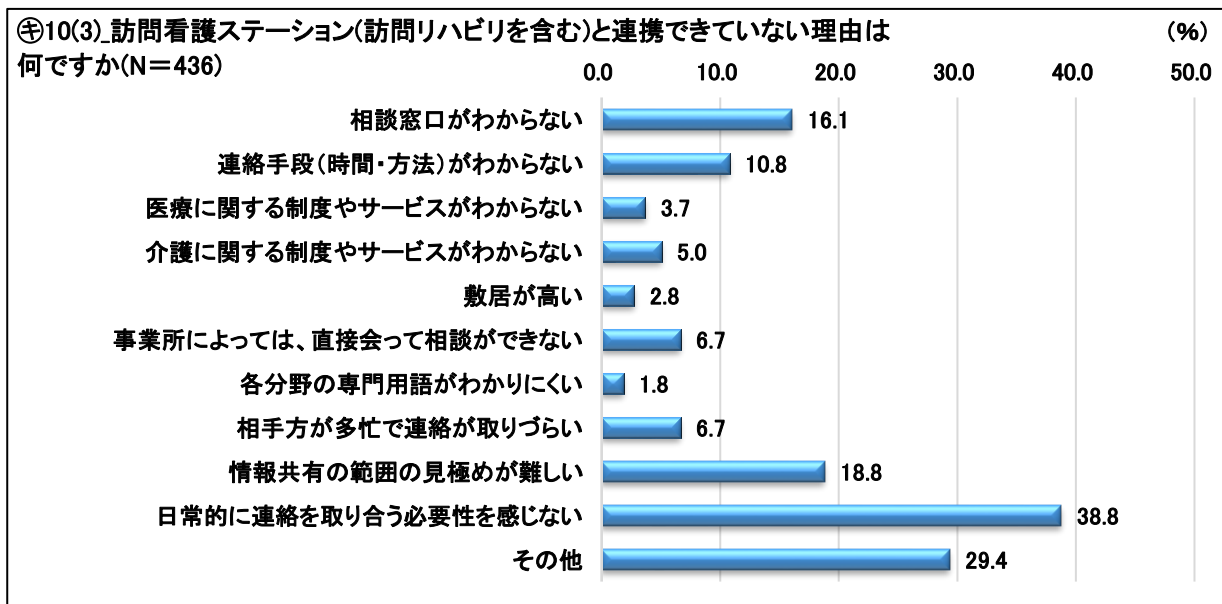
10-（1）④訪問看護ステーション（訪問リハビリを含む）との連携について、どのくらい連携ができていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



10-（2） 10-（1）で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・患者の状態に合わせてその都度細目に連絡をとりあっている（診療所・薬局・居宅）
- ・サービス担当者会議、カンファレンスを通し情報共有している（病院・訪問リハ・通所リハ・短期入所）
- ・介護側が苦手な医療面の相談やケアについてのアドバイスをもらっている（居宅・訪問介護・有料老人ホーム）
- ・情報共有ノートを活用し、デイ利用時や送迎時の様子で気になる点は報告・相談している（通所介護）
- ・定期訪問あり、24時間体制で連絡・相談できている（GH）

10-（3）④訪問看護ステーション（訪問リハビリを含む）との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

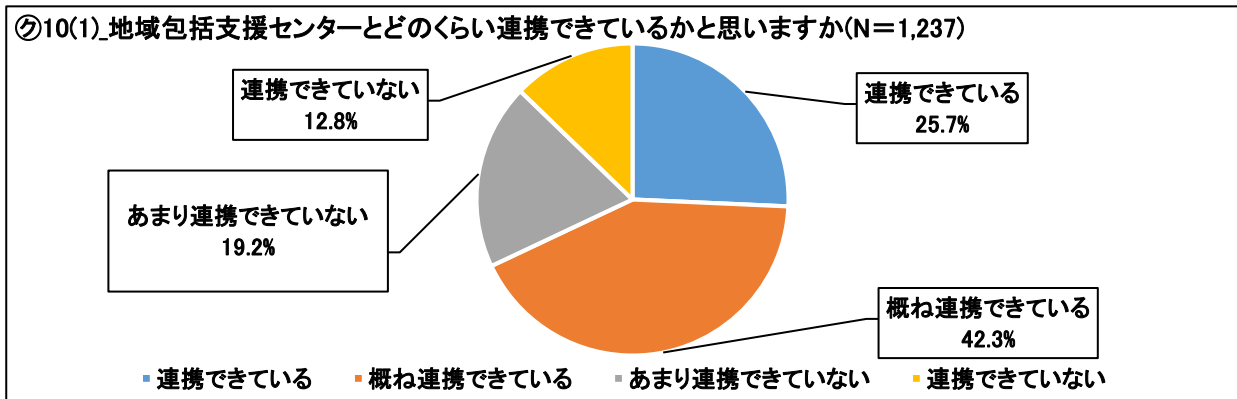


10-（4）連携ができていない具体的な状況を記入してください。

- ・事業所との情報共有の場がない（病院）
- ・お願いできる業務の範囲やどう連携して良いかがわからない（診療所・歯科・薬局）
- ・ケアマネジャーを通してなので直接の連携は少ない（訪問リハ・訪問介護・通所介護・短期入所）
- ・自所属に看護師やセラピストがいるため（通所介護・短期入所・特養・老健・GH・サ高住）

⑦地域包括支援センターとの連携

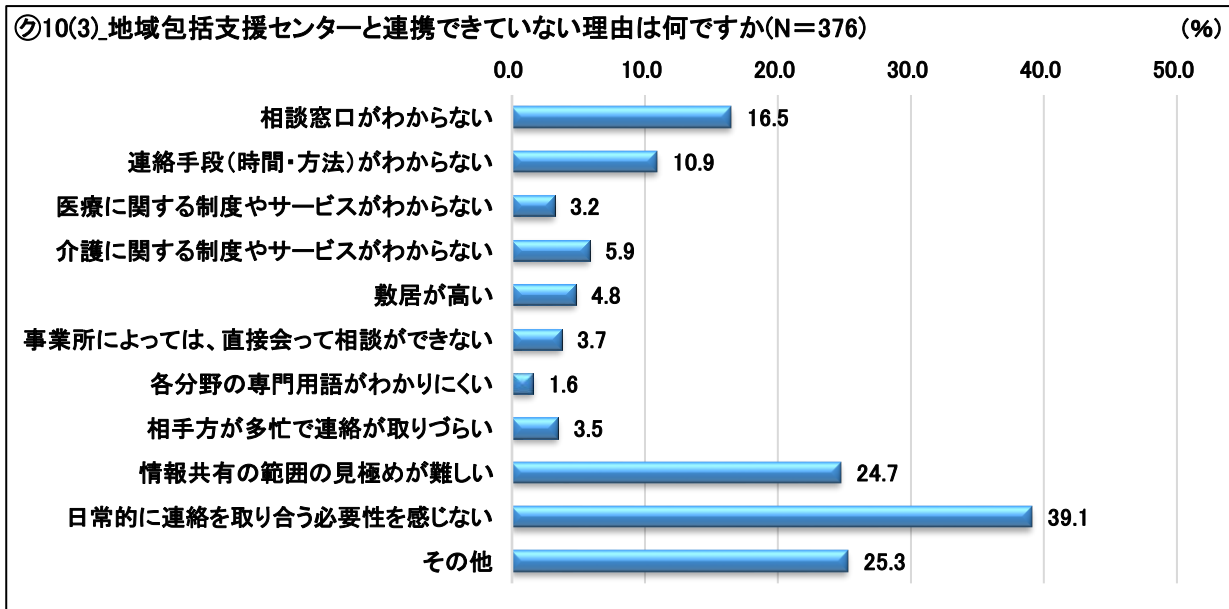
10- (1) ⑦地域包括支援センターとの連携について、どのくらい連携ができていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・入退院時の連絡、地域ケア会議、運営推進会議等で顔を合わせ関係づくりができている(病院・薬局・GH・短期入所・有料老人ホーム・特養)
- ・気になる患者さんがいたら包括につなぐようにしている(薬局)
- ・総合事業やサロン等につなげるため連絡・相談を行っている(訪問リハ・通所リハ)
- ・困難事例の相談や、地域での情報をこまめに提供してくれ、いつでも気軽に相談しやすい環境がある(診療所・訪問看護・訪問介護・居宅)

10- (3) ⑦地域包括支援センターとの連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

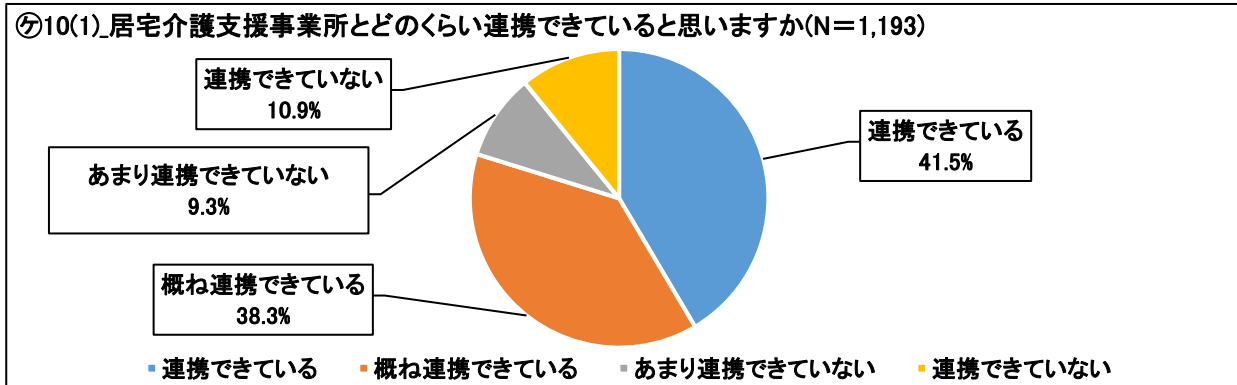


10- (4) 連携できていない具体的な状況を記入ください。

- ・どのようなことで連携して良いかわからない(歯科・有料老人ホーム・通所介護)
- ・人材不足のため自事業所の運営で手一杯(歯科・薬局)
- ・どのような役割を担っているのかわからない(歯科・GH)

④居宅介護支援事業所との連携

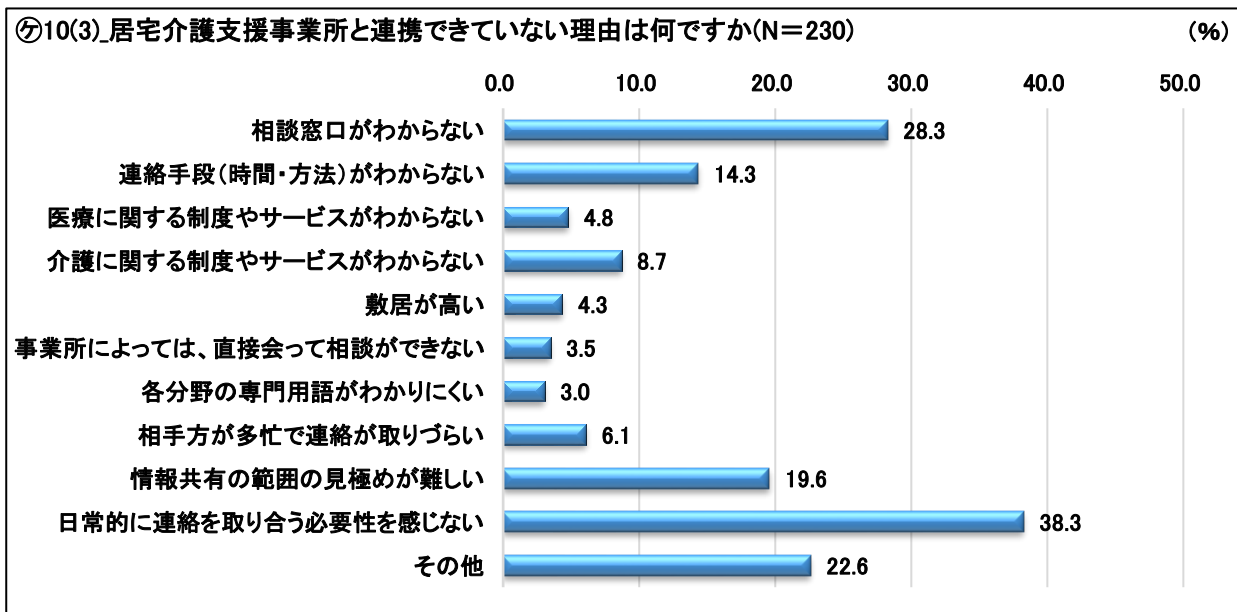
10- (1) ④居宅介護支援事業所との連携について、どのくらい連携ができていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・入退院時にカンファレンス、電話、書面等で情報共有をおこなっている（病院）
- ・地域ケア会議や他研修に参加し顔の見える関係づくりをしている（病院・訪問看護・包括）
- ・ケースの病状変化時等、必要時には随時連絡をとっている（診療所・薬局・訪問看護・包括・訪問介護・定期巡回・小規模多機能・通所介護・通所リハ・短期入所・福祉用具・特養・有料老人ホーム・ケアハウス・サ高住）

10- (3) ④居宅介護支援事業所との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

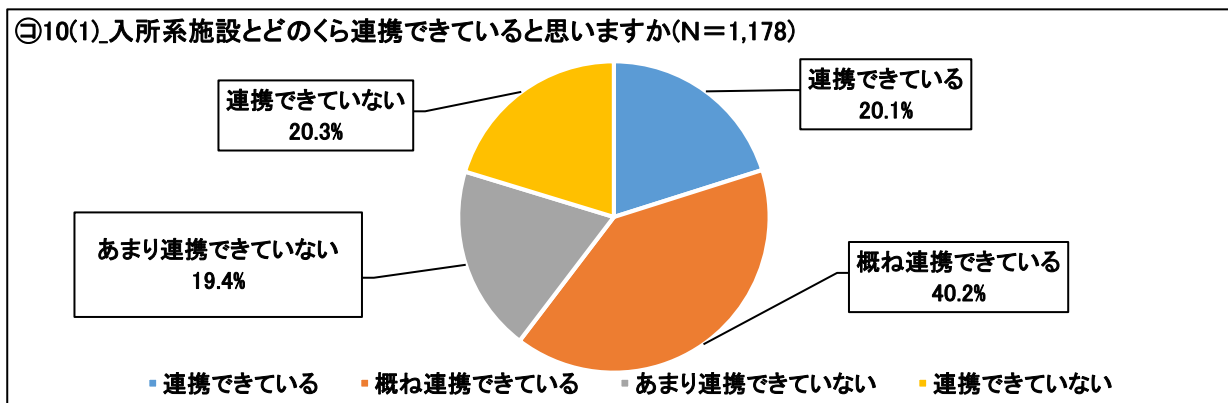


10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入ください。

- ・どのようなことで連携して良いかわからない（歯科・薬局）
- ・人材不足で自事業所の運営で手一杯（歯科・薬局）
- ・仕事の内容がわからない(薬局)

③入所系施設との連携

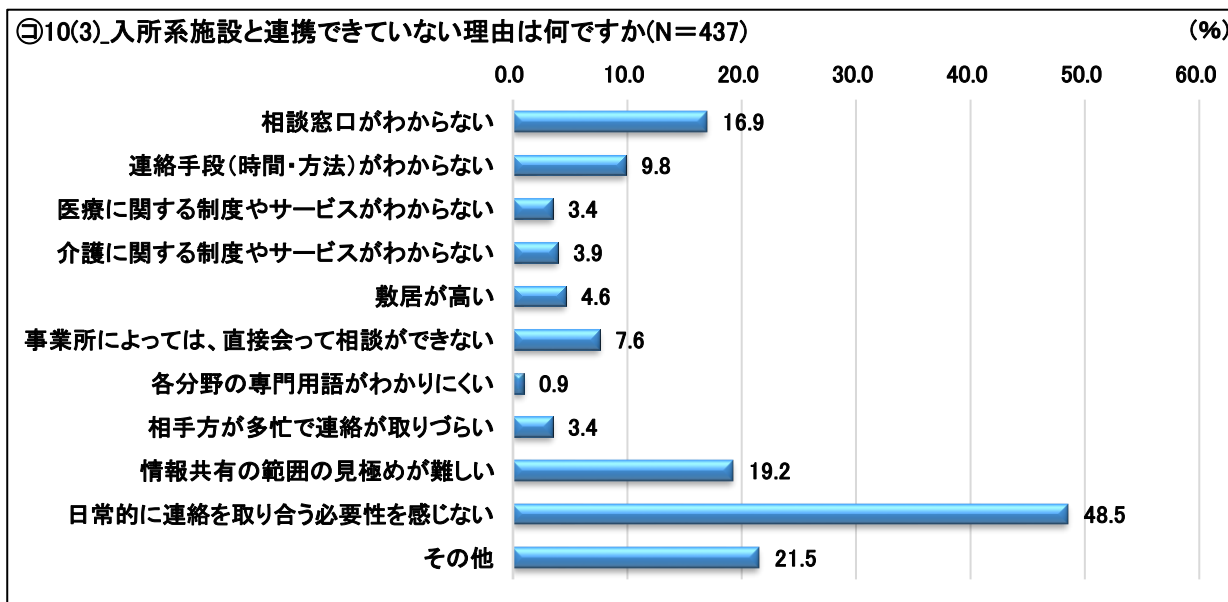
10- (1) ③入所系施設との連携について、どのくらい連携ができていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・ソーシャルワーカーを中心に、入退院時の連絡、連携シートの活用、来院・施設訪問の機会をつくる等し情報共有している（病院）
- ・診療情報提供書、電話等で必要時は連絡している（診療所）
- ・各施設に窓口となる口腔院が配置され定期的な会議や往診、必要時の連絡をしている（歯科）
- ・薬の形状や服薬管理等に関し定期的に情報交換を行っている（薬局）
- ・病状変化や医療機器やケアについて訪問し話や指導をしている（訪問看護）
- ・運営推進会議、地域ケア会議等で地域課題の共有を行っている（包括）
- ・入所、退所時等その都度情報共有しシームレスな生活の継続に心がけている（居宅）

10- (3) ③入所系施設との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

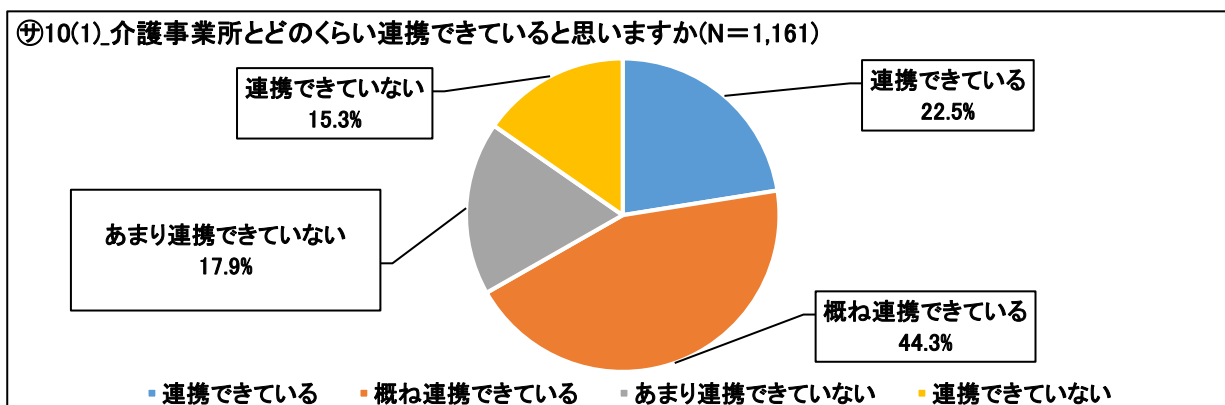


10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入ください。

- ・嘱託医がいるので関わる事が無い（診療所）
- ・施設の種類、制度がわからない(歯科・薬局)
- ・ケアマネジャーを介してなので直接連携することは少ない（通所介護）

㊦介護事業所との連携

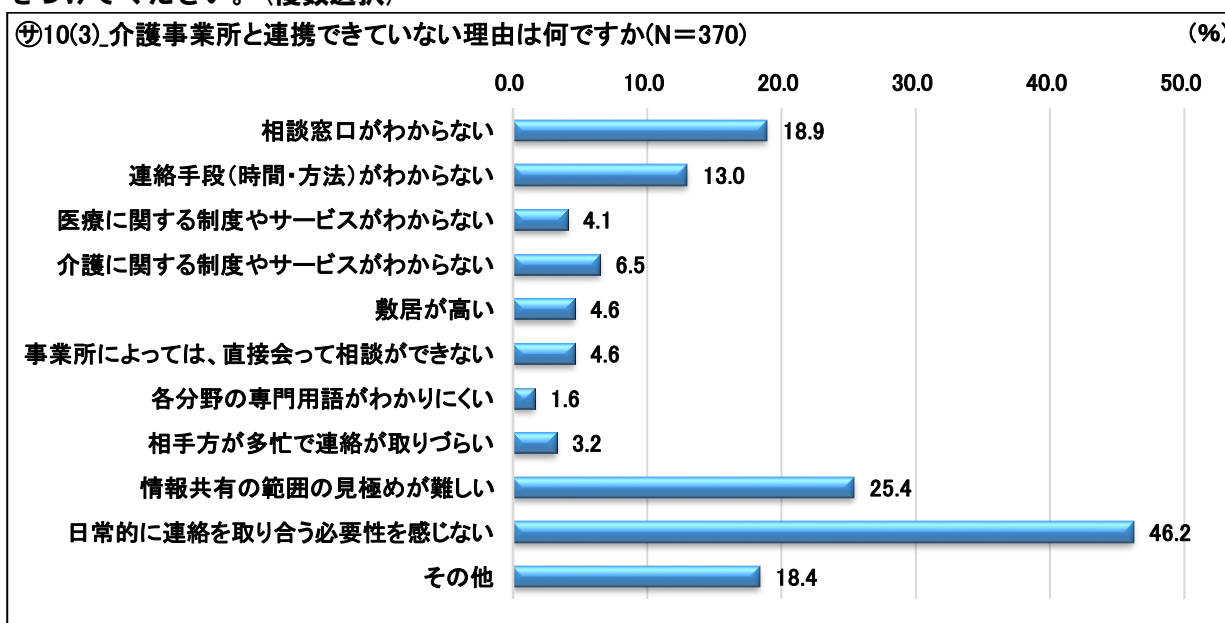
10- (1) ㊦介護事業所との連携について、どのくらい連携ができていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



10- (2) 10- (1) で「①連携できている」、「②概ね連携できている」と答えた方、その理由や連携の具体的な状況を記入してください。

- ・連絡ノートを活用し情報交換している（訪問看護）
- ・地域ケア会議やケースを通し随時連絡をとっている（包括）
- ・事業利用中の様子や状態変化等細目に連絡を取っている（居宅・有料老人ホーム・サ高住）

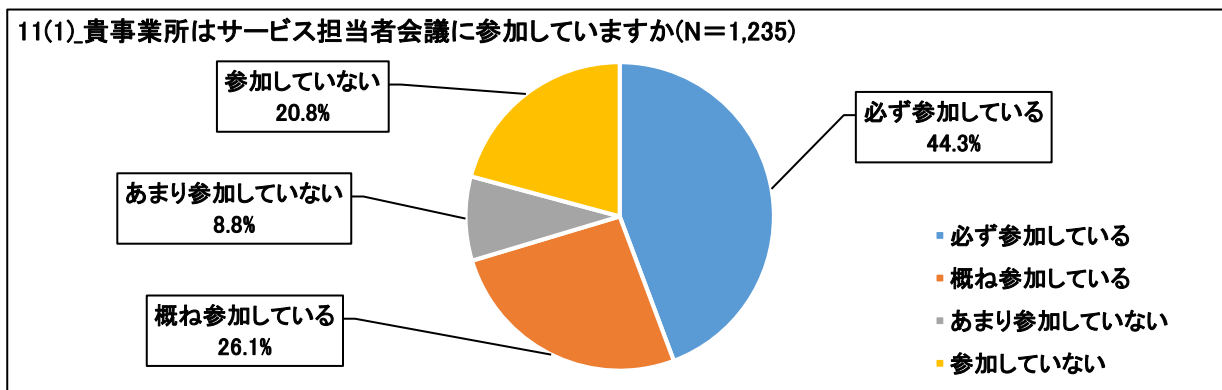
10- (3) ㊦介護事業所との連携について、連携できていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



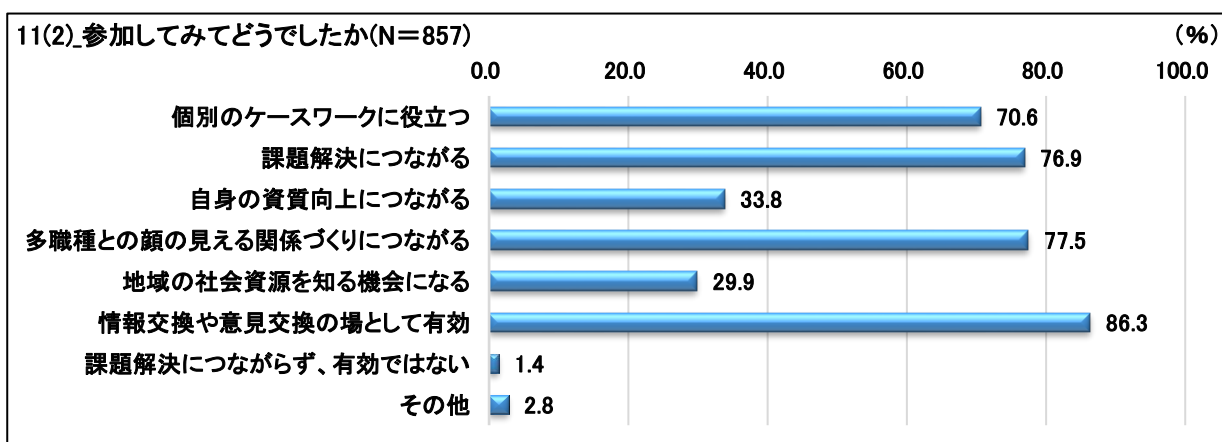
10- (4) 連携ができていない具体的な状況を記入ください。

- ・ケアマネジャーを通して情報共有している（病院・診療所・歯科・薬局・訪問看護・ケアハウス）
- ・関わる機会が少ない（特養）

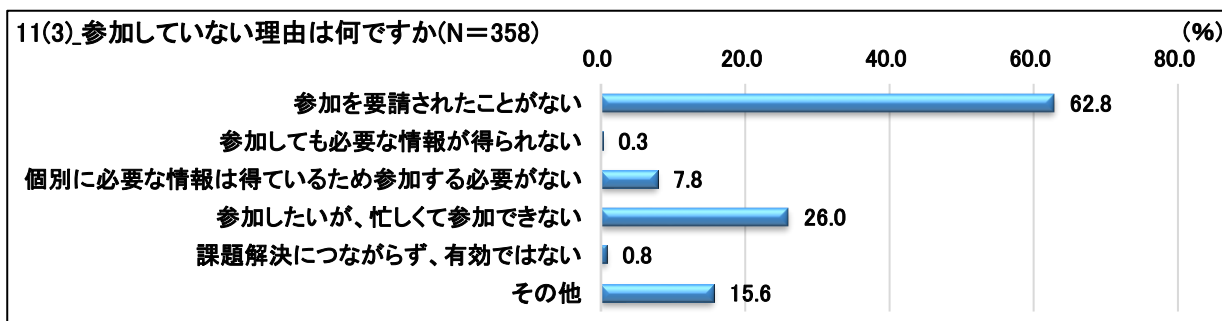
11- (1) 貴事業所は、サービス担当者会議に参加（文書による意見照会や意見交換を含む）していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



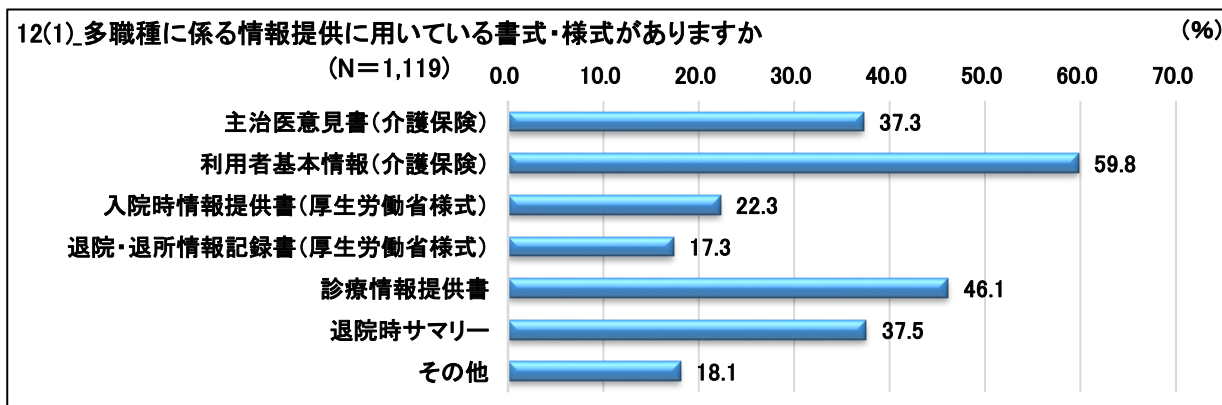
11- (2) 11- (1) で「①必ず参加している」、「②概ね参加している」と答えた方、参加してみてどうでしたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）



11- (3) 11- (1) で「③あまり参加していない」、「④参加していない」と答えた方、参加していない理由について、あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）



12- (1) 貴事業所には、多職種連携に係る情報提供に用いている書式・様式がありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）



12-(2) 貴事業所独自で使用している書式・様式で、他事業所と共通利用しているものがあれば具体的に記入してください。

書式・様式

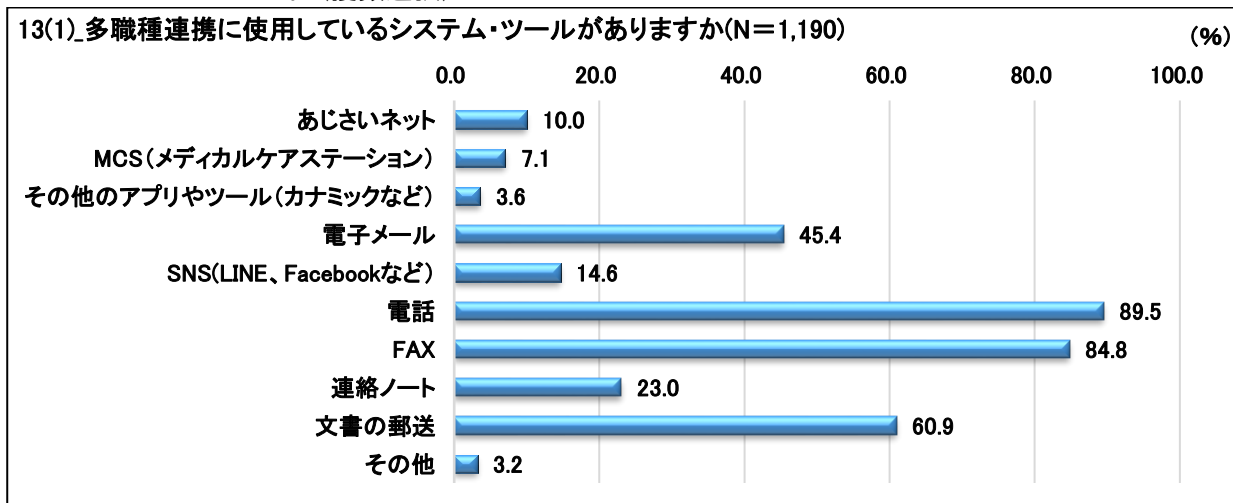
- ・(共通)入院相談シート
- ・看護介護連携シート(くすのき塾作成)
- ・様々な様式を取り入れ独自様式を作成



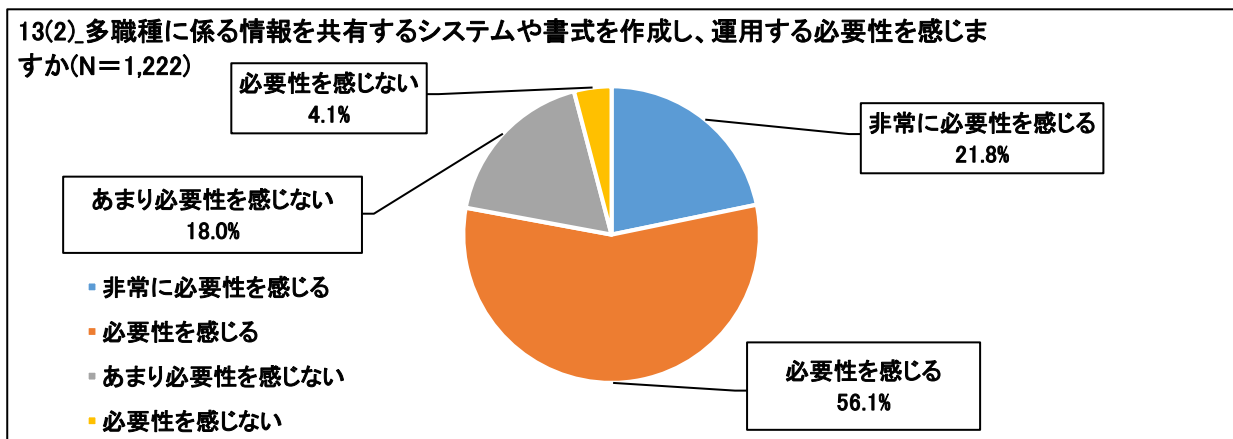
共通利用している事業所

- ・みなとメディカルセンター・昭和会病院・十善会病院・南長崎クリニック・田上病院・長崎病院・愛宕病院
- ・市内総合病院・訪問看護事業所

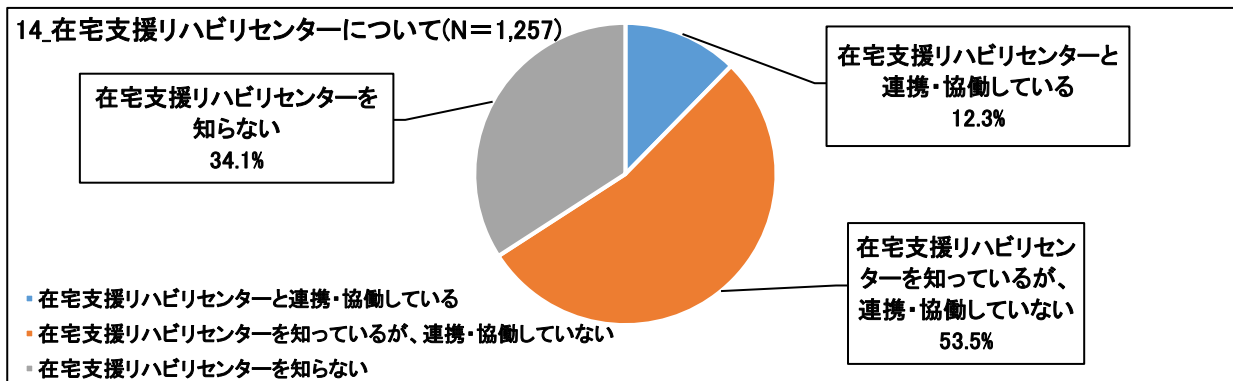
13-(1) 貴事業所は、多職種連携に使用しているシステム・ツールがありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



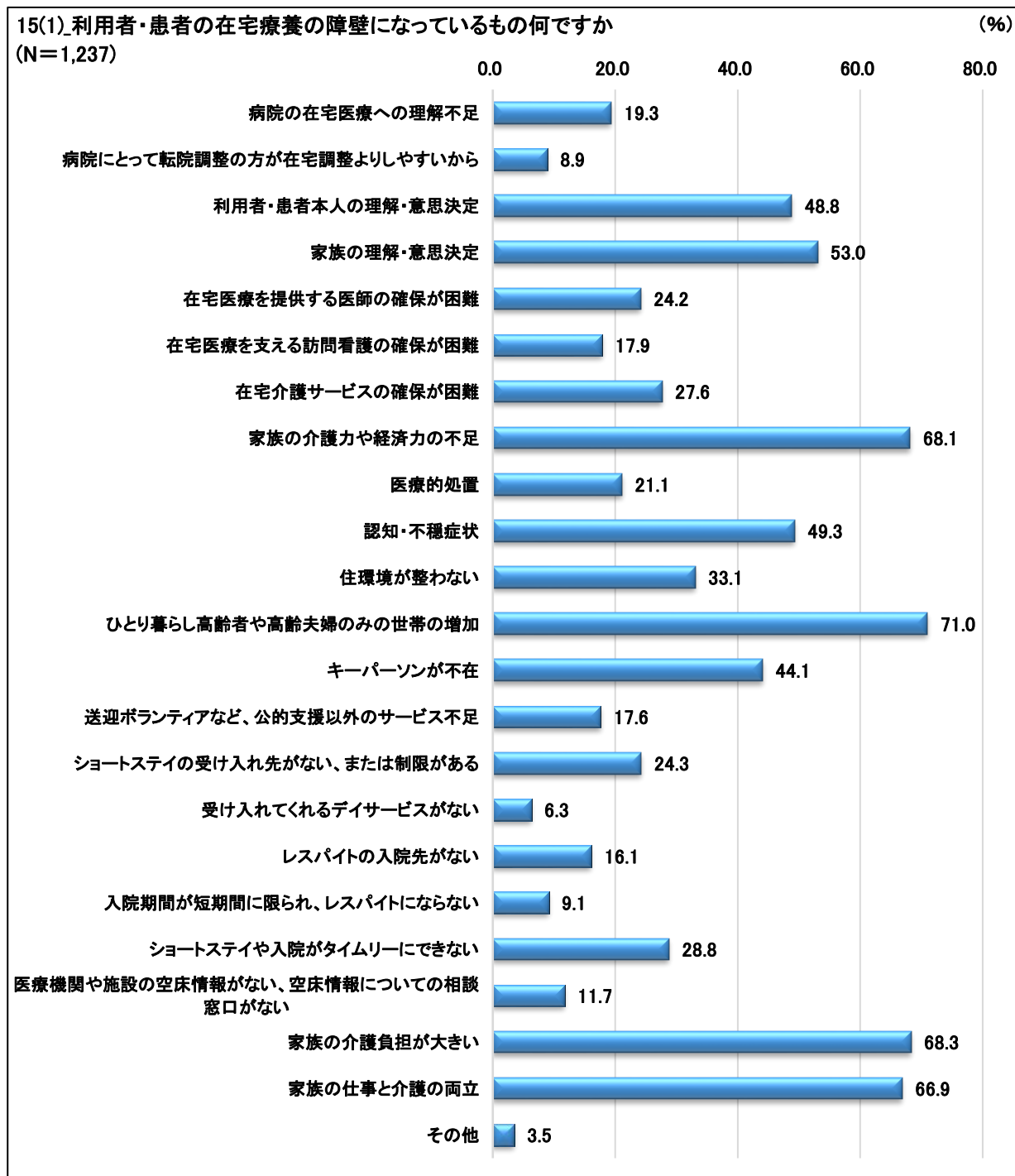
13-(2) 多職種連携に係る情報を共有するシステムや書式を作成し、運用する必要性を感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



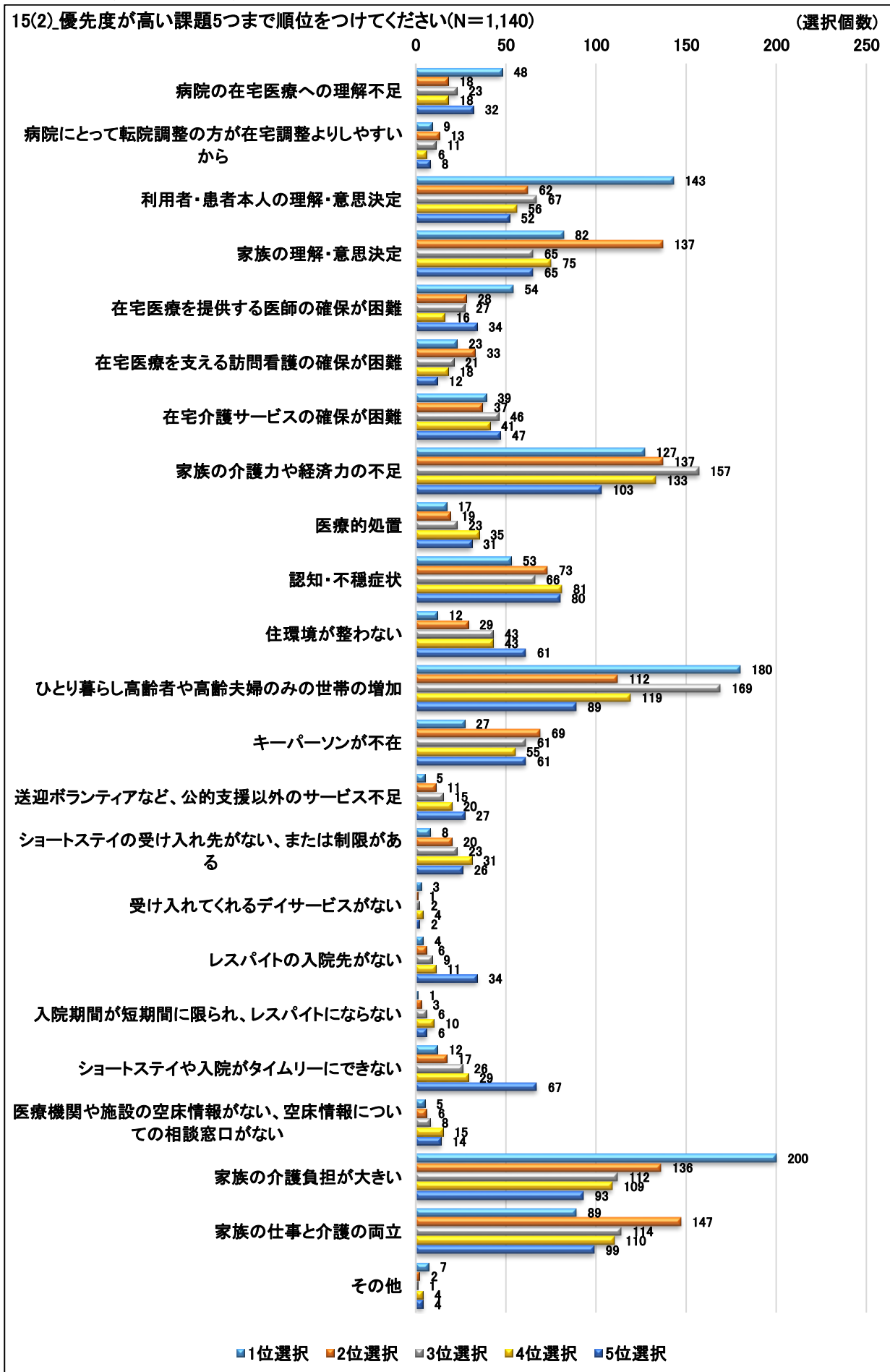
14 長崎市では、高齢者の自立支援・重度化防止に向けた介護予防の推進のため、在宅支援リハビリセンターを市内8か所に設置しています。これについてあてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



15- (1) 利用者・患者の在宅療養の障壁になっているものは何だと思えますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



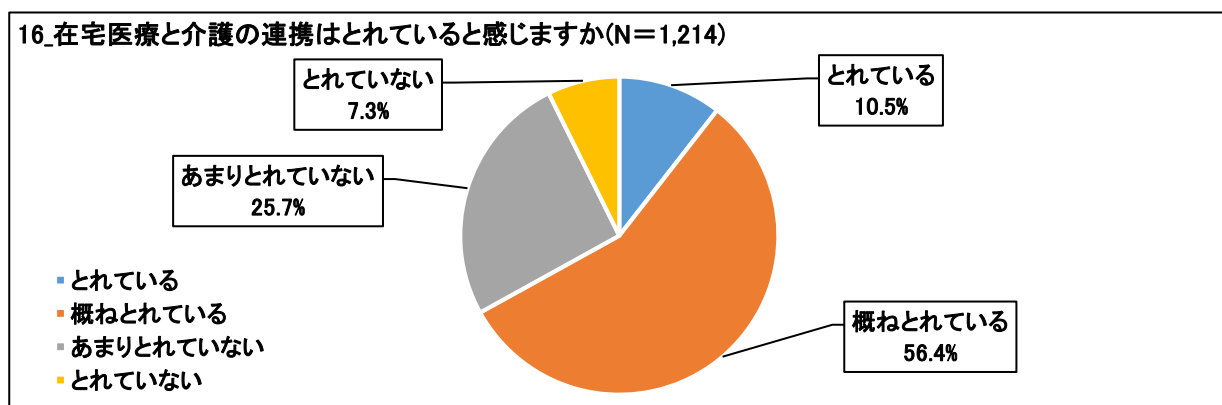
15-(2) また、その中でも優先度が高い課題を5つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(5位まで選択)



優先順位の課題の具体的状況

- ・独居高齢者や高齢者のみ世帯、認知症患者が増え、在宅療養が難しいケースが多い（病院・診療所・包括・居宅・小規模多機能・老健・有料老人ホーム・GH）
- ・サービスを利用して家族の介護負担が大き（病院・診療所・薬局・訪問看護・居宅・訪問介護・小規模多機能・通所介護・短期入所・特養・老健・有料老人ホーム・GH・ケアハウス）
- ・病院、患者、家族共に在宅医療への理解がない（診療所・歯科・薬局・訪問看護）
- ・マンパワー不足がある（薬局・訪問看護・訪問リハ・包括・居宅・短期入所・GH）
- ・ショートステイや緊急時のベッドがタイムリーに確保できない（訪問リハ・包括・特養・老健）
- ・介護側医療側双方の理解が不十分なため本人、家族に納得いく説明ができていない（居宅）

16 日常の療養支援において在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）

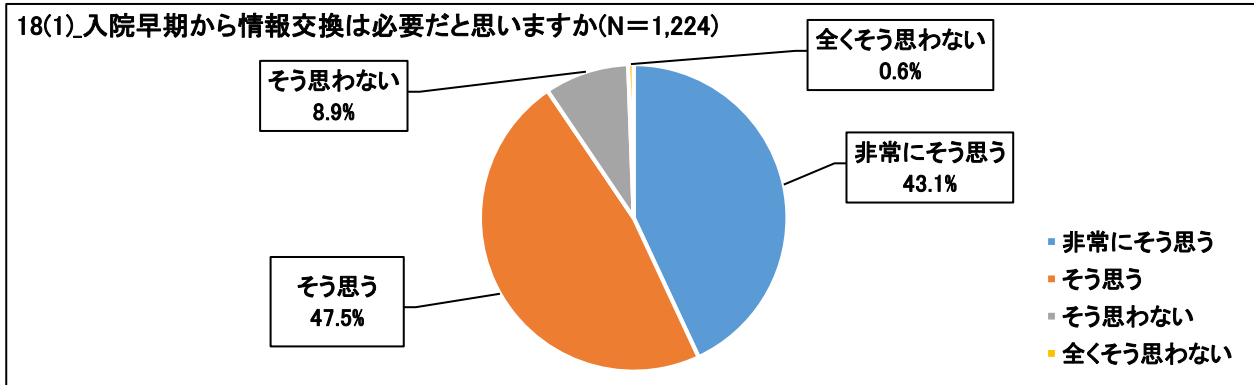


17 日常の療養支援を行うにあたっての医療と介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください。

課題	解決策
病院スタッフの在宅医療への知識不足	<ul style="list-style-type: none"> ・病院スタッフの研修会等の参加 ・病院スタッフが地域に出やすい仕組みづくり ・訪問診療の同行研修の機会を増やす
互いの職種への理解及び知識不足	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会、交流会の開催、参加 ・各病院、施設の当番制による研修・勉強会開催 ・医療介護連携の必要性のポイントやGW等の学習会
顔の見える関係の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできるリモート会議等の充実 ・顔を合わせる研修会や意見交換の場の設定 ・地域の医師を当番制とし地域の多職種会議に参加しやすい体制づくり
マンパワー不足	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療を担う若い医師の育成 ・介護職の賃金向上
本人・家族の在宅医療への理解不足	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発活動
介護職の医療知識不足 医療職の介護知識不足	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の実施 ・ケア方法を統一するため実践的研修や見学の開催 ・ケア、判断困難時に相談しやすい関係づくり

入退院支援に関する調査票

18-(1) 入院早期から、利用者・患者の在宅療養に備えた関係者との情報交換は重要だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



18-(2) また、①～④を選択した理由や状況を記入してください。

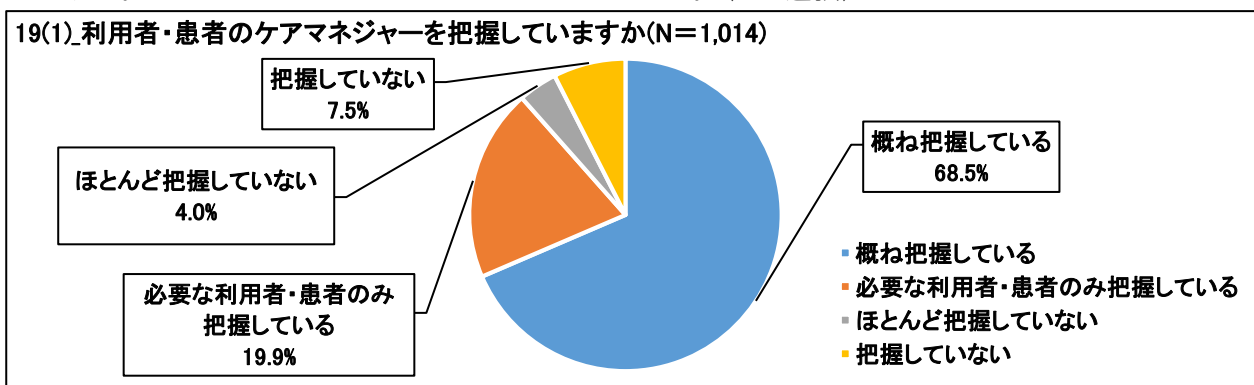
<非常にそう思う・そう思う>

- ・退院後の生活を見据えた治療計画を立て、退院に向けた支援をスムーズに行うため（病院、薬局、訪問看護、訪問リハ、居宅）
- ・入院早期から在宅スタッフとの関わりがあれば、退院調整がスムーズになる（訪問看護、包括）
- ・入院期間が限られており、退院のめどが立ってからでは間に合わない（病院、診療所、薬局、訪問看護、訪問介護）
- ・入院早期に情報交換することで、課題を整理し早期解決につながる（診療所、居宅）
- ・患者や家族の希望を把握し、環境を整える必要がある（病院、訪問看護、訪問リハ、居宅、薬局）

<そう思わない・全くそう思わない>

- ・入院早期は病状不安定で見通しも立たない、容体に変化する。（病院、診療所、薬局、訪問介護、訪問看護）
- ・退院前の情報があればよい（薬局、訪問介護）

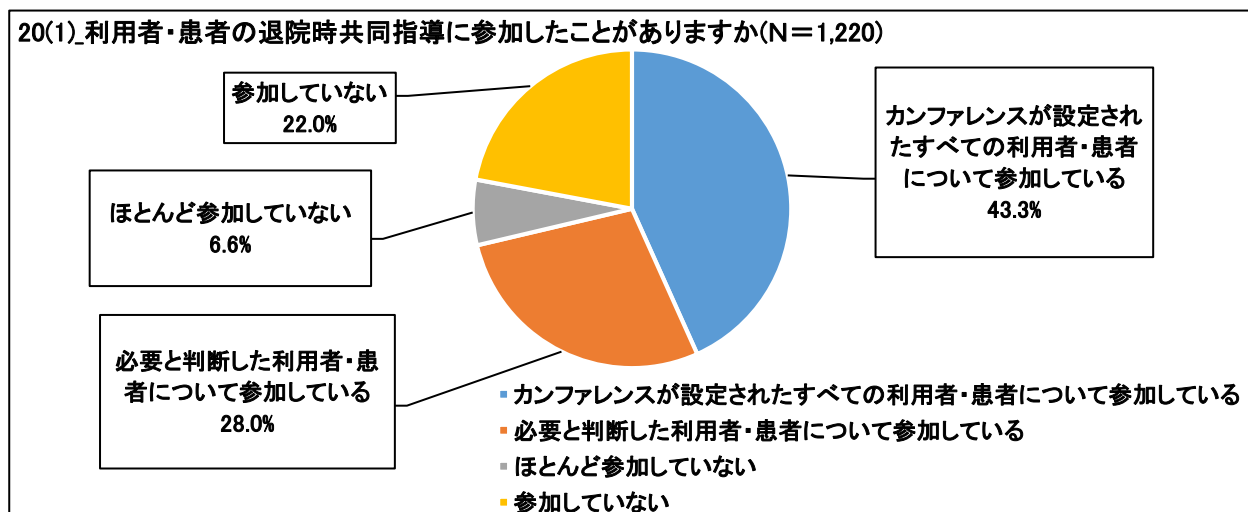
19-(1) 居宅介護支援事業所以外にお伺いします。利用者・患者の担当のケアマネジャーを把握していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



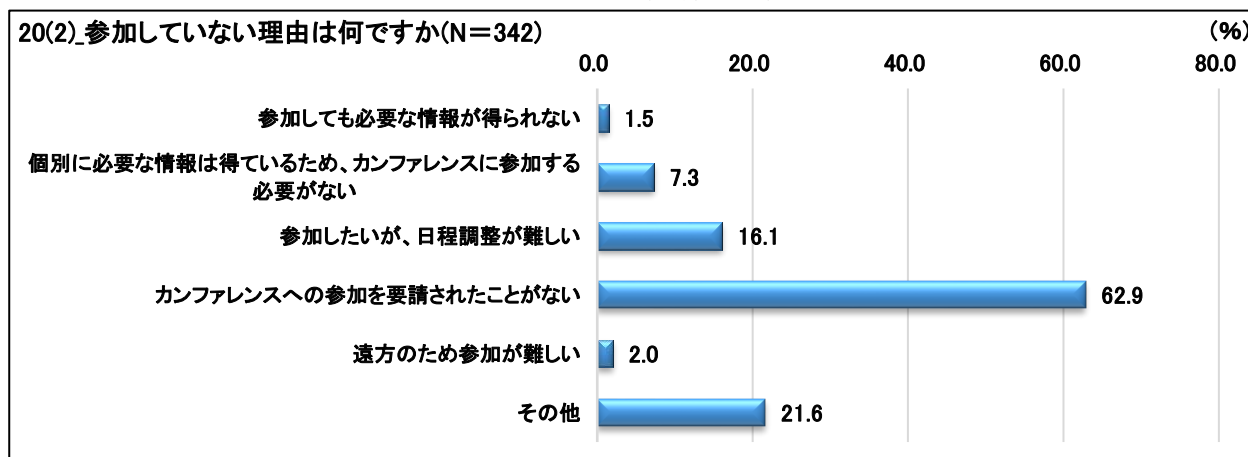
19-(2) 19-(1)で「③ほとんど把握していない」、「④把握していない」と答えた方、理由を具体的に記入ください。

- ・連絡を必要とするケースがない（病院、診療所、歯科、薬局）
- ・ケアマネからの連絡がない（診療所）
- ・ケアマネとの接点がない（診療所、歯科、薬局）

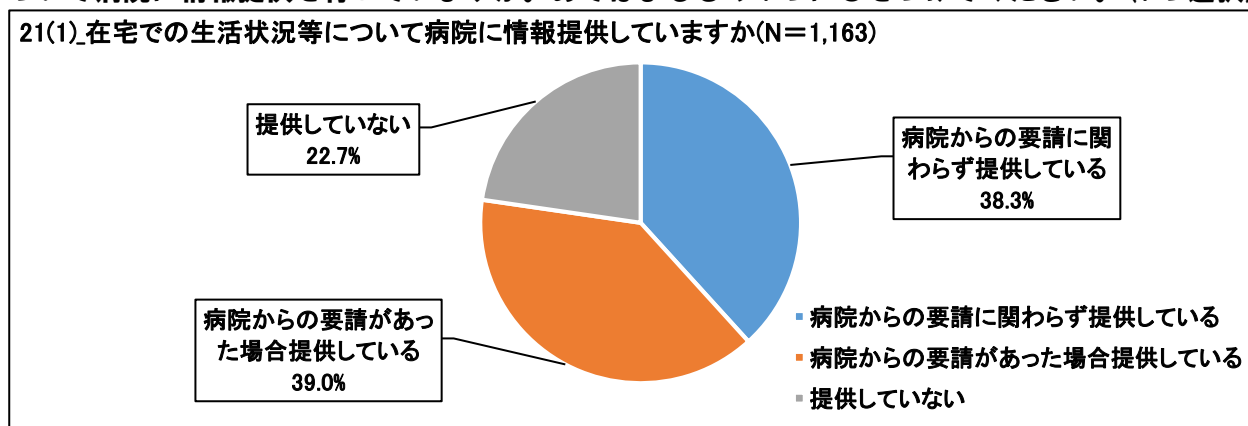
20- (1) 貴事業所は、退院し、在宅療養に移行する利用者・患者の退院時共同指導（以後、「退院前カンファレンス」という）（退院支援に関する報酬の加算の有無は問わない）に参加したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



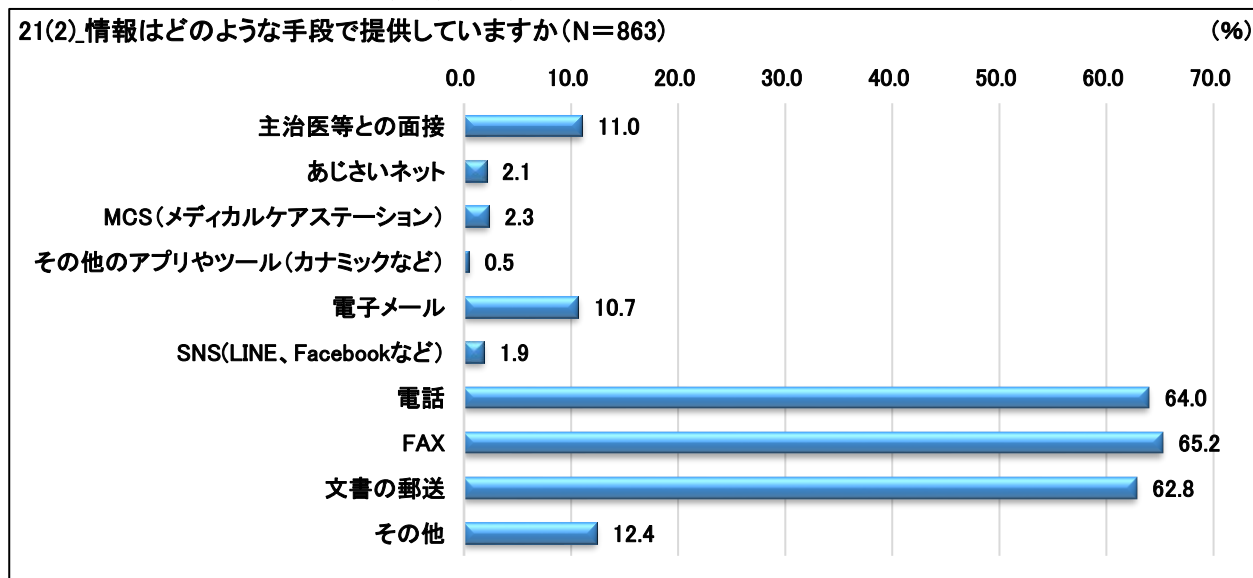
20- (2) 20- (1) で「③ほとんど参加していない」、「④参加していない」と答えた方、その理由についてあてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）



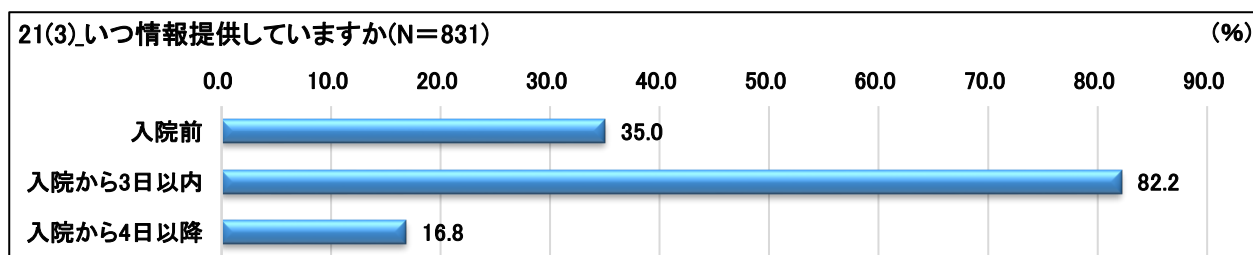
21- (1) 病院以外にお伺いします。利用者・患者が入院する（した）場合に、在宅での生活状況等について病院に情報提供を行っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



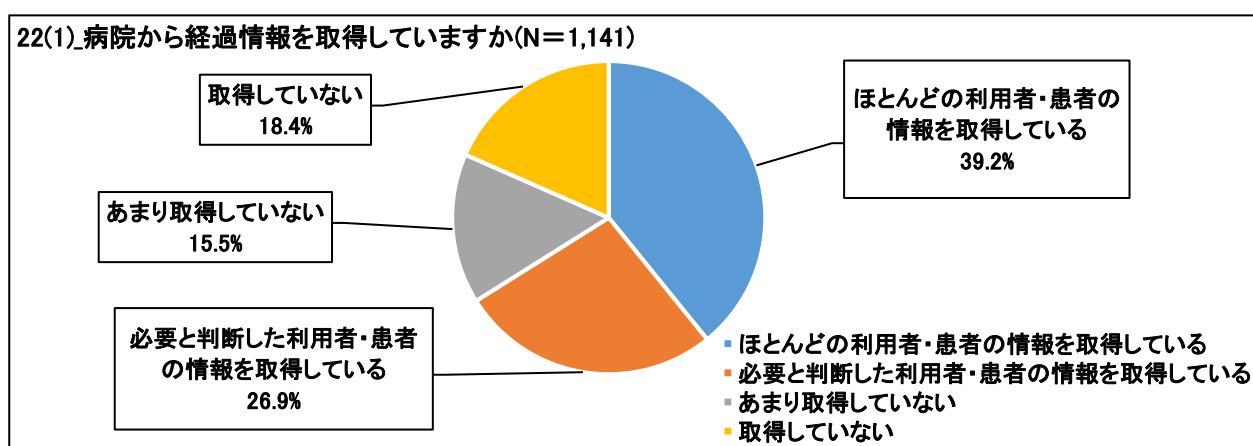
21- (2) (※病院以外)21- (1) で「①病院からの要請に関わらず提供している」、「②病院からの要請があった場合提供している」と答えた方、どのような手段で情報提供していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



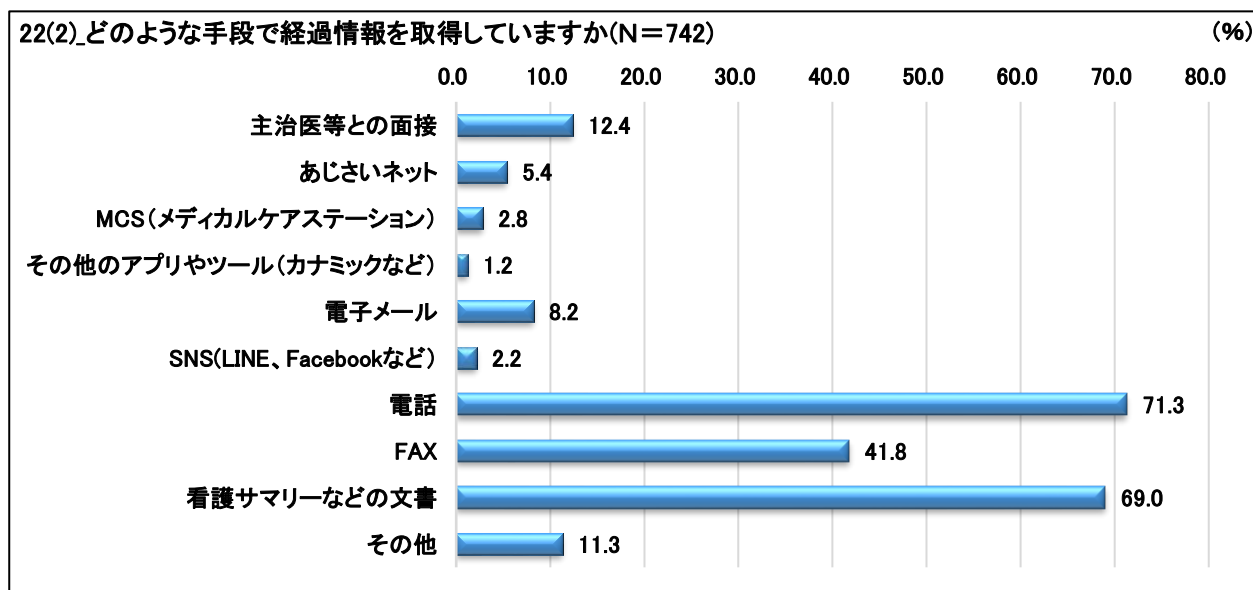
21- (3) (※病院以外)21- (1) で「①病院からの要請に関わらず提供している」、「②病院からの要請があった場合提供している」と答えた方、いつ情報提供していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



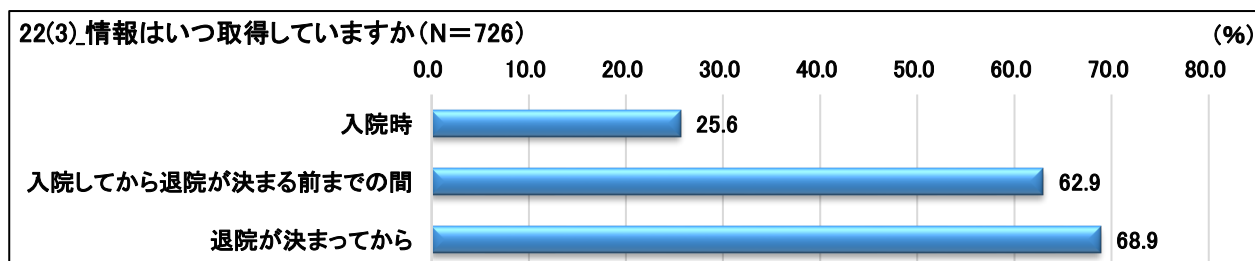
22- (1) (※病院以外)利用者・患者が入院した場合、病院から経過情報を取得していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



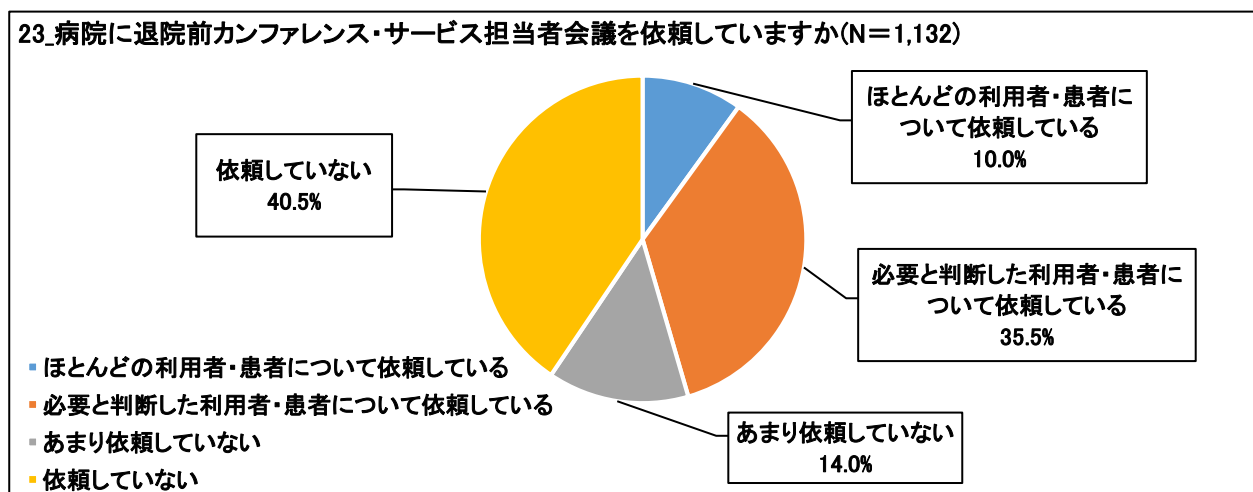
22- (2) (※病院以外) 22- (1) で「①ほとんどの利用者・患者の情報を取得している」、「②必要と判断した利用者・患者の情報を取得している」と答えた方、どのような手段で経過情報を取得していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



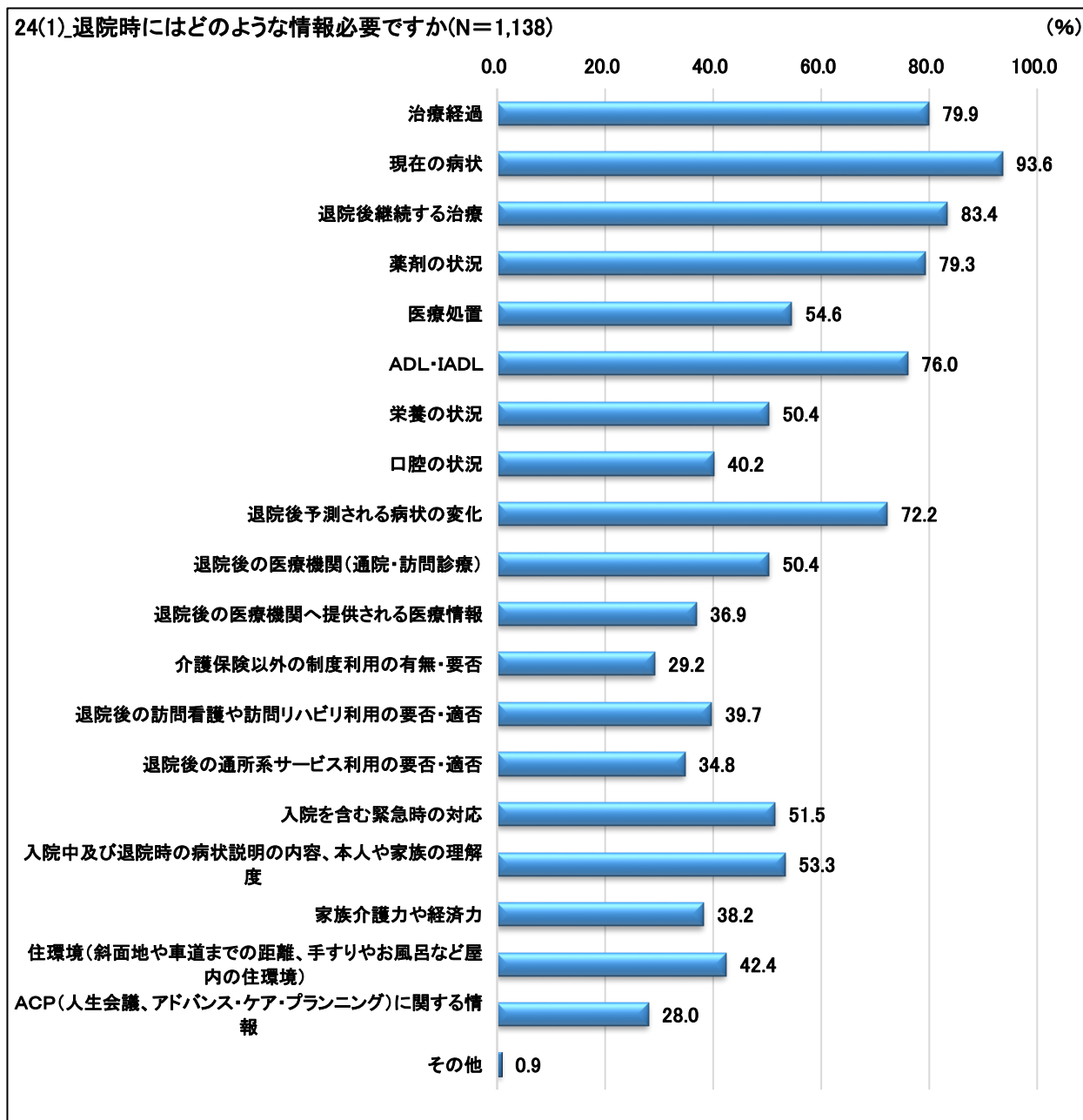
22- (3) (※病院以外) 22- (1) で「①ほとんどの利用者・患者の情報を取得している」、「②必要と判断した利用者・患者の情報を取得している」と答えた方、情報はいつ取得していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



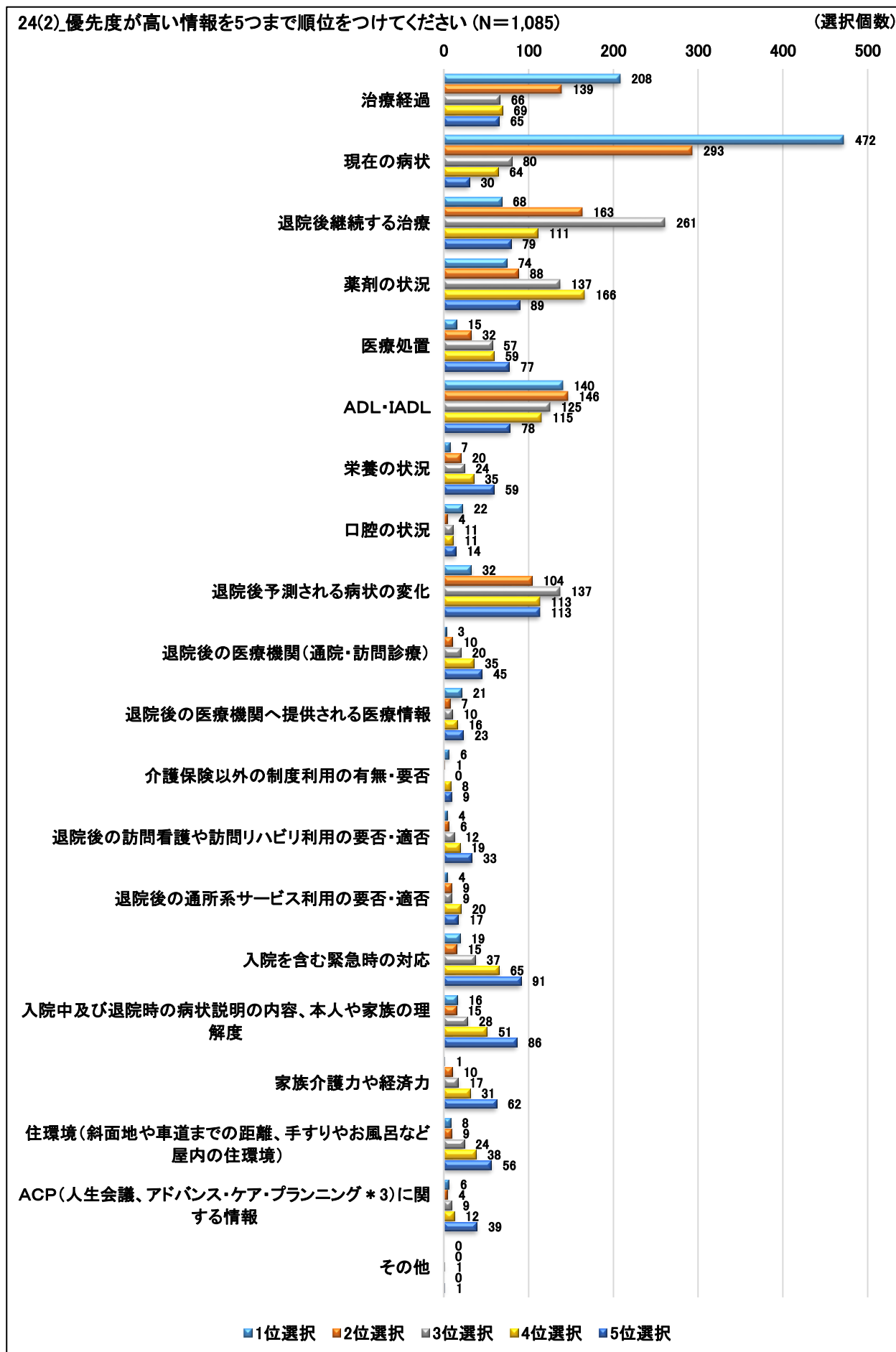
23 (※病院以外) 利用者・患者が入院した場合、病院に退院前カンファレンス・サービス担当者会議の開催を依頼していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



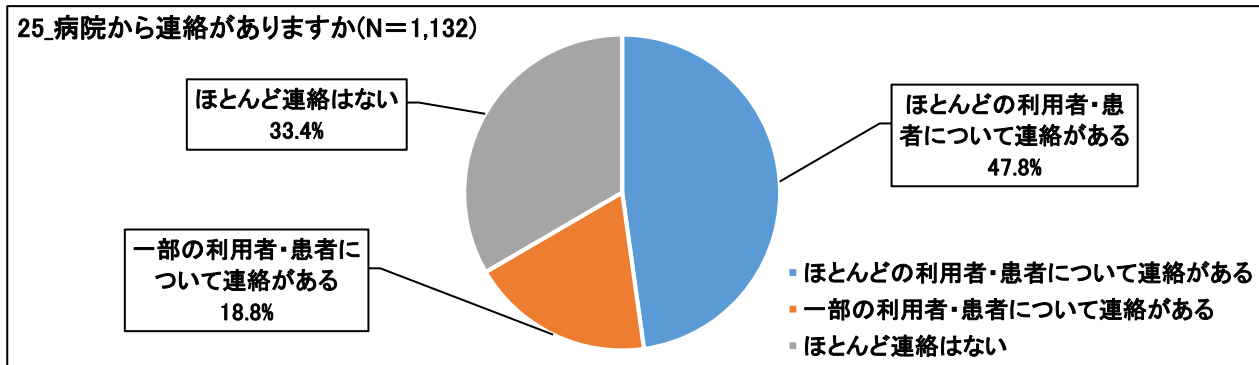
24- (1) (※病院以外) 退院時にはどのような情報が必要ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



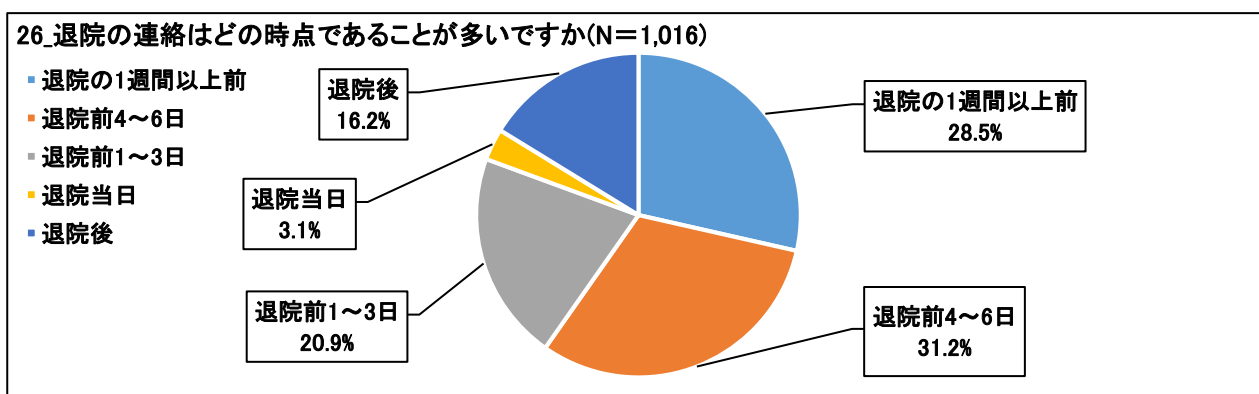
24-(2) (※病院以外) また、その中でも優先度が高い情報を5つまで順位をつけて回答してください。
(5位まで選択)



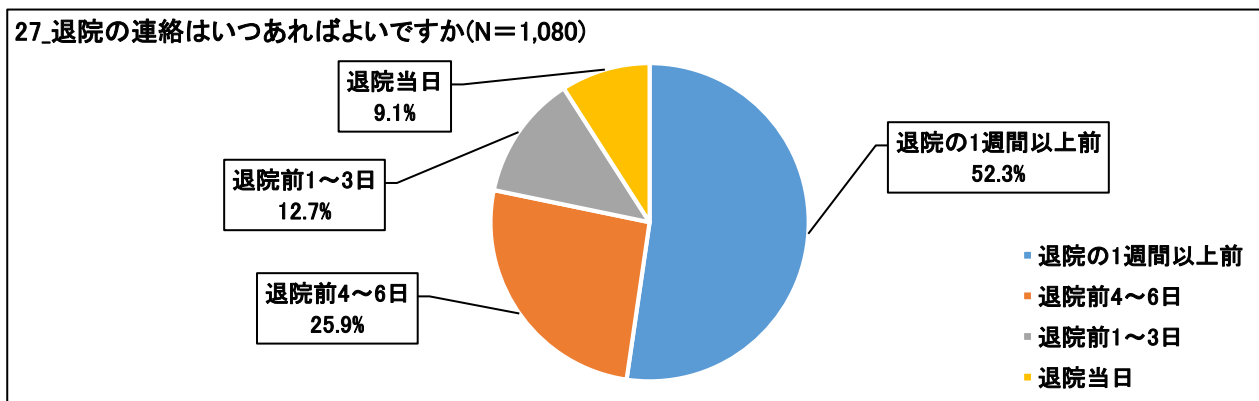
25 (※病院以外) 利用者・患者が退院する際、病院から連絡がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



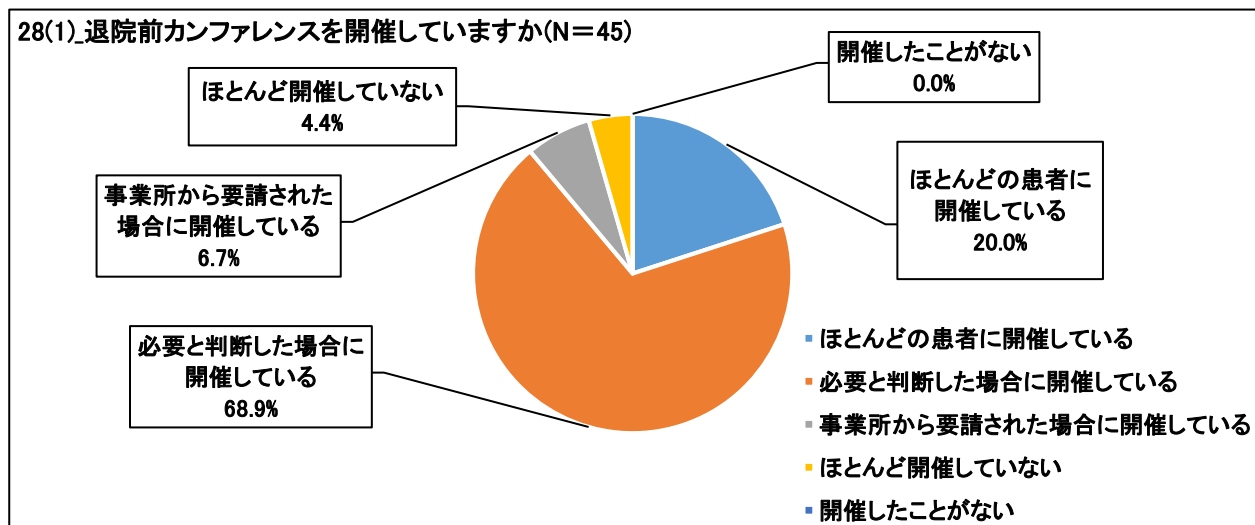
26 (※病院以外) 退院の連絡はどの時点であることが多いですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



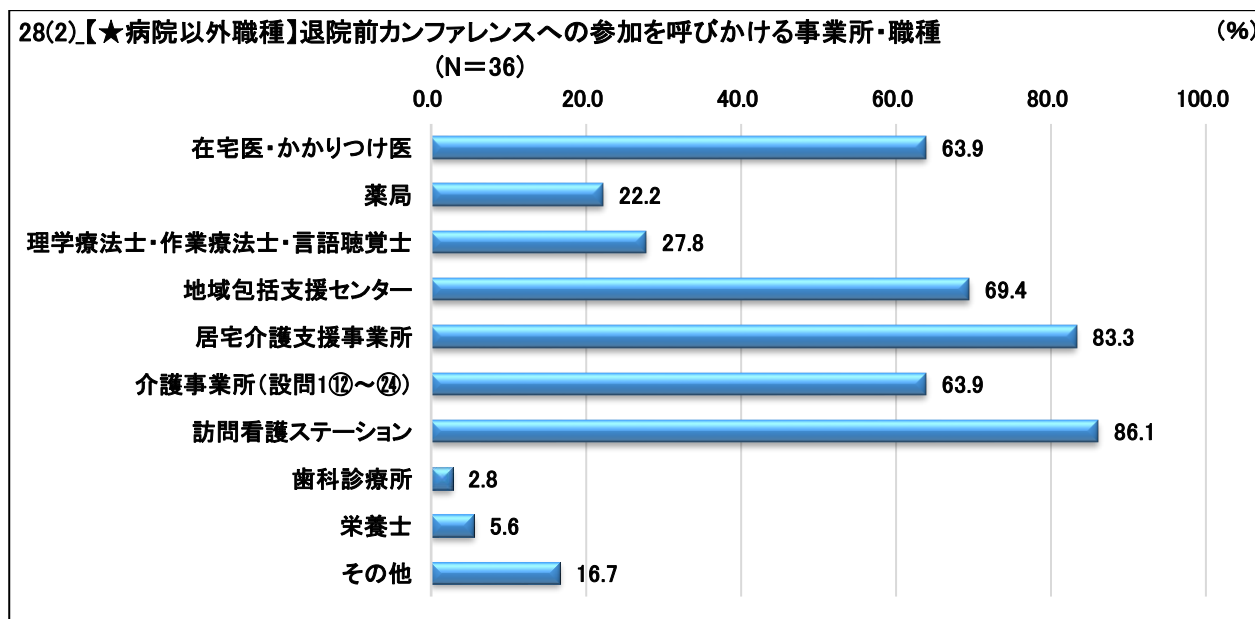
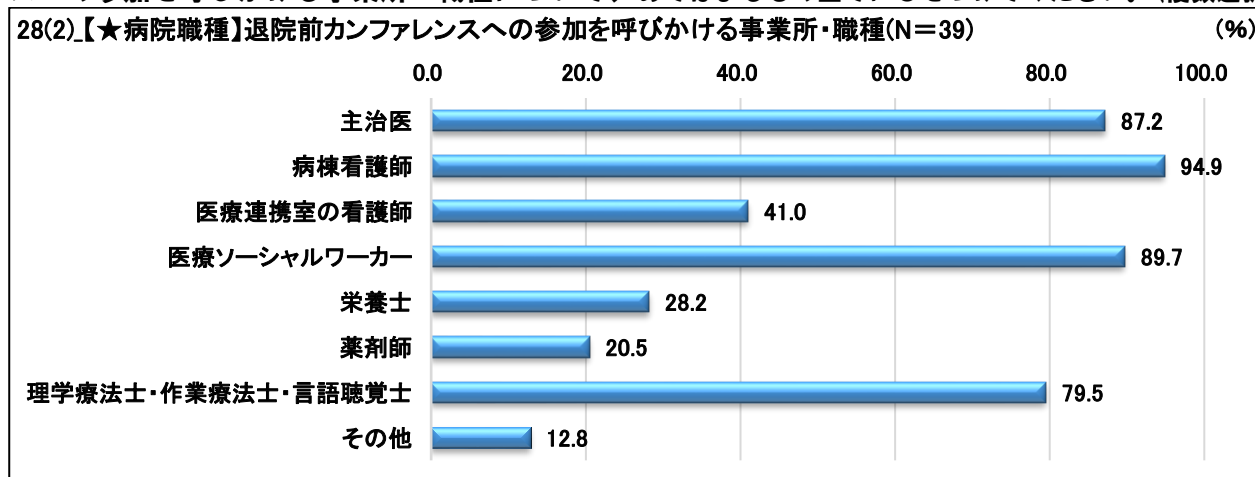
27 (※病院以外) 退院の連絡はいつあればよいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



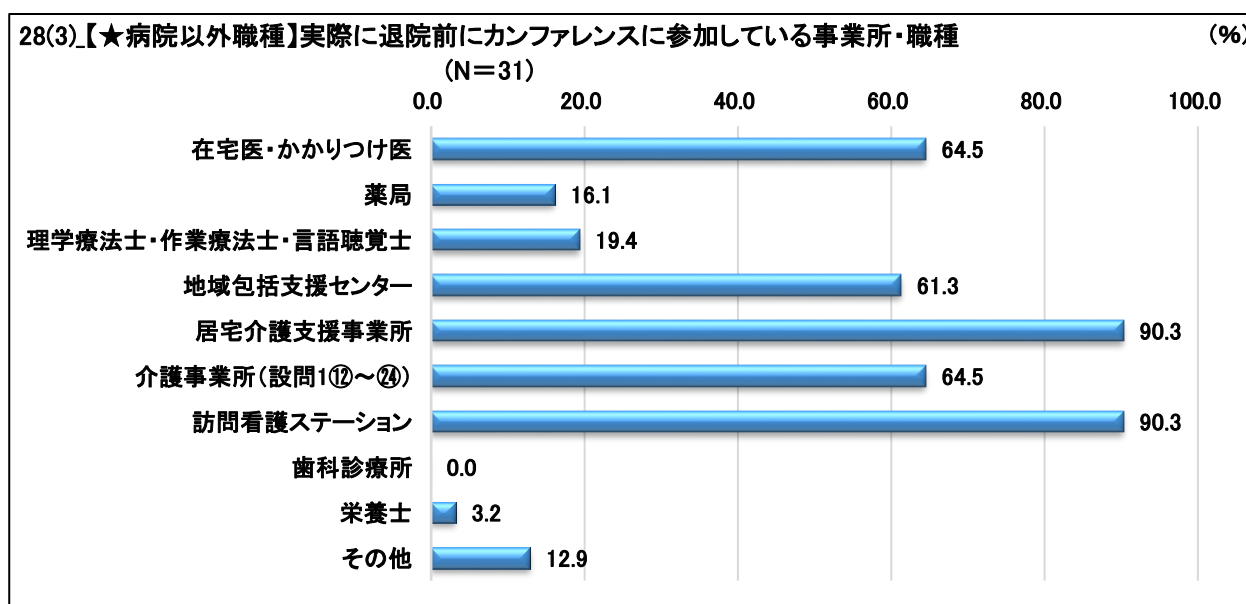
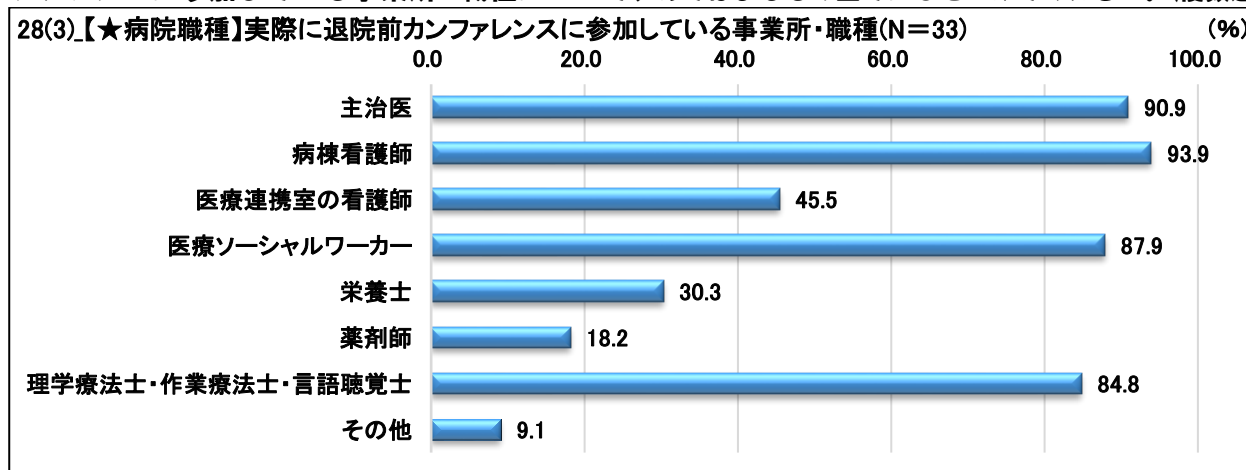
28- (1) 病院にお伺いします。患者が退院し、在宅療養に移行する場合、退院前カンファレンス（退院支援に関する診療報酬の加算の有無は問わない）を開催していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



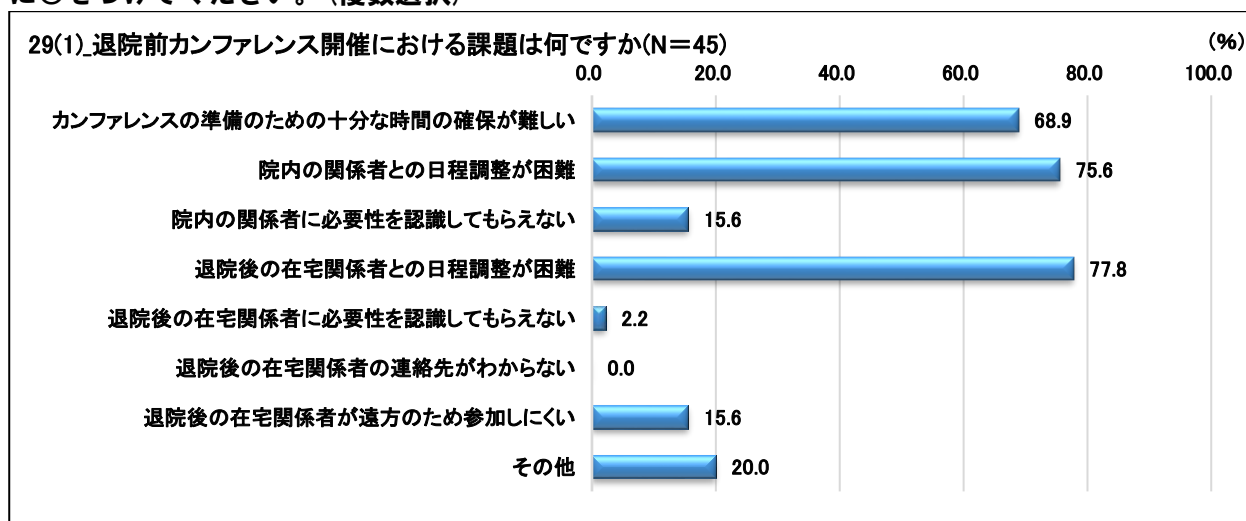
28- (2) (※病院にお伺い) 28- (1) で「①ほとんどの患者に開催している」、「②必要と判断した場合に開催している」、「③事業所から要請された場合に開催している」と答えた方、退院前カンファレンスへの参加を呼びかける事業所・職種について、あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）



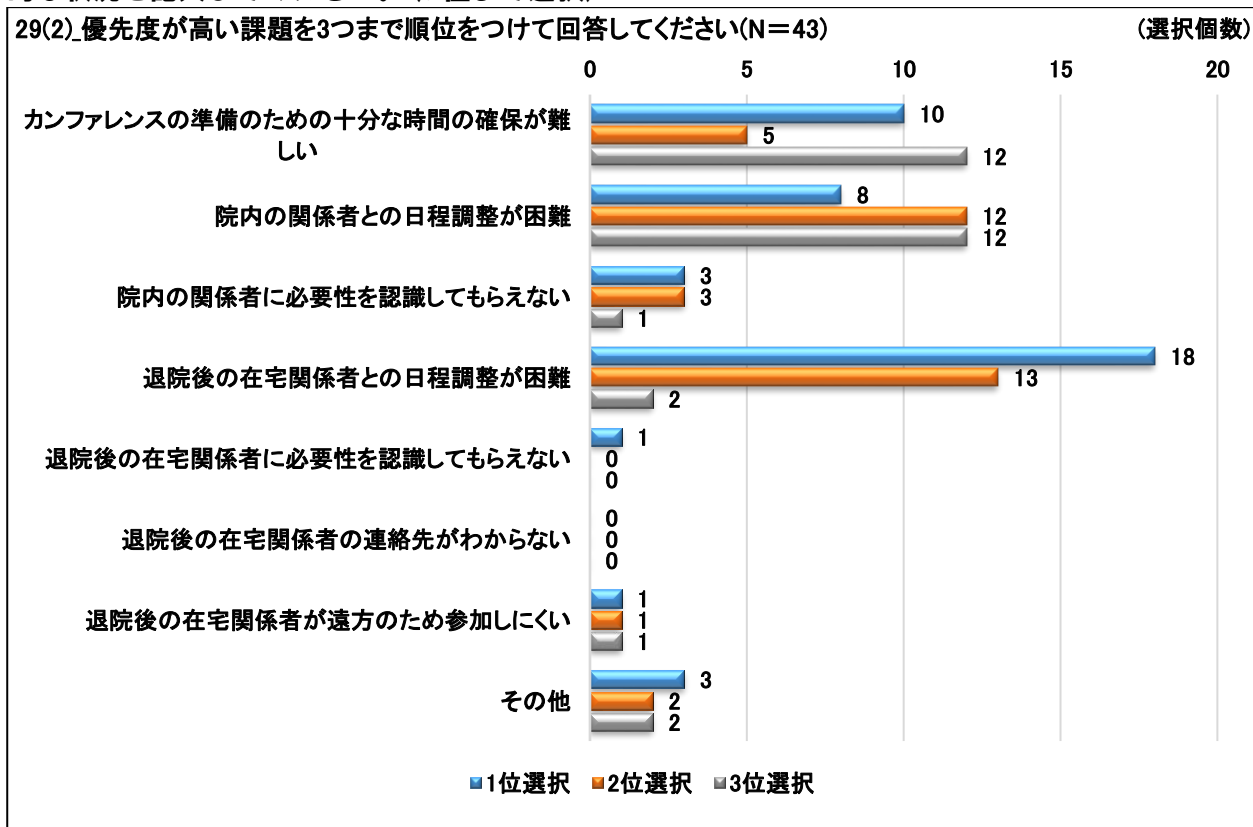
28- (3) (※病院にお伺い)28- (1) で「①ほとんどの患者に開催している」、「②必要と判断した場合に開催している」、「③事業所から要請された場合に開催している」と答えた方、実際に、退院前カンファレンスに参加している事業所・職種について、あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



29- (1) (※病院にお伺い)退院前カンファレンス開催における課題は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



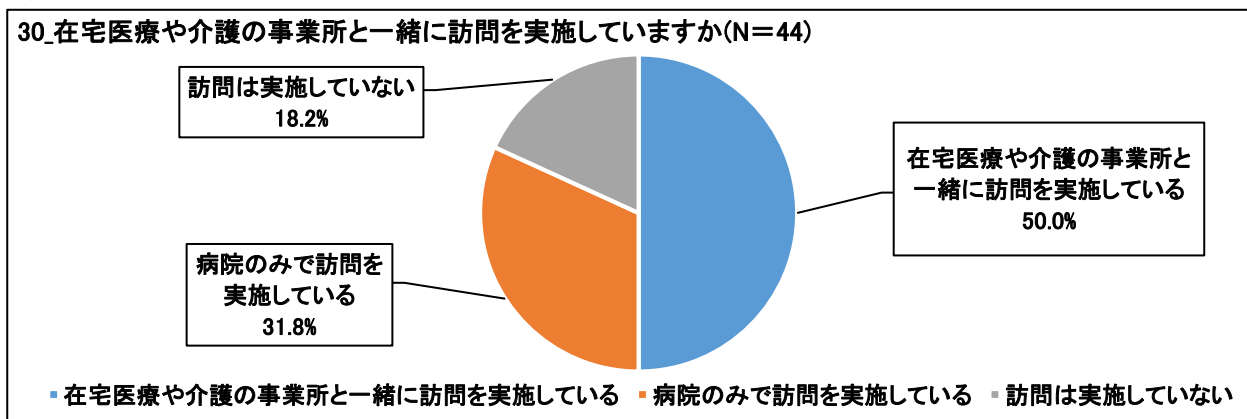
29- (2) (※病院にお伺い) また、その中でも優先度が高い課題を3つまで順位をつけて回答し、具体的な状況を記入してください。(3位まで選択)



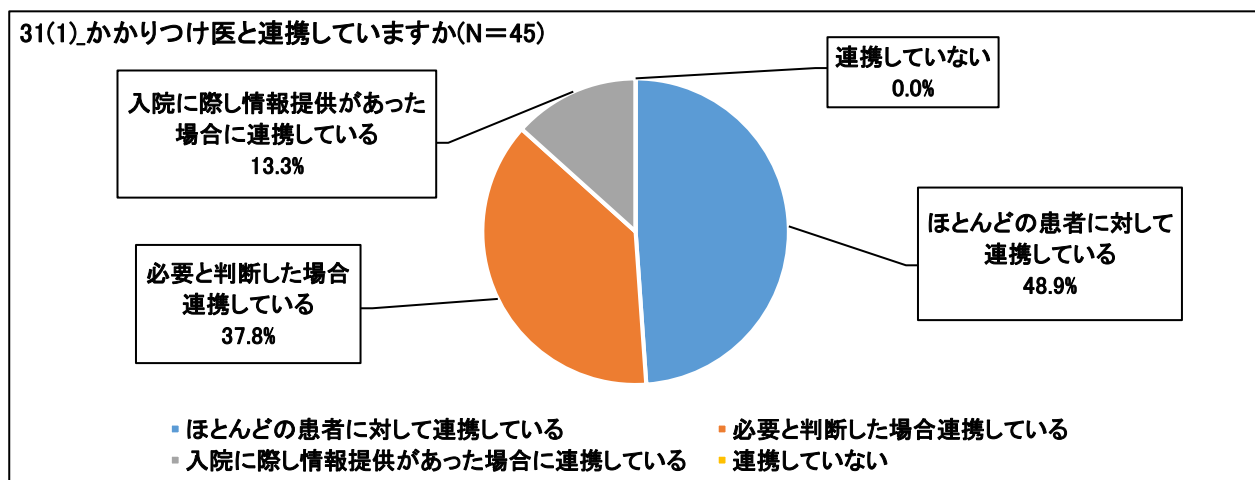
優先順位の具体的な状況

- ・多職種・多機関との日程調整が難しい
- ・業務多忙で時間の確保が困難

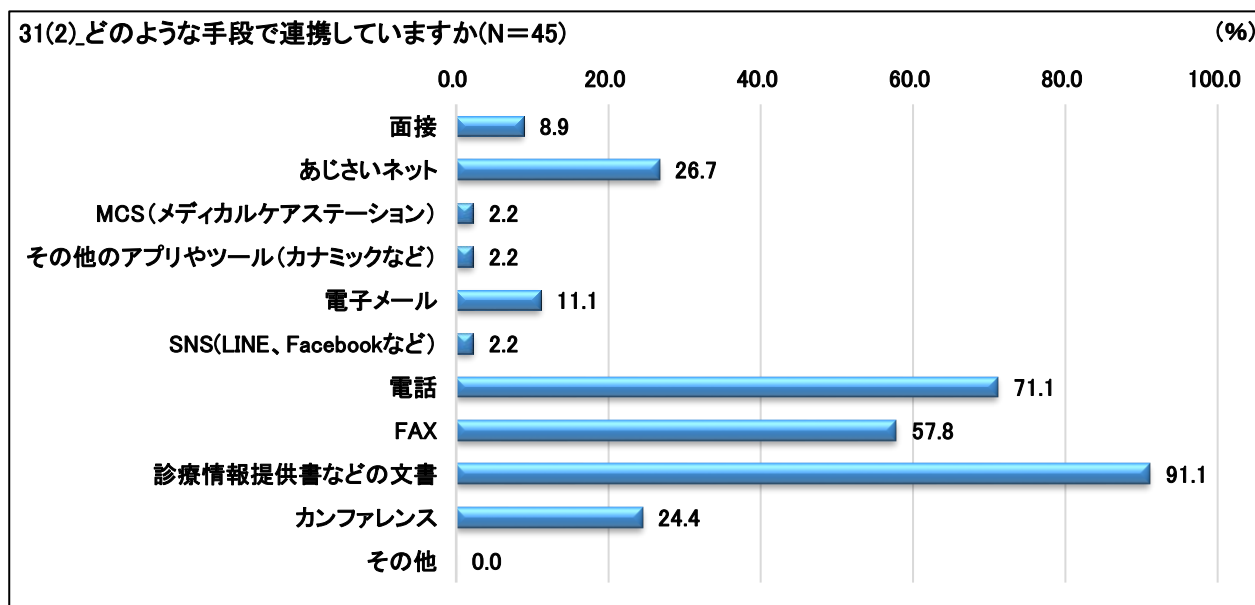
30 (※病院にお伺い) 必要に応じて患者の退院前や退院後に在宅医療や介護の事業所と一緒に訪問を実施していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



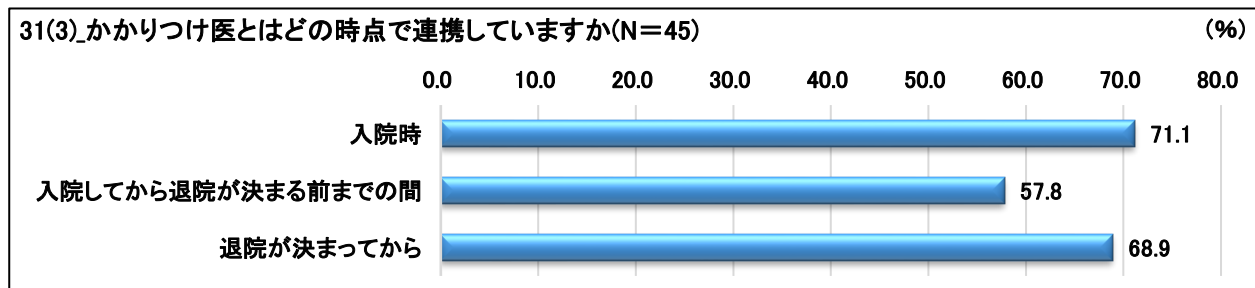
31- (1) (※病院にお伺い) 患者が入院する(した)際、かかりつけ医と連携していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



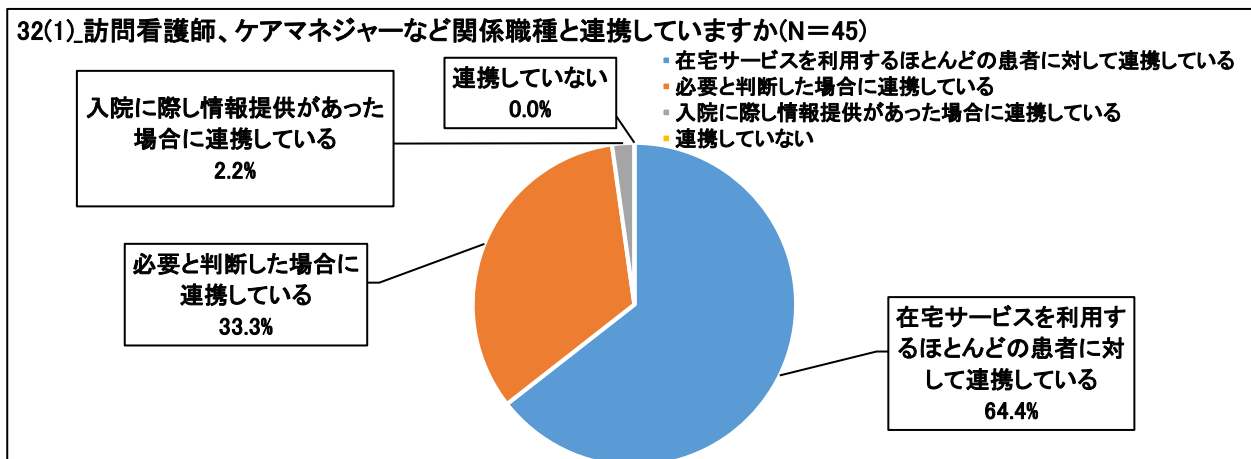
31- (2) (※病院にお伺い) 31- (1) で「①ほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と回答した方、どのような手段で連携しているか、あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



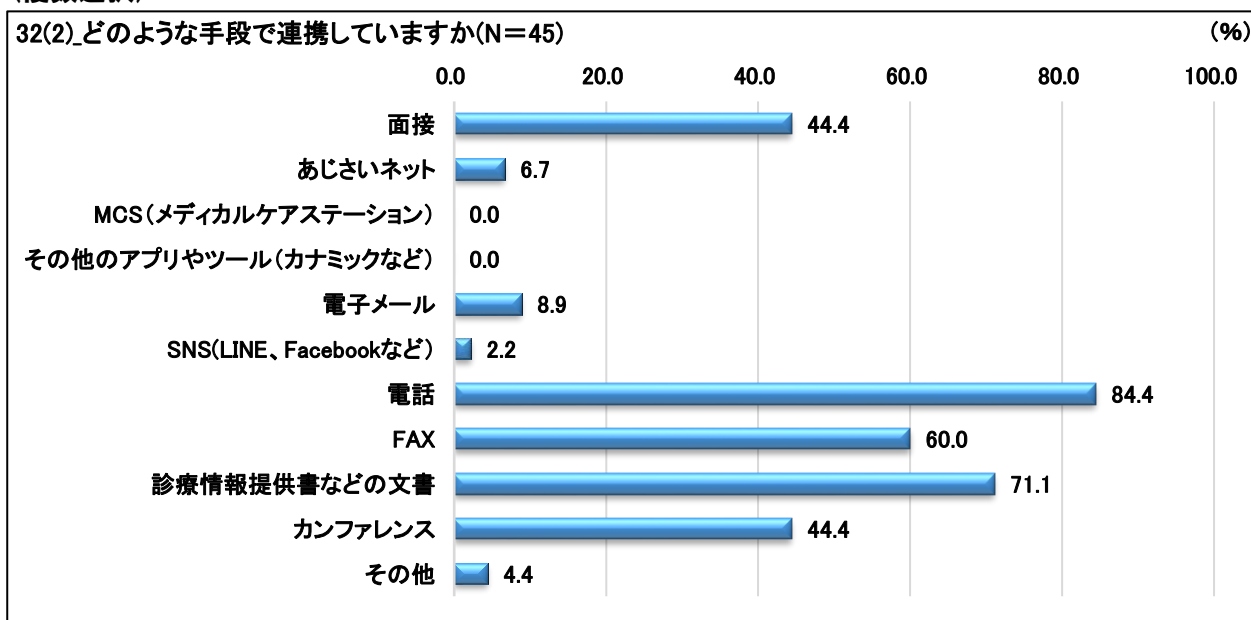
31- (3) (※病院にお伺い) 31- (1) で「①ほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と回答した方、かかりつけ医とはどの時点で連携していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



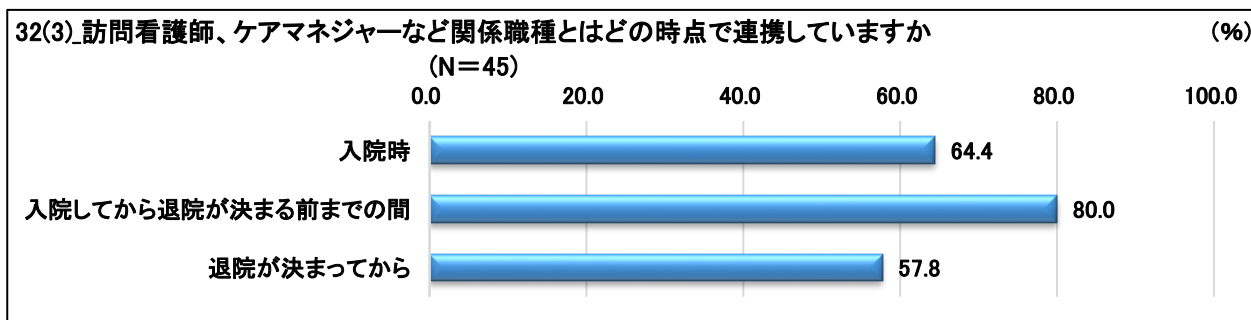
32- (1) (※病院にお伺い) 患者が入院する (した) 際、患者の在宅療養に備え、訪問看護師、ケアマネジャーなど関係職種と連携していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



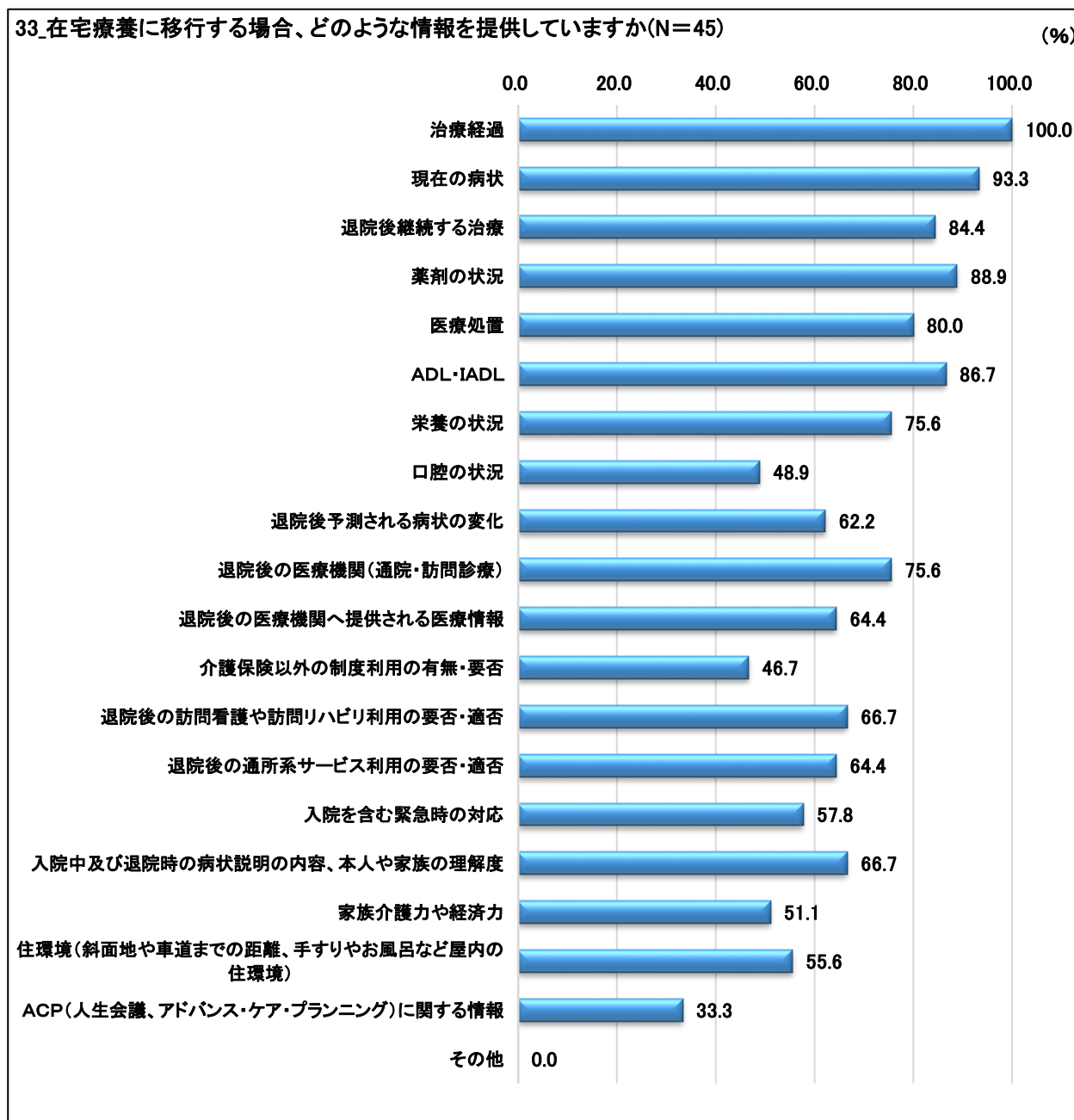
32- (2) (※病院にお伺い) 32- (1) で「①在宅サービスを利用するほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合に連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と答えた方、どのような手段で連携していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



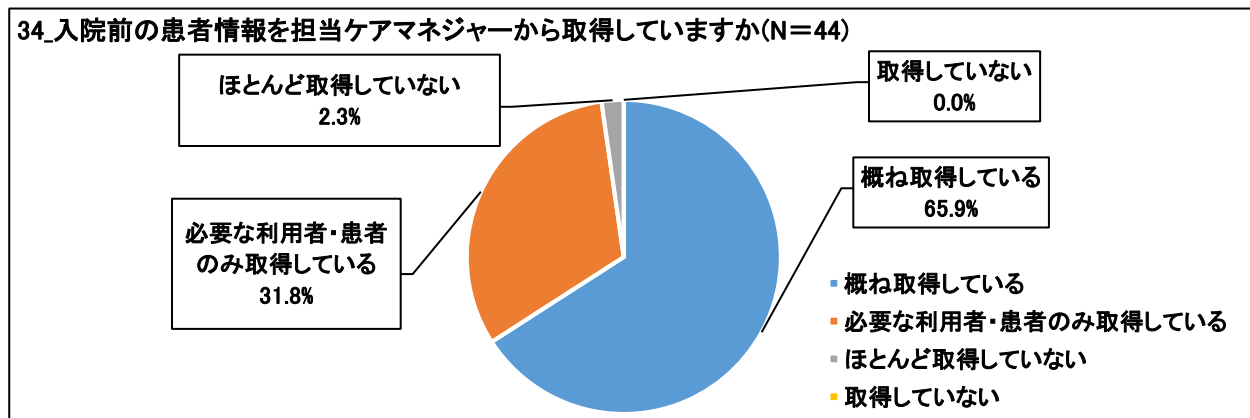
32- (3) (※病院にお伺い) 32- (1) で「①在宅サービスを利用するほとんどの患者に対して連携している」、「②必要と判断した場合に連携している」、「③入院に際し情報提供があった場合に連携している」と答えた方、訪問看護師、ケアマネジャーなど関係職種とはどの時点で連携していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



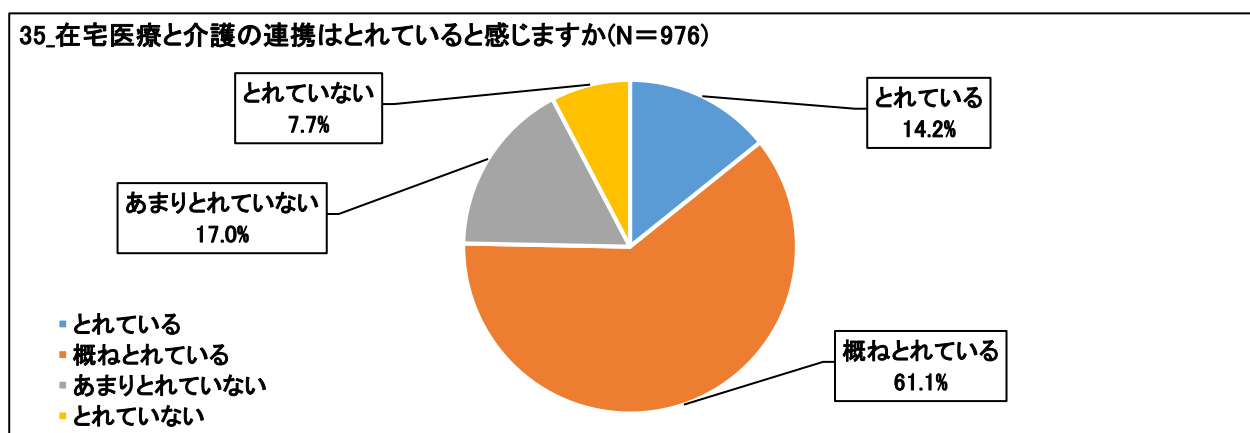
33 (※病院にお伺い) 患者が退院し、在宅療養に移行する場合、どのような情報を提供していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



34 (※病院にお伺い)入院前の患者情報(介護や日常生活に関する情報)を担当ケアマネジャーから取得していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



35 入退院支援において在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)

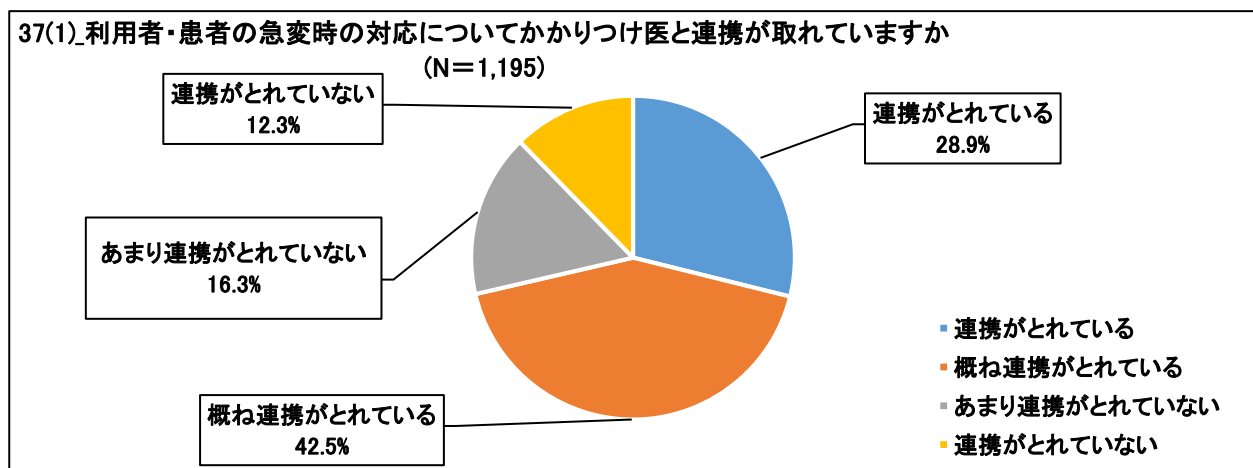


36 入退院支援を行うにあたっての在宅医療と介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください。

課題	解決策
医療と介護でお互いの情報がまちまち、共通認識がとれていない	<ul style="list-style-type: none"> 医療と介護の相互理解 情報の項目をとりまとめた共通の情報シートで情報共有 入院時・退院時の情報提供の仕組みづくり 病院から直接介護事業所に情報提供する
急な退院など在宅の調整がつかないままの退院	<ul style="list-style-type: none"> 入院早期の連携を強化する 頻回に連絡を取り合い情報共有する 入退院時の情報提供を詳細にする 退院時の連絡の仕組みづくり
カンファレンスの減少 書面での情報と実際の状況の相違	<ul style="list-style-type: none"> 入退院時の詳細な情報提供 退院前カンファレンスの開催、参加(対面・WEB)

急変時の対応に関する調査票

37-(1) 利用者・患者の急変時の対応についてかかりつけ医と連携がとれていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



37-(2) また、その理由や具体的な状況を記入してください。

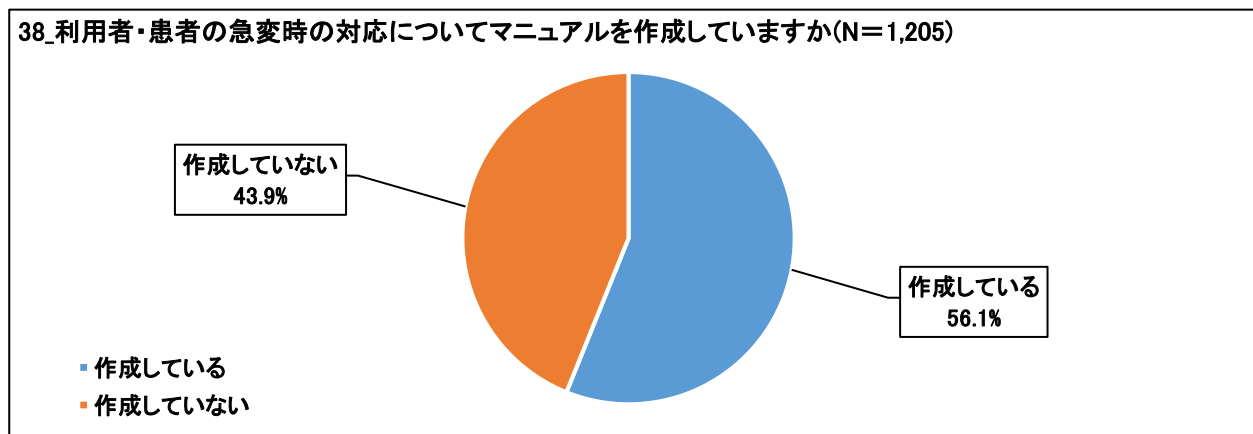
<連携がとれている・概ね連携がとれている>

- ・急変時の対応や連絡先について事前にかかりつけ医、本人、家族、ケアマネジャー等と相談し、確認している（訪問看護・居宅・訪問介護・小規模多機能・通所介護・通所リハ・短期入所・有料老人ホーム・包括）
- ・協力病院、嘱託医とは24時間体制で連携している（特養・老健・GH・養護）
- ・急変時はかかりつけ医に連絡している（薬局）

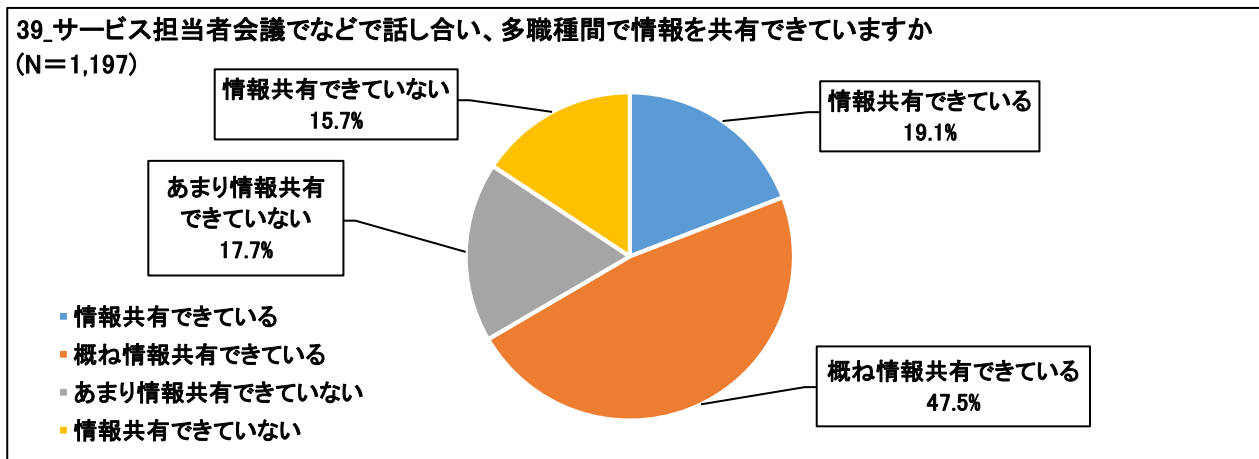
<あまり連携がとれていない・連携がとれていない>

- ・急変時は救急車を要請しており、かかりつけ医と話す機会はない（居宅・通所介護）
- ・そのような機会はなく必要性も感じない（歯科・薬局）
- ・看護職でないため緊急事態かどうかの判断が困難（居宅）
- ・急変が予想される方については対応を確認しているが、その他の利用者については確認していない（居宅）
- ・急変時は、ケアマネジャー又は訪問看護と連携しており直接かかりつけ医との連携はない（訪問介護・通所介護・通所リハ）
- ・協力病院へ搬送している（短期入所）

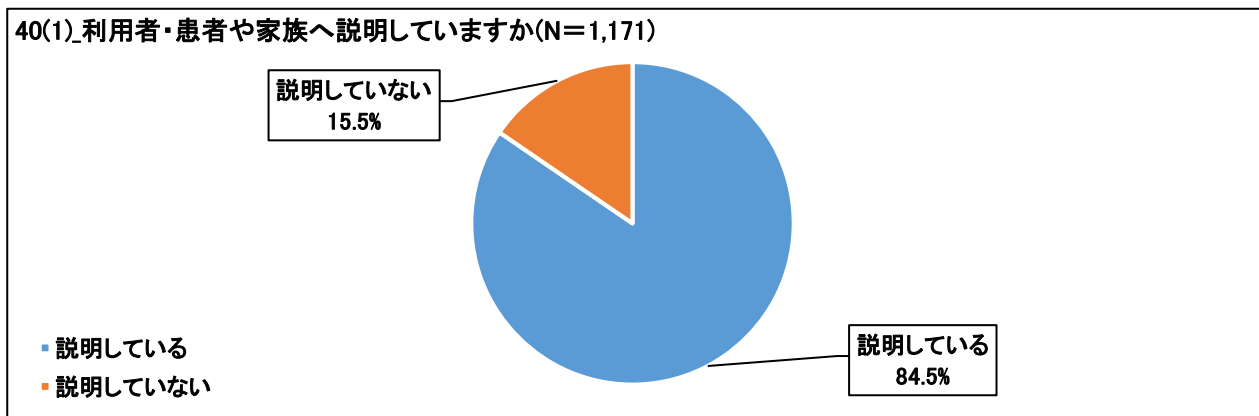
38 利用者・患者の急変時の対応についてマニュアルを作成していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



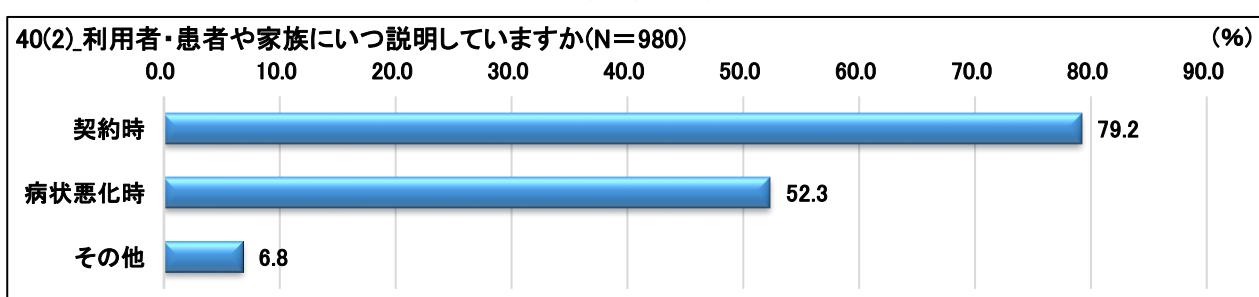
39 利用者・患者の急変時の対応についてサービス担当者会議などで話し合い、多職種間で情報を共有できていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



40- (1) 利用者・患者の急変時の対応について、利用者・患者や家族へ説明していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



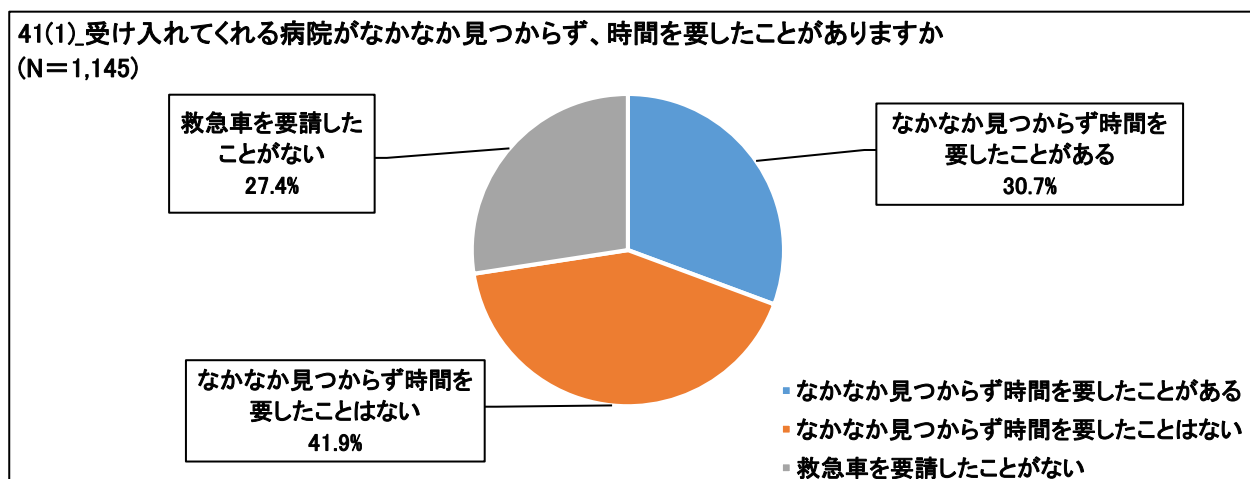
40- (2) 40- (1) で「①説明している」と答えた方、利用者・患者や家族にいつ説明していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



40- (3) 40- (1) で「②説明していない」と答えた方、理由は何ですか？

- ・全てを説明すると不安・心配をおおることになるため（診療所・歯科）
- ・必要性を感じない（歯科）
- ・そのような状況、機会がないため（歯科）
- ・かかりつけ医、病院から説明があっているため（薬局）
- ・在宅を行っていないため（歯科・薬局）
- ・ケアマネジャーが説明しているため（訪問介護・短期入所）

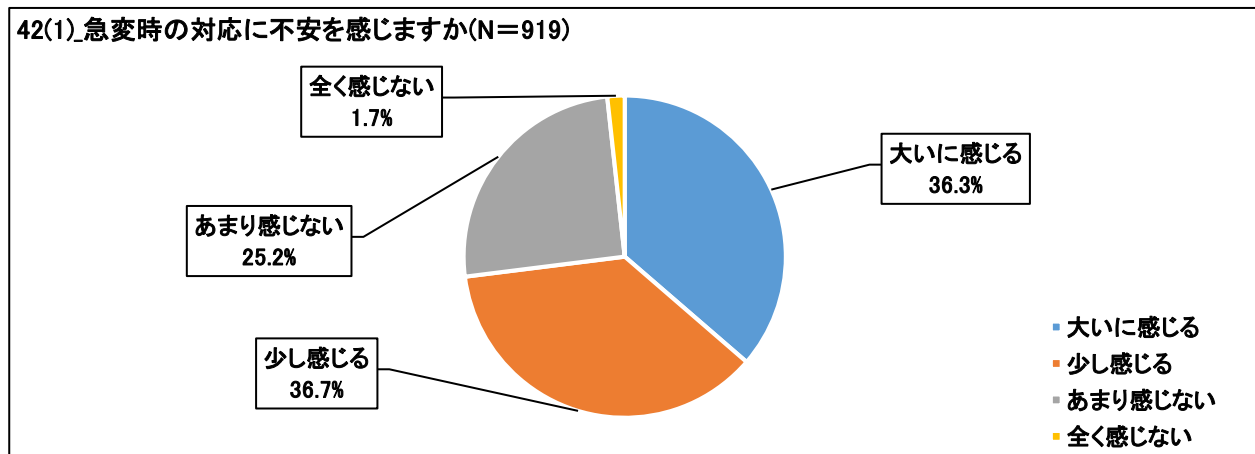
41- (1)（※病院以外にお伺いします）利用者・患者の急変時に救急車を要請した際に、受け入れてくれる病院がなかなか見つからず、時間を要したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



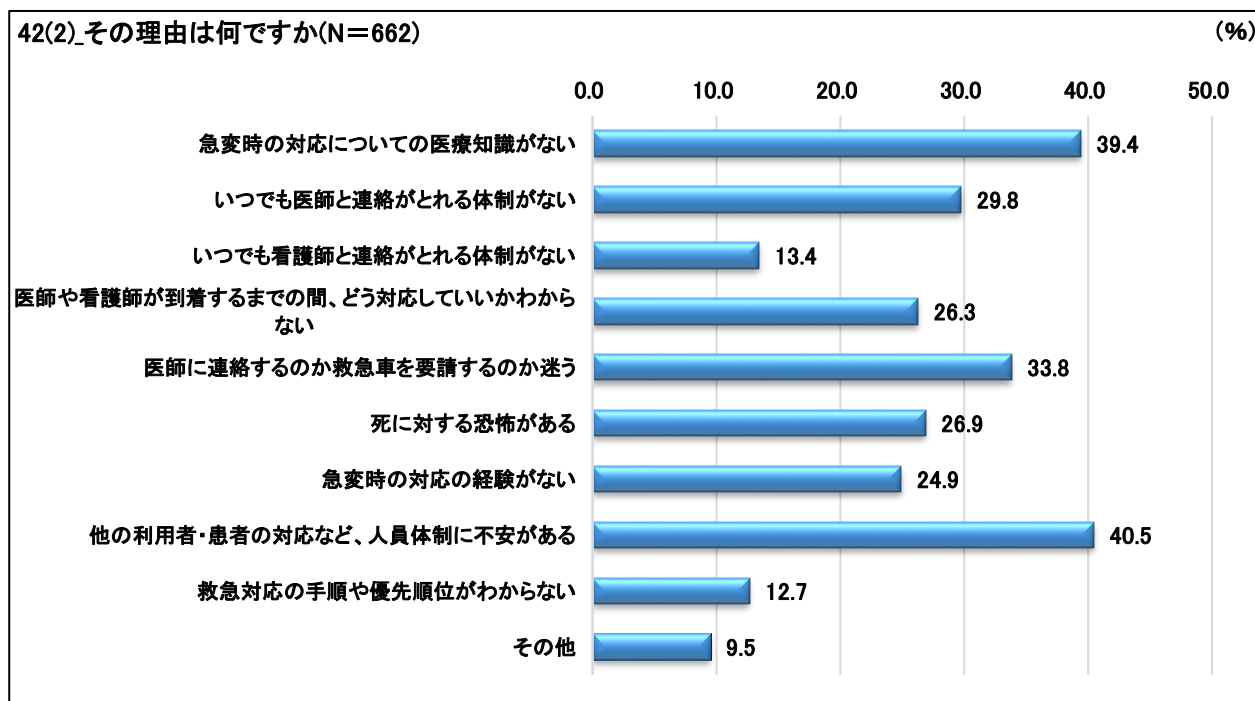
41- (2)（※病院以外にお伺いします） 41- (1) で「①なかなか見つからず時間を要したことがある」と答えた方、受け入れ病院が見つかりにくかった状況について具体的にご記入ください

- ・精神疾患、認知症があると受け入れ先が限られる（病院・診療所・訪問看護・居宅・小規模多機能・老健・GH・サ高住）
- ・コロナウイルス感染症対応で空床がなかった（診療所・訪問看護・包括・居宅・小規模多機能・通所介護・通所リハ・短期入所・特養・老健・有料・GH・養護・サ高住）
- ・コロナ禍で患者の発熱がある場合は受け入れまでに時間がかかる（診療所・訪問看護・居宅・訪問介護・小規模多機能・通所介護・通所リハ・短期入所・特養・老健・有料・GH・サ高住）
- ・その疾患の専門医がいないため断られた（診療所・訪問看護・包括・居宅・訪問介護小規模多機能・短期入所・特養）
- ・かかりつけ病院だが輪番日ではないため受け入れ拒否があった（訪問看護）
- ・休日・早朝夜間等の時間帯で対応できないため（診療所・訪問看護・包括・居宅・訪問介護・通所介護・短期入所・特養・サ高住）
- ・満床のため断られた（診療所・訪問看護・包括・居宅）
- ・高齢であるため断られた（短期入所・有料・特養・ケアハウス）

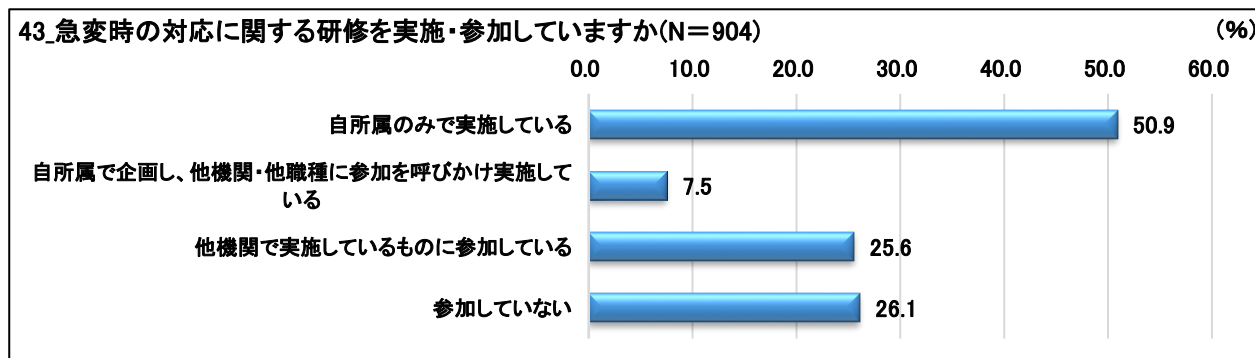
42- (1) (※病院・診療所以外にお伺いします) 急変時の対応に不安を感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



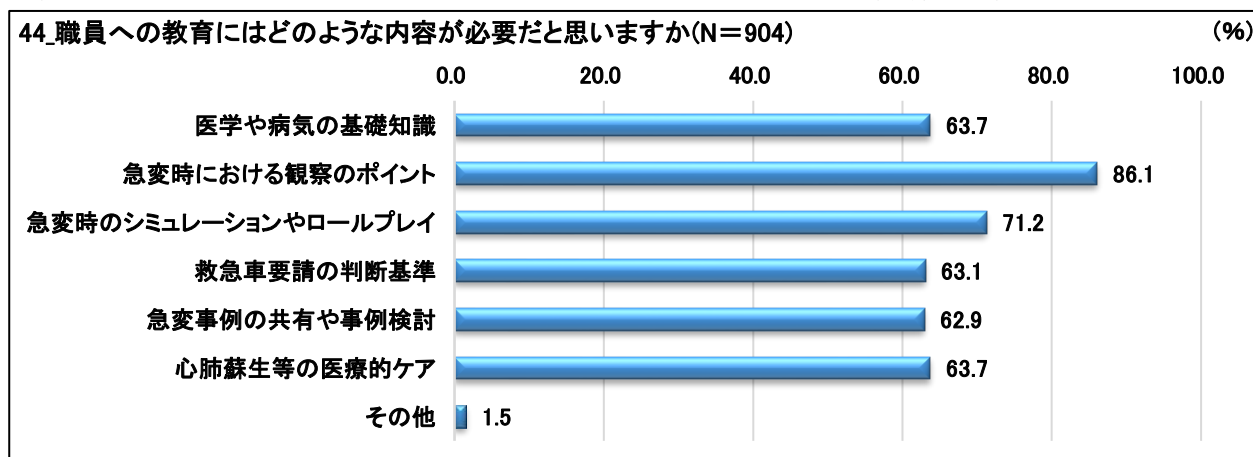
42- (2) (※病院・診療所以外にお伺いします) 42- (1) で「①大いに感じる」、「②少し感じる」と答えた方、その理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



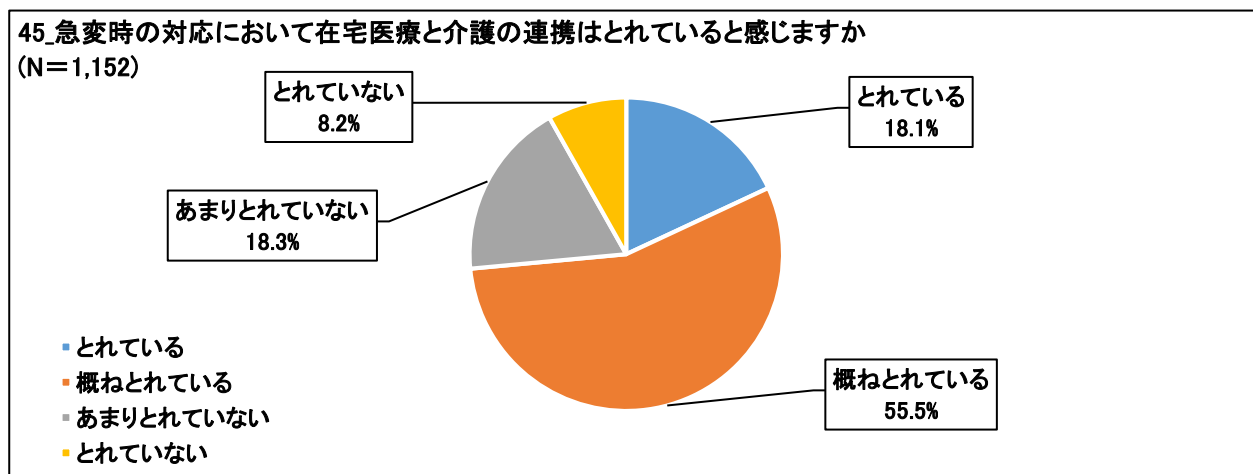
43 (※病院・診療所以外にお伺いします) 急変時の対応に関する研修を実施・参加していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



44 (※病院・診療所以外にお伺いします) 急変時の対応に関する職員への教育にはどのような内容が必要だと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



45 急変時の対応において在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



46 現状の救急医療体制で改善してほしいことがあればお書きください

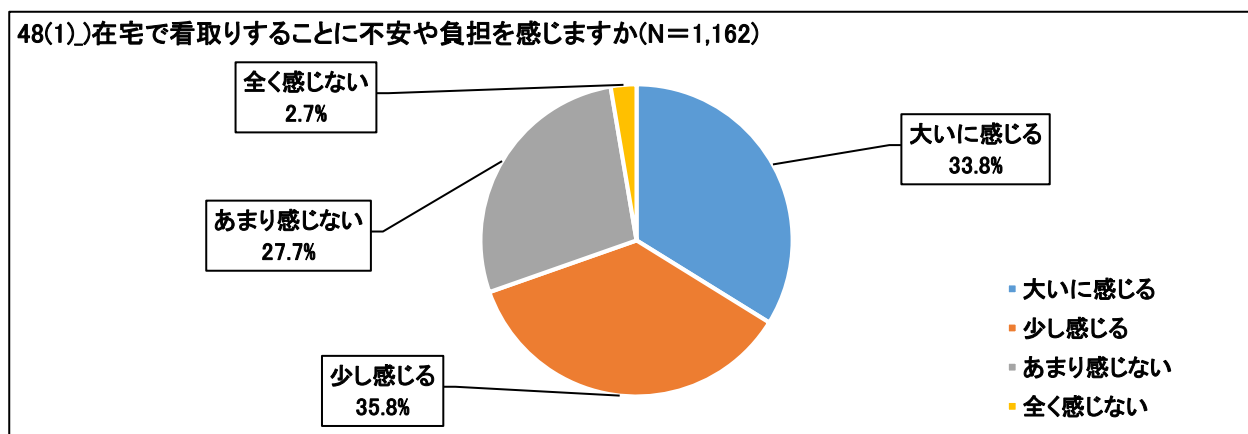
項目	具体的意見（抜粋）
輪番病院体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・輪番病院を増やしてほしい ・当直医師の情報（診療科等）を開示する ・どんな患者でも受け入れられる体制の確立 ・内科外科専門問わず全般的に対応できる医師を当直にあててほしい
高齢者の救急体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は急性期病院でなく、かかりつけ医や慢性期病院、回復期病院が主に対応する体制づくり
精神科救急の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・せん妄、自殺企図、認知症等がある患者を受け入れる体制を整えてほしい
電話相談システム	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職が救急要請する際に相談するような場所がほしい
救急隊の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・これくらいで呼ばないでほしいというような態度 ・高圧的な態度 ・怒鳴られた経験がある介護職も多い ・救急搬送を躊躇する要因にもなるので家族や介護職に寄り添ってほしい
ACP の反映	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の ACP が反映されないことがある（蘇生を望んでいない人が蘇生をされたり等）
介護職に救急車同乗を求めないでほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・その後の訪問等に影響が出る ・対応しても報酬はない
個人情報の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・救急隊からは救急車要請時、多くの情報を聞かれるが、搬送後に消防に搬送先をきくと個人情報なので教えられないといわれる
救急隊や搬送先病院が必要な情報を事前に知りたい	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような項目が必要なのか事前に知りたい ・書式等統一してもらえれば聞き取り時間の短縮になると思う

47 急変時の対応を行うにあたっての在宅医療・介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください

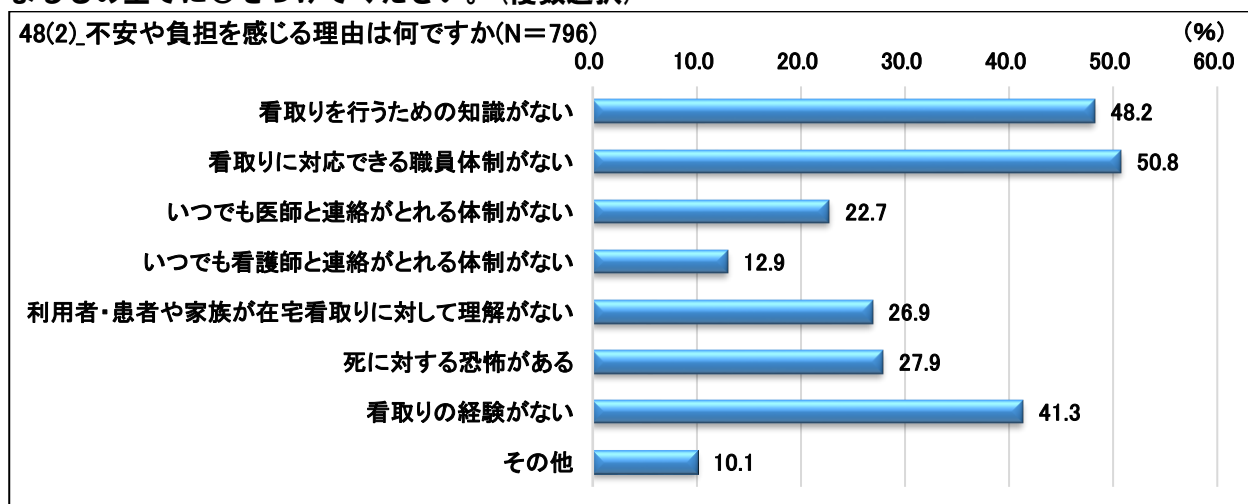
課題	解決策
急変時の対応について家族・関係者間で統一されていない	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの ACP と関係者間での共有
介護職の急変時に対する不安が大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の開催 ・緊急時対応マニュアル・シートの作成 ・シミュレーションの機会の確保 ・急変時に起こりうる症状、対応方法の共有 ・医療職に気軽に相談できる関係づくり
急変時に介護職から医療職へ伝達すべき事項がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達が必要な項目をリスト、シート化し共有しておく
輪番病院における専門医の不在	<ul style="list-style-type: none"> ・総合専門医の確保、配置
土日・夜間に主治医に連絡がつかないことがある	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも連絡のつく連絡先の確認と共有
ヘルパーに救急車同乗を求められる	<ul style="list-style-type: none"> ・余裕のある人材配置 ・報酬をつける

看取りに関する調査票

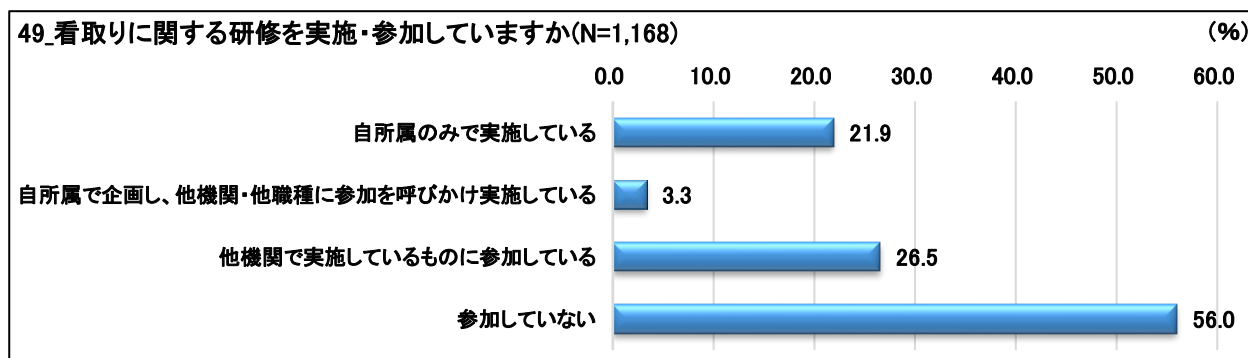
48- (1) 在宅で看取りすることに不安や負担を感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



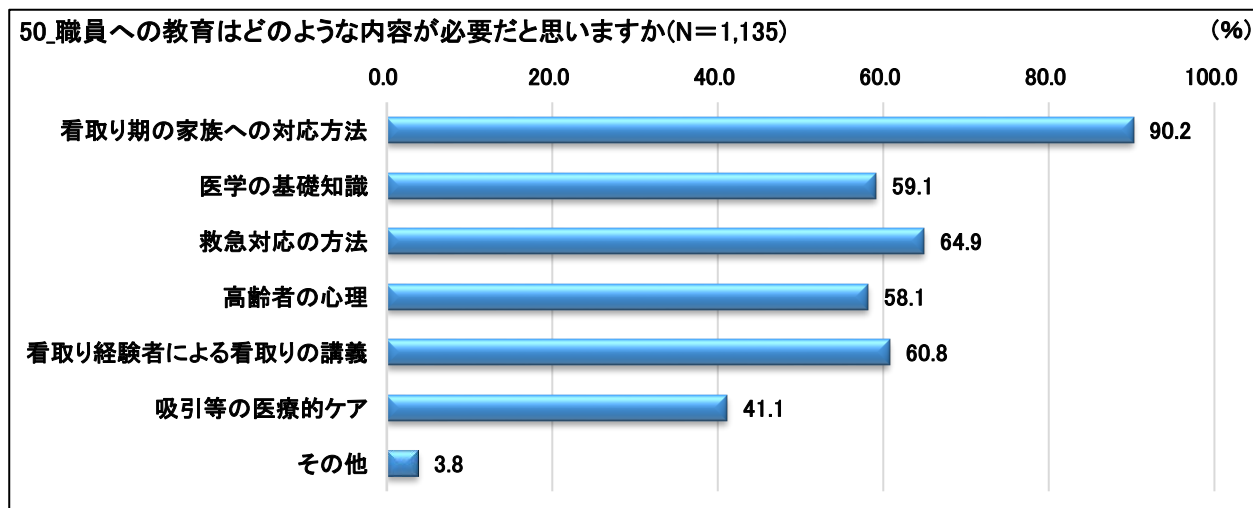
48- (2) 48- (1) で「①大いに感じる」、「②少し感じる」と答えた方、その理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



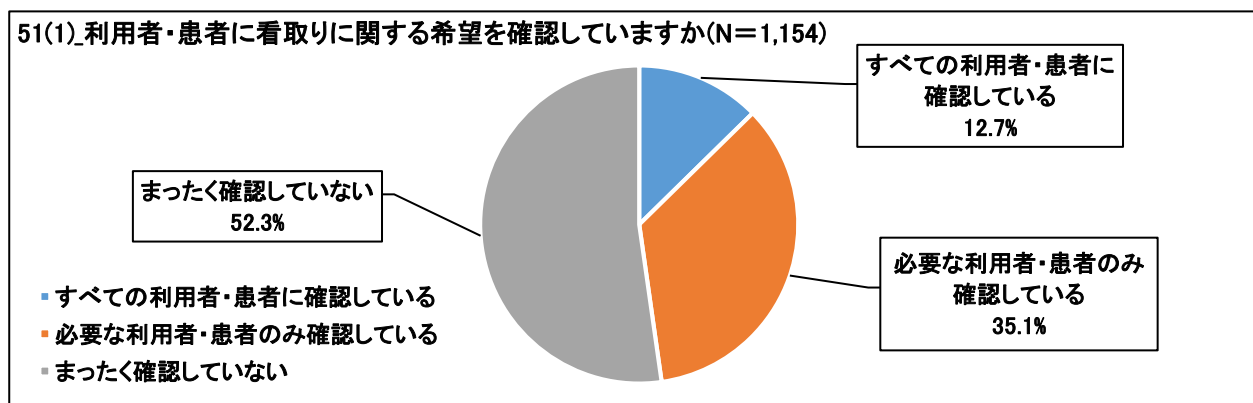
49 看取りに関する研修を実施・参加していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



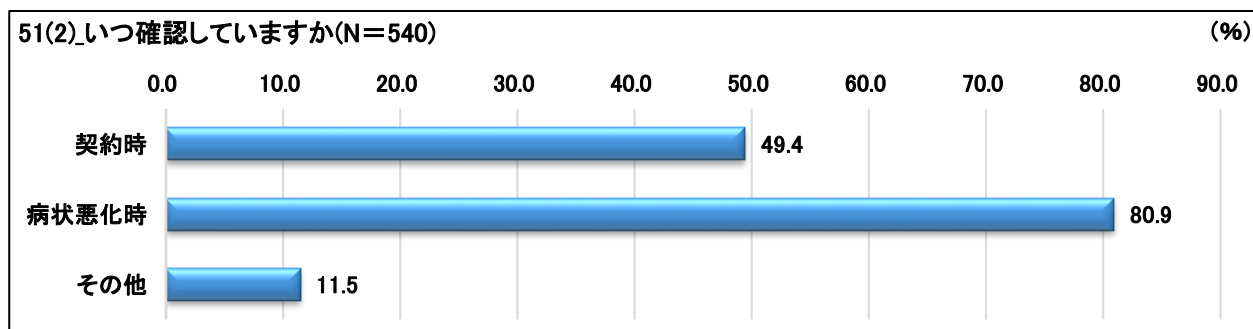
50 在宅での看取りに関する職員への教育にはどのような内容が必要だと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



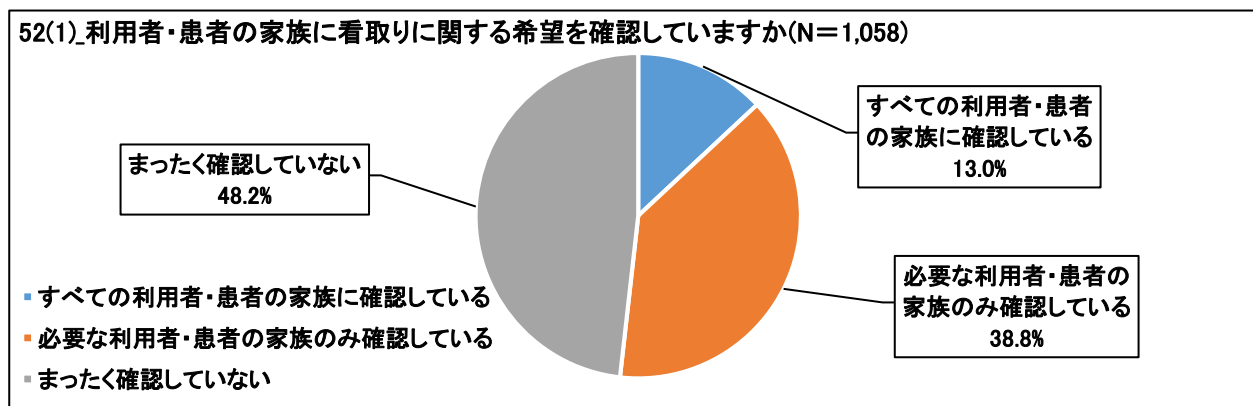
51- (1) 貴事業所では、利用者・患者に看取りに関する希望を確認していますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。(1 つ選択)



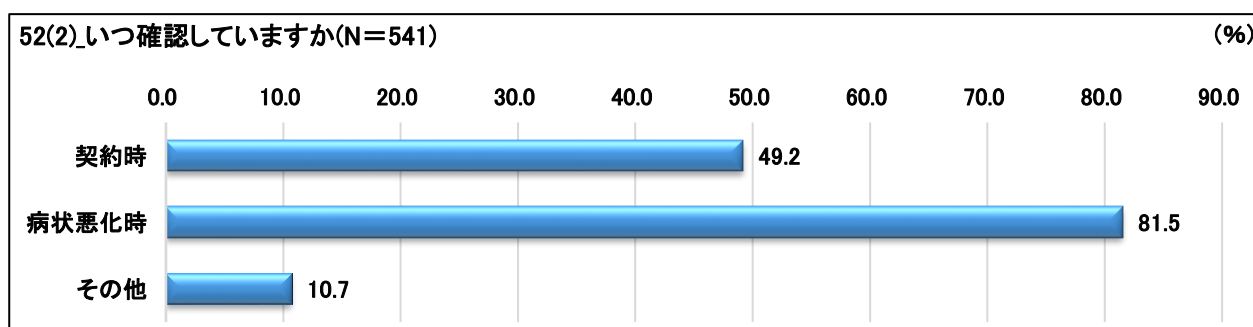
51- (2) 51- (1) で「①すべての利用者・患者に確認している」、「②必要な利用者・患者のみ確認している」と答えた方、いつ確認していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



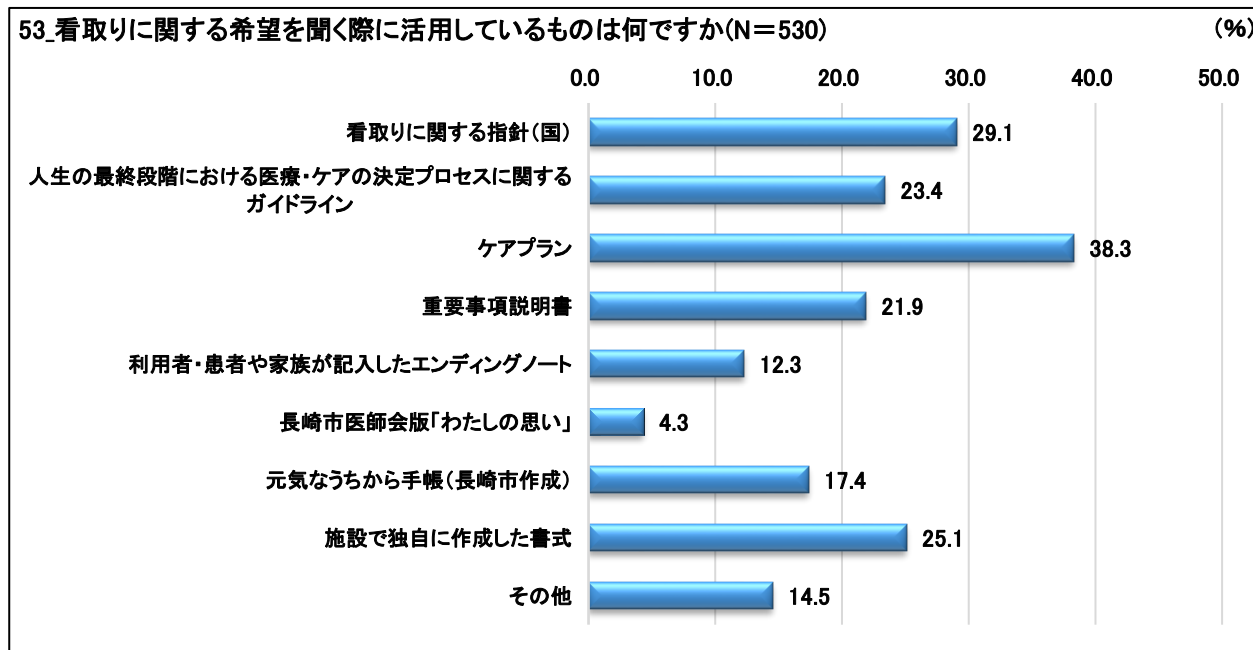
52- (1) 利用者・患者の家族に看取りに関する希望を確認していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



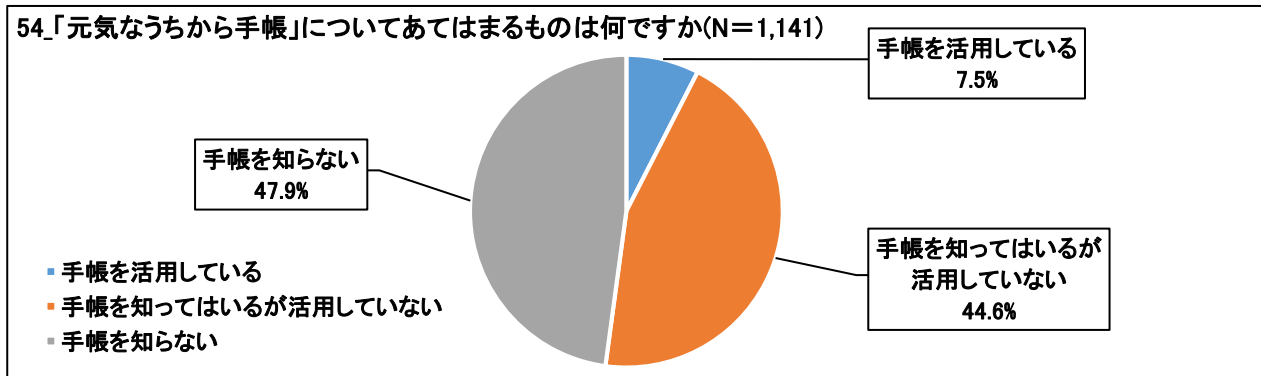
52- (2) 52- (1) で「①すべての利用者・患者の家族に確認している」、「②必要な利用者・患者のみ確認している」と答えた方、いつ確認していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



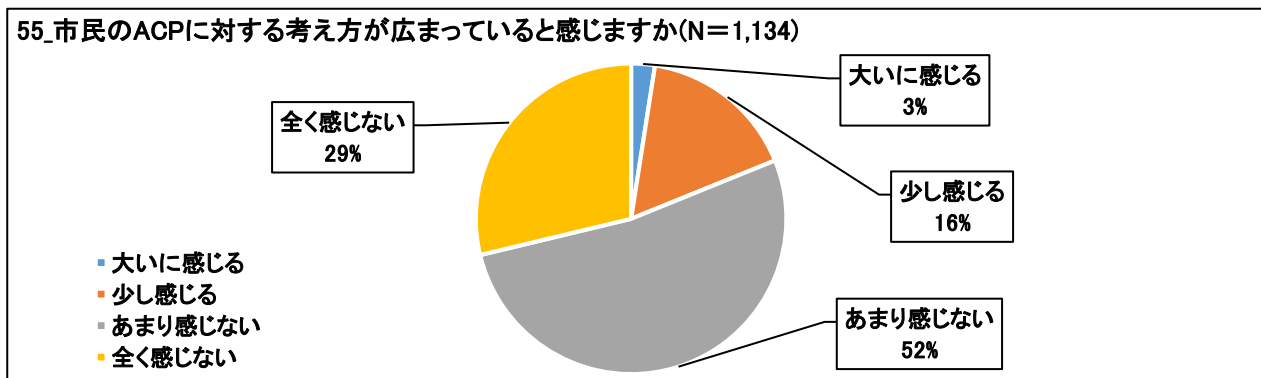
53 51- (1) または 52- (1) で「①すべての利用者・患者の家族に確認している」、「②必要な利用者・患者のみ確認している」と答えた方、看取りに関する希望を聞く際に活用しているものは何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



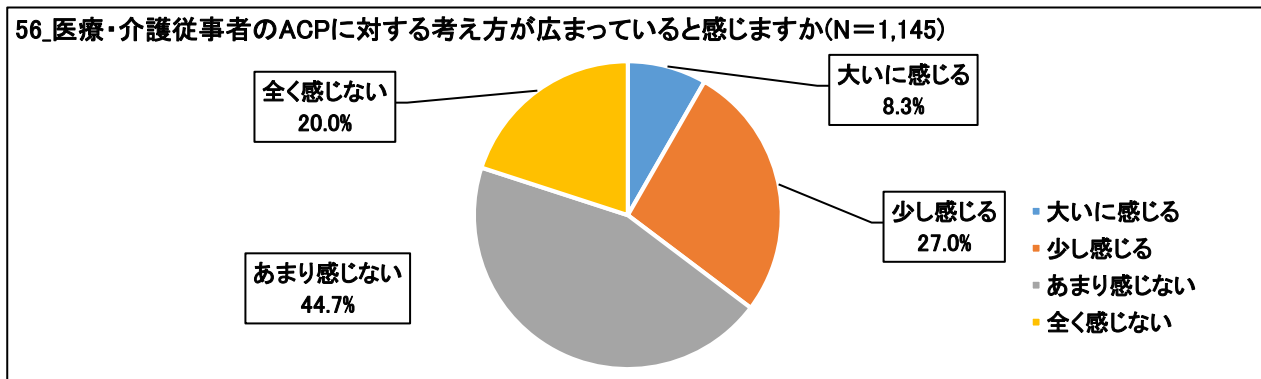
54 長崎市ではACP（人生会議、アドバンス・ケア・プランニング）について考えるきっかけ作りとして、令和元年度に「元気なうちから手帳」を作成しました。これについてあてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



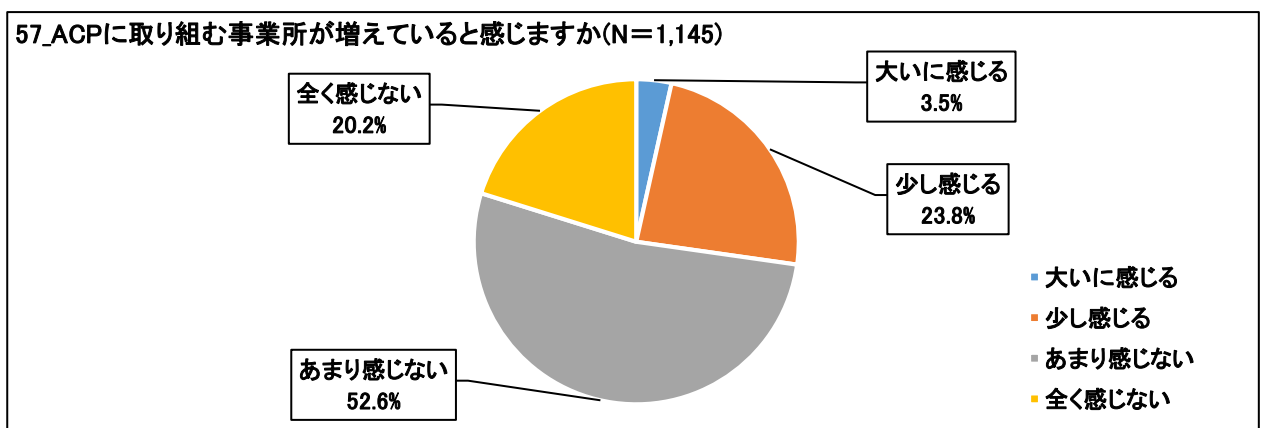
55 市民のACPに対する考え方が広まっていると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



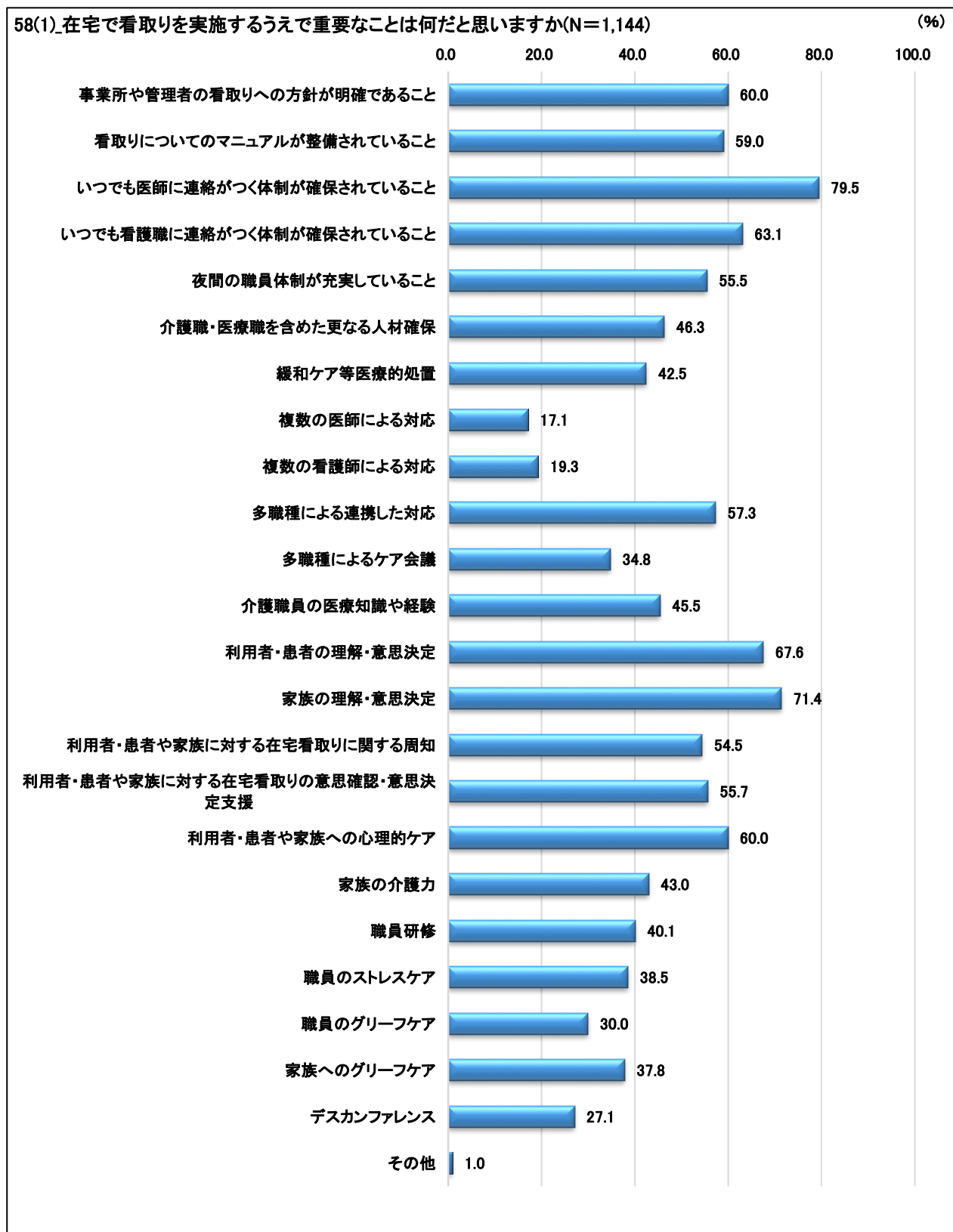
56 医療・介護従事者のACPに対する考え方が広まっていると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



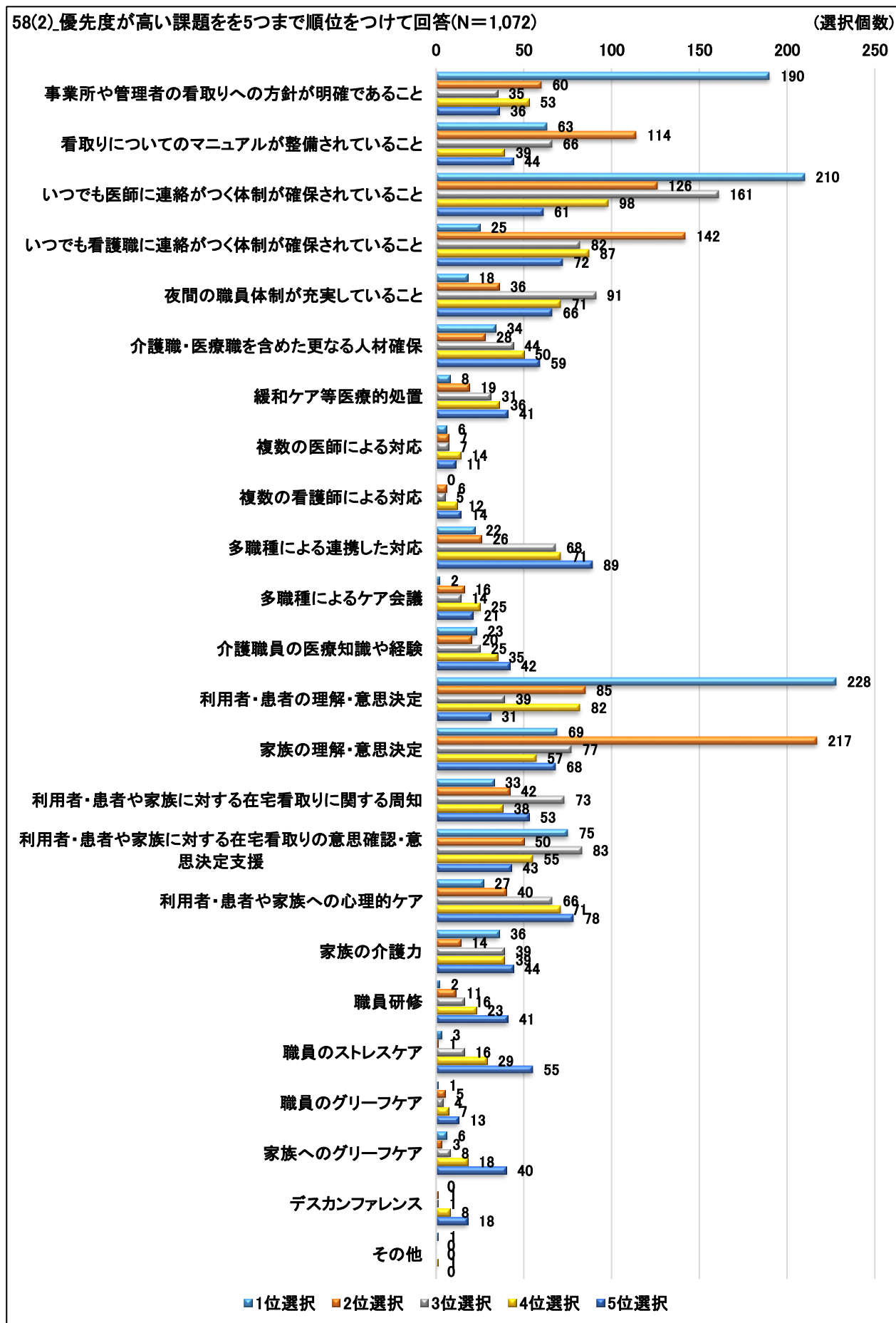
57 ACPに取り組む事業所が増えていると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（1つ選択）



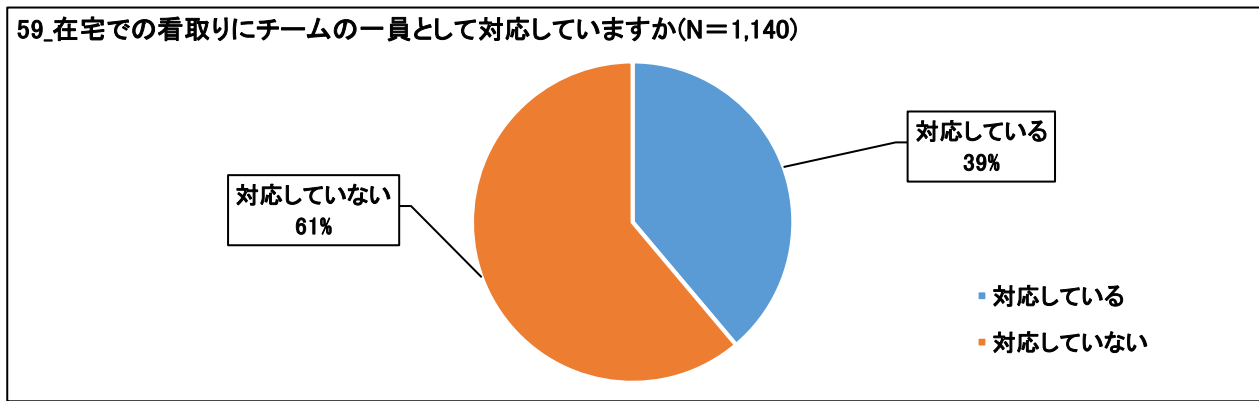
58- (1) 在宅で看取りを実施するうえで重要なことは何だと思えますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



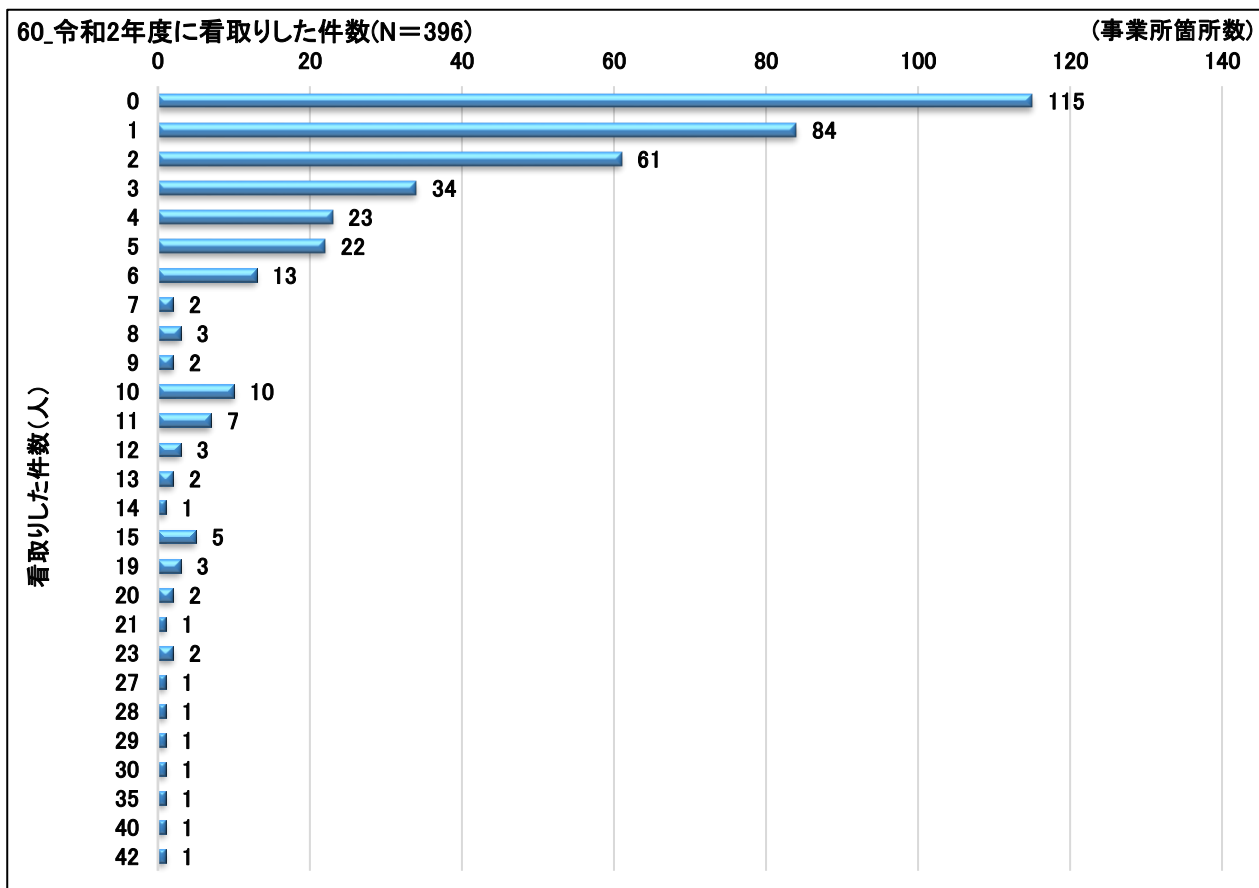
58- (2) また、その中でも優先度が高い課題を5つまで順位をつけて回答してください。(5位まで選択)



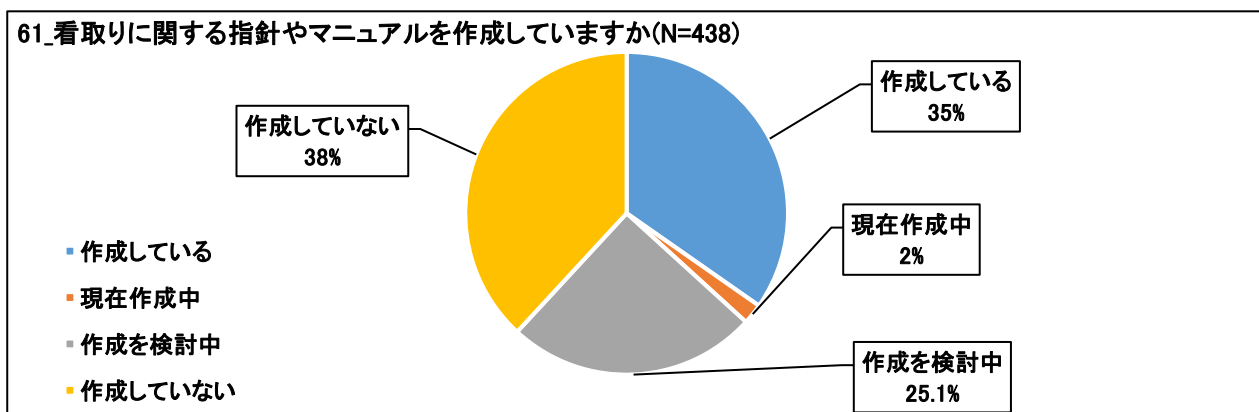
59 貴事業所は、在宅での看取りにチームの一員として対応していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



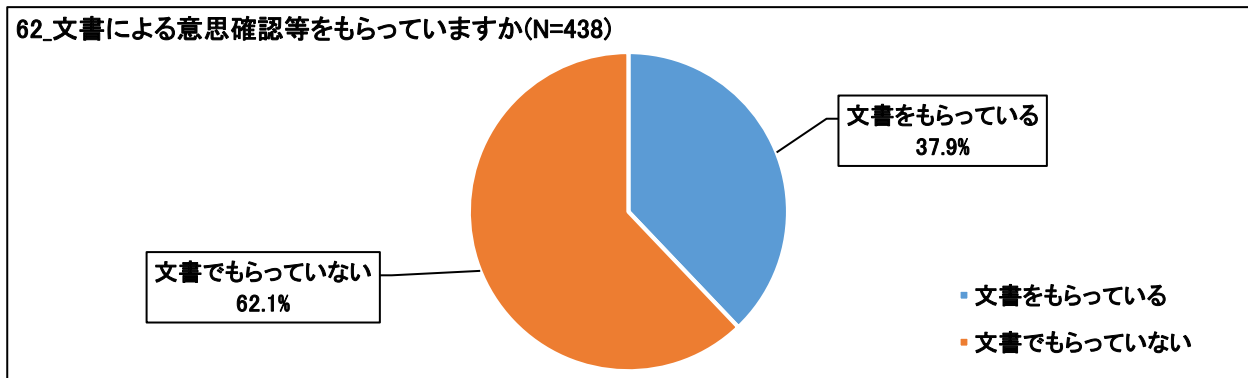
60 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) 令和2年度に看取りに対応した件数は何件でしたか。



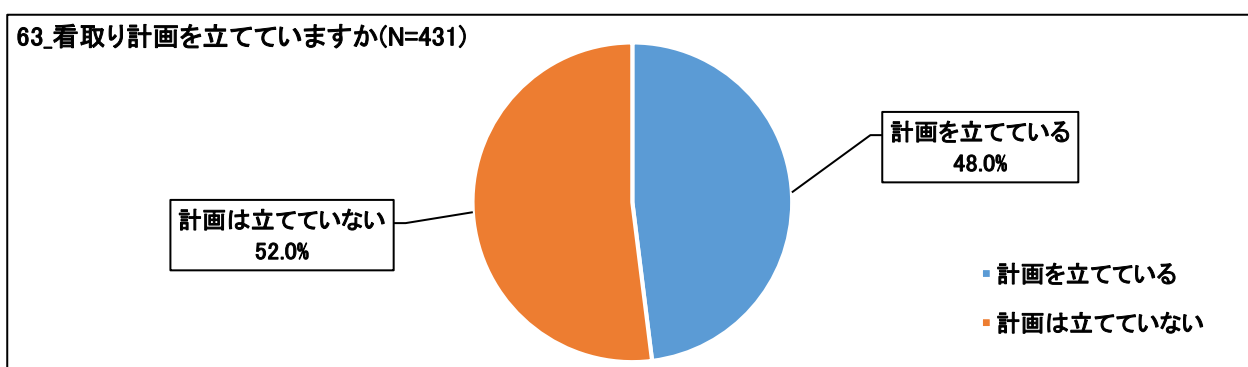
61 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) 看取りに関する指針やマニュアルを作成していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



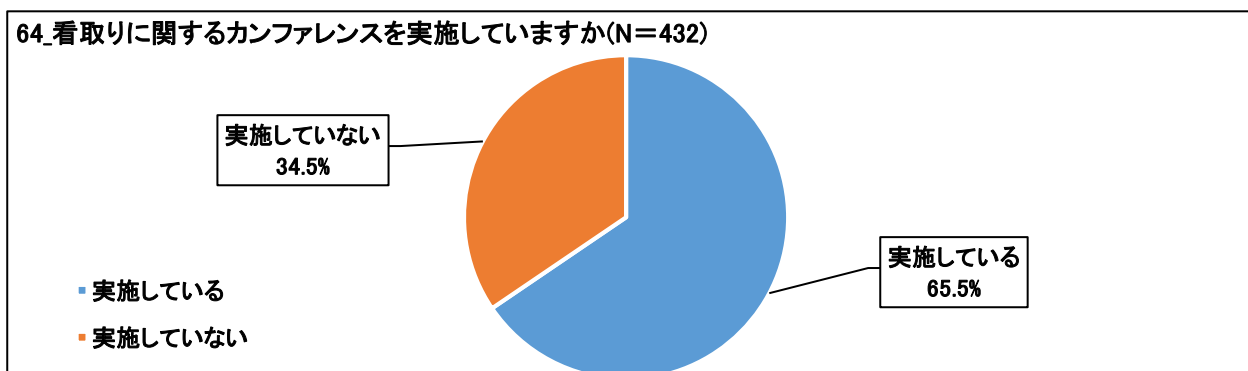
62 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) 看取り希望者に文書による意思確認等を得ていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



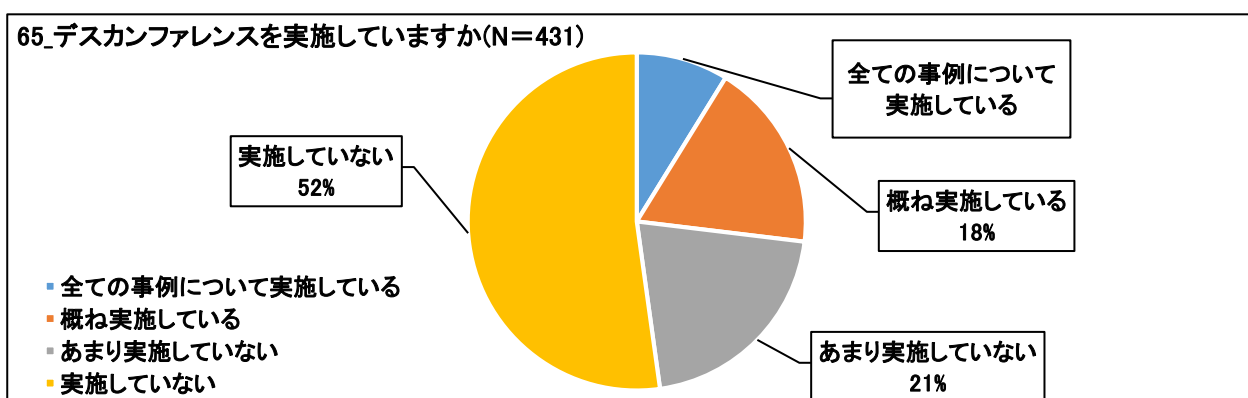
63 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) 看取り期に入った利用者・患者に対し、看取り計画を立てていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



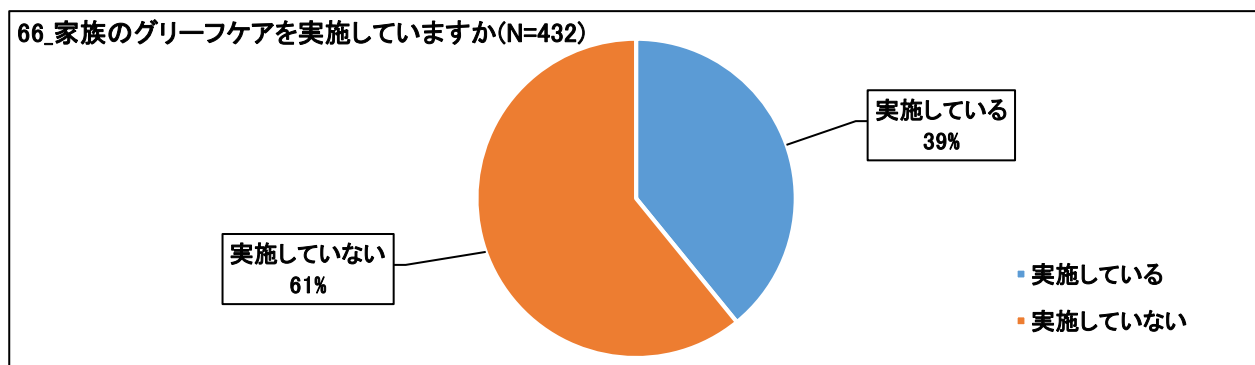
64 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) 看取りに関するカンファレンスを実施していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



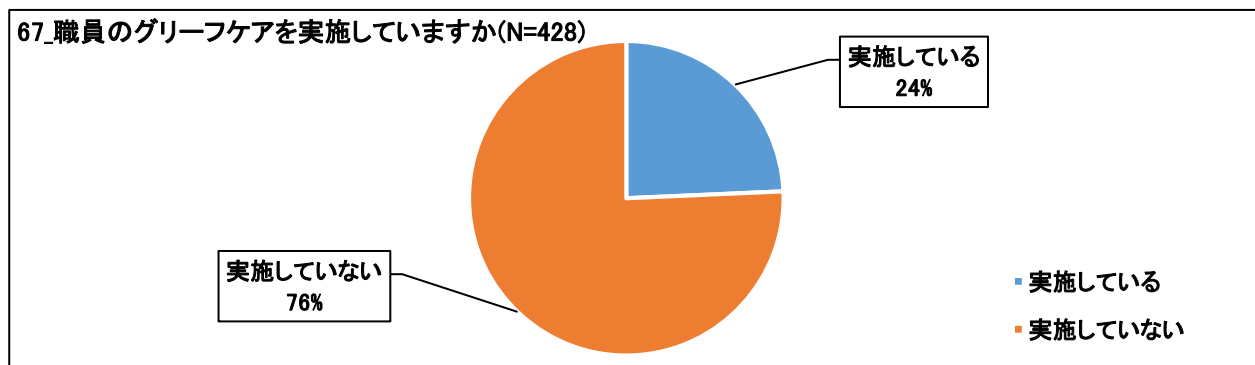
65 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) デスカンファレンスを実施していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



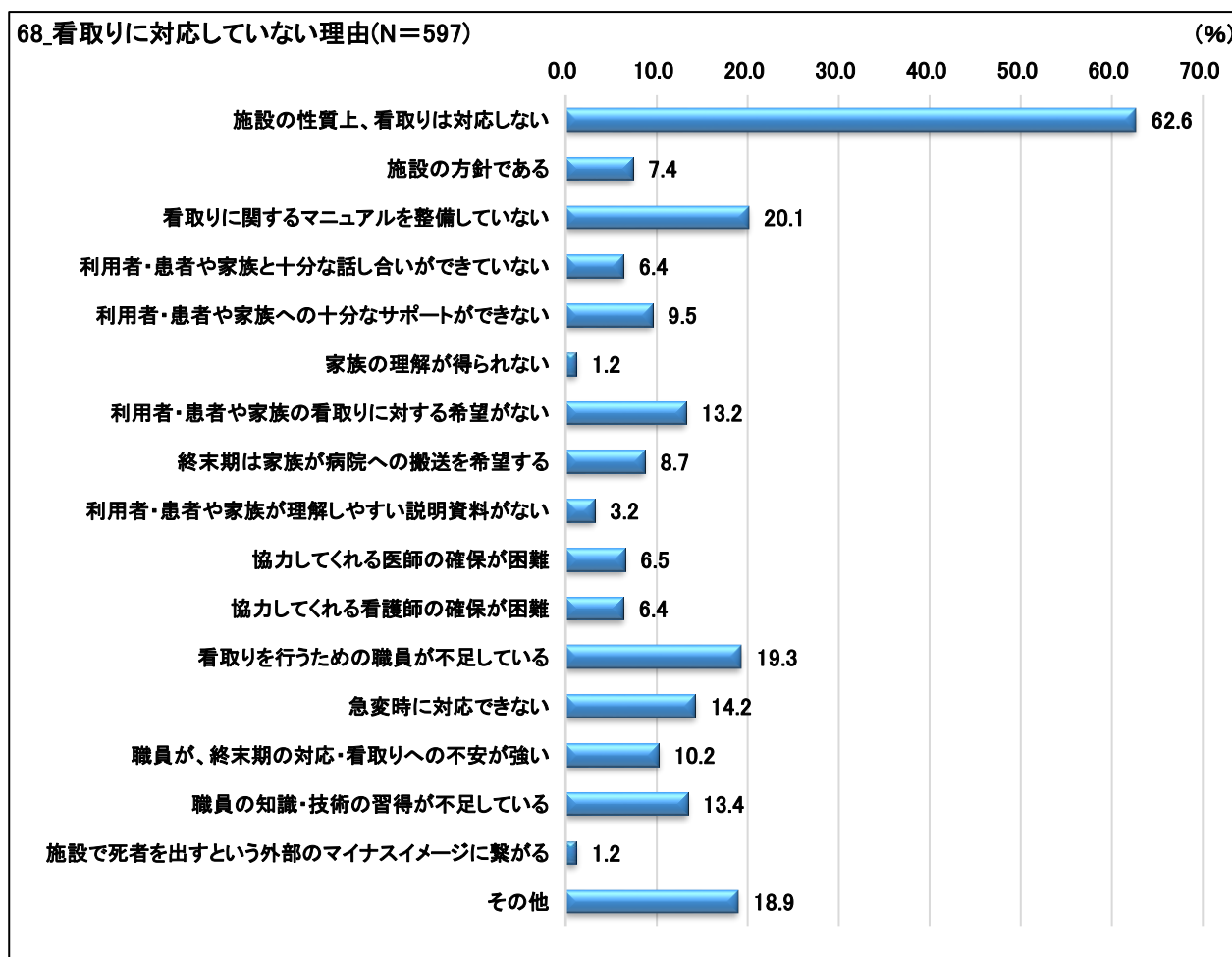
66 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) 家族のグリーフケアを実施していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



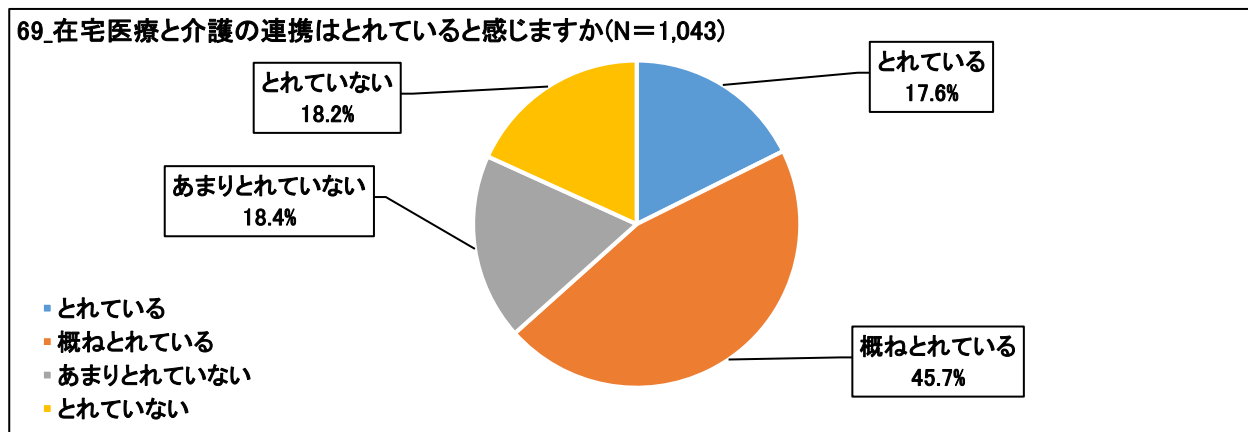
67 (※59 で看取りに「①対応している事業所」) 職員のグリーフケアを実施していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



68 (※59 で看取りに「②対応していない事業所」) 看取りに対応していない理由は何ですか、あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



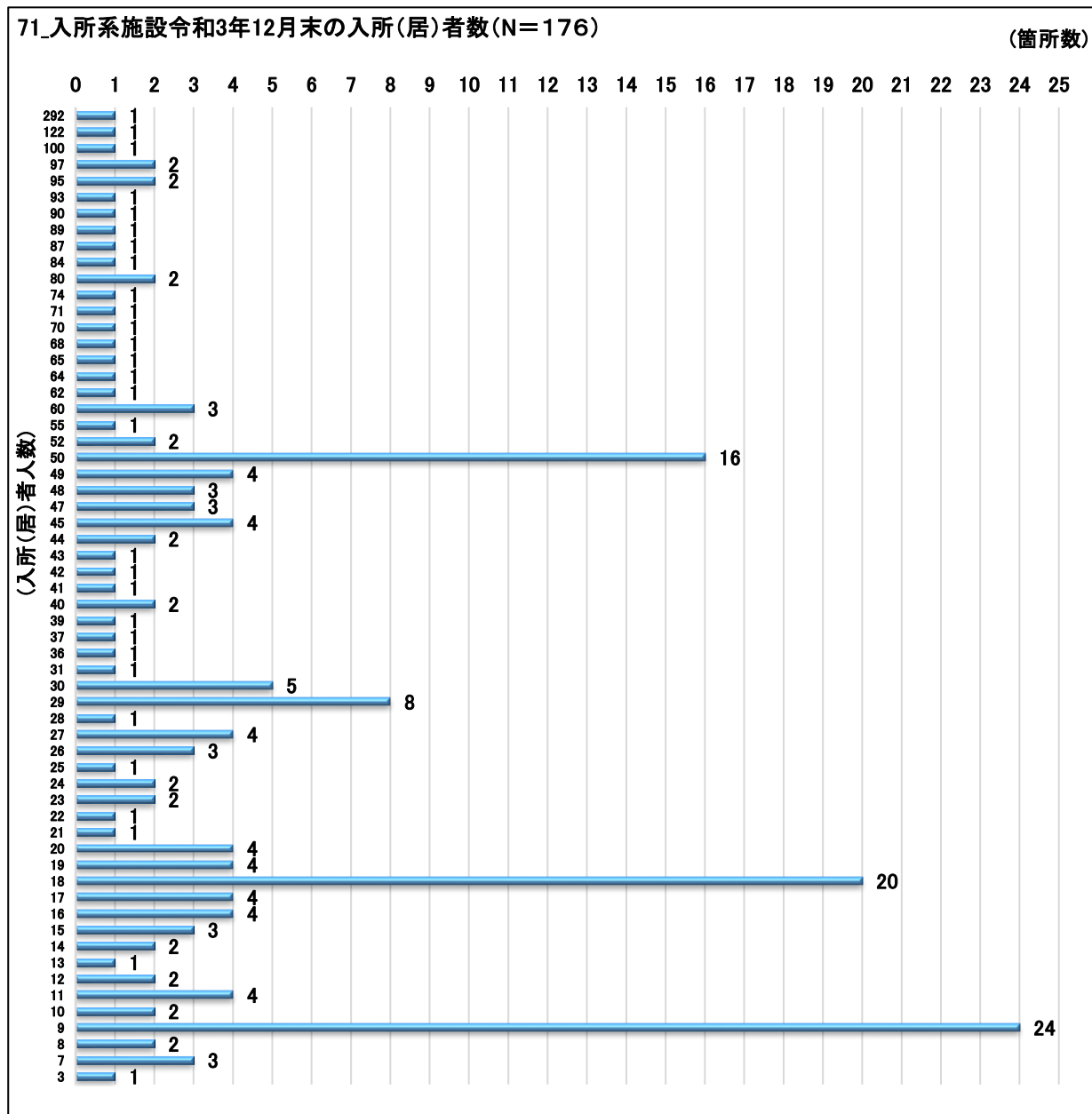
69 看取りにおいて在宅医療と介護の連携はとれていると感じますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。(1 つ選択)



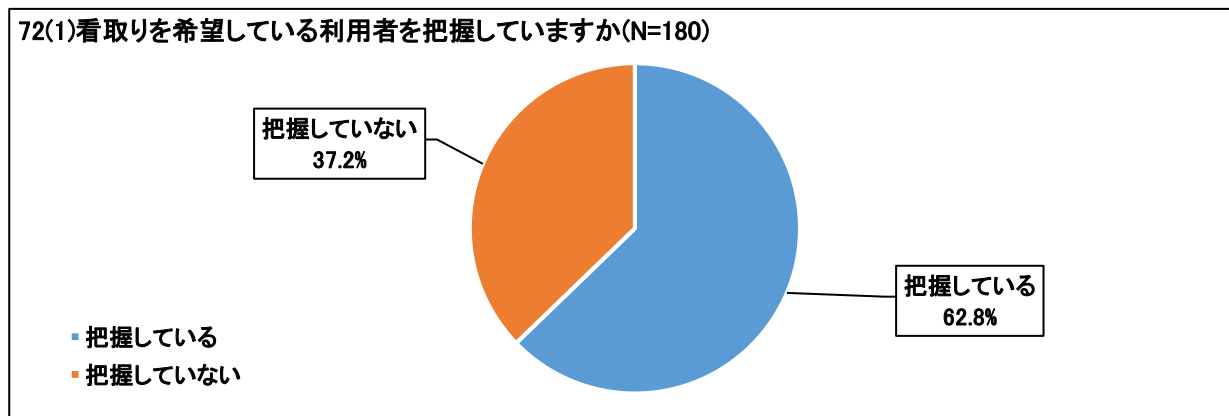
70 看取りを行うにあたっての医療と介護の連携における課題とその解決策や提案事項を具体的に記入してください。

課題	解決策
本人・家族の意思決定支援	多職種連携チームで意思決定支援を繰り返し行う 定期的な意思決定支援 意思決定の情報共有 ACP の普及啓発
介護職の看取りへの恐怖、経験不足、知識不足	看取りや終末期に関する研修会、デスカンファレンス 職員へのグリーフケア
急変時の対応	複数の医療機関での対応 24 時間の医師や訪問看護への連絡体制
一人夜勤の事業所は難しい、看取りを行うには職員が不足している	マンパワー不足の解消 いつでも連絡が取れる体制確保
家族の身体的心理的負担や介護力不足	家族の思いの傾聴 多職種での情報共有

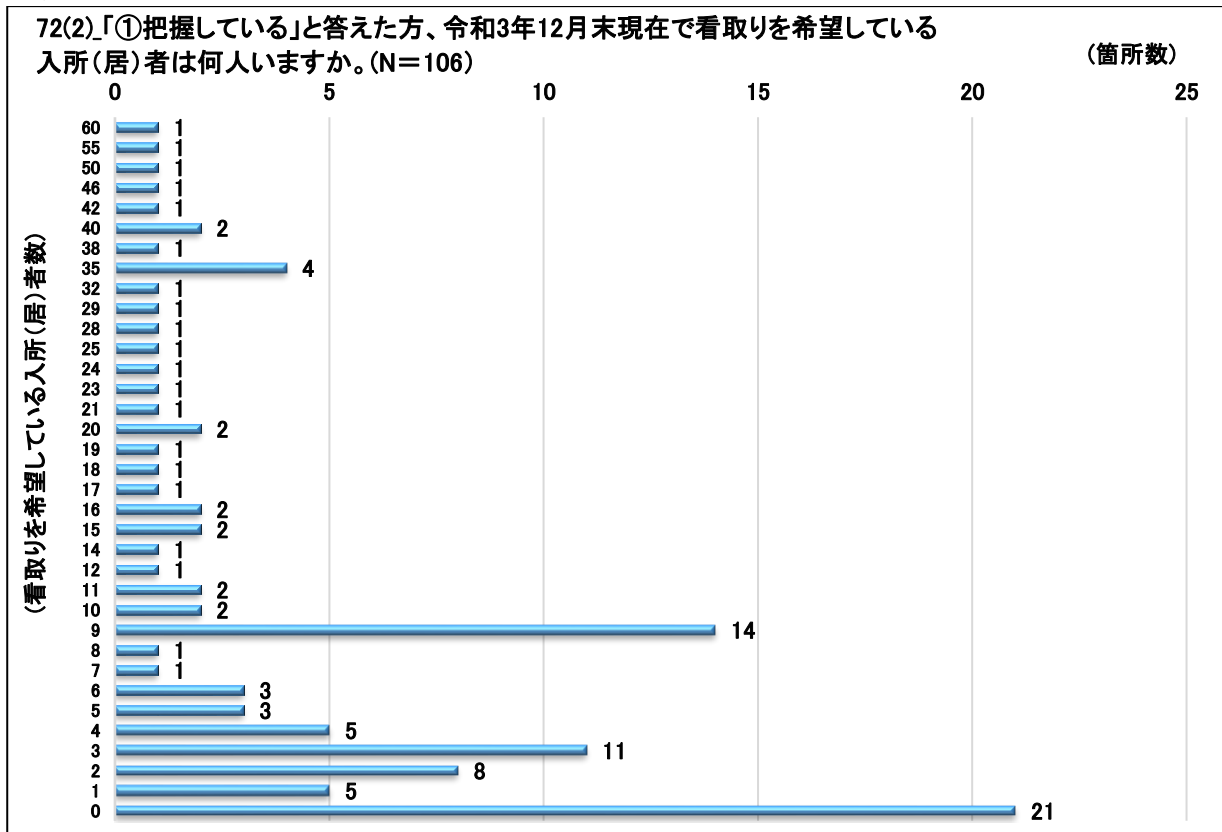
71 (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤～③⑥)) 令和3年12月末現在の入所(居)者は何人ですか。数字でご記入ください。



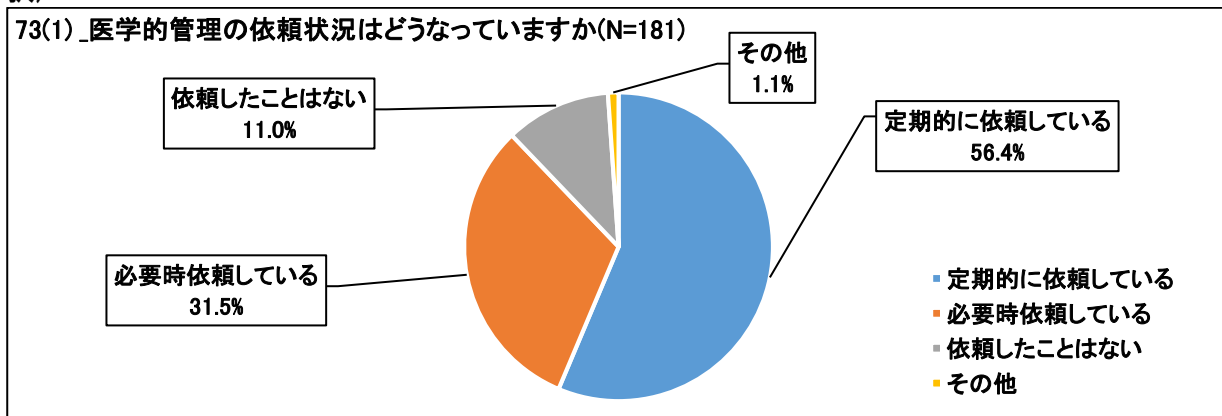
72- (1) (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤～③⑥)) 入所(居)者のうち看取りを希望している利用者を把握していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



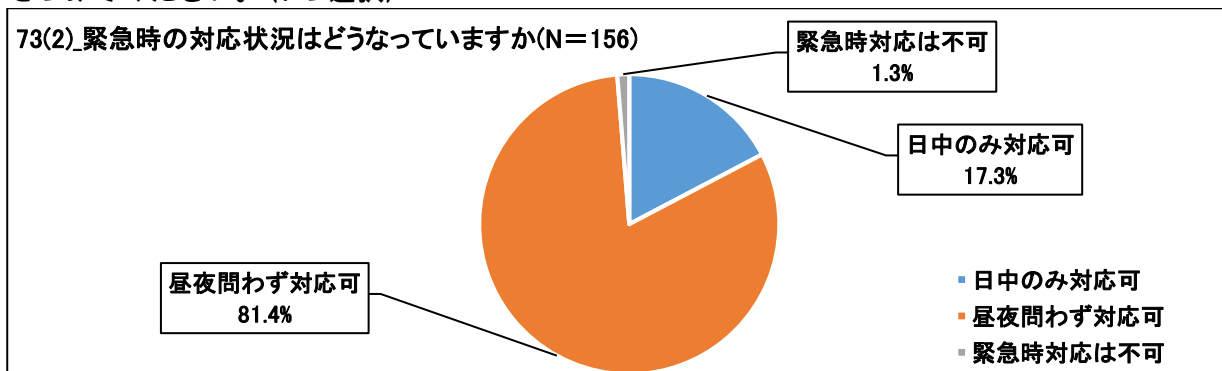
72- (2) (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤~③⑥)) 「①把握している」と答えた方、令和3年12月末現在で看取りを希望している入所(居)者は何人いますか。



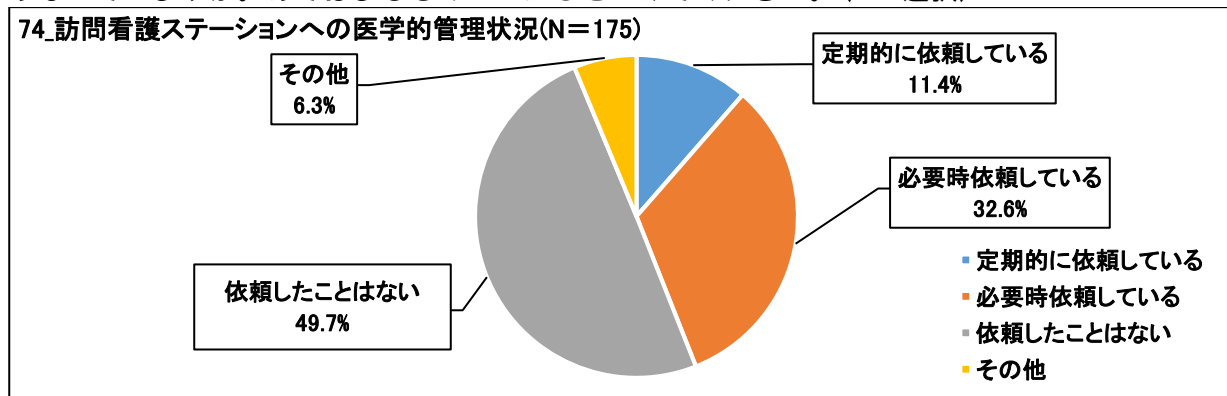
73- (1) (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤~③⑥)) 事業所の関連法人の医療機関や協力医療機関への医学的管理の依頼状況はどうなっていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



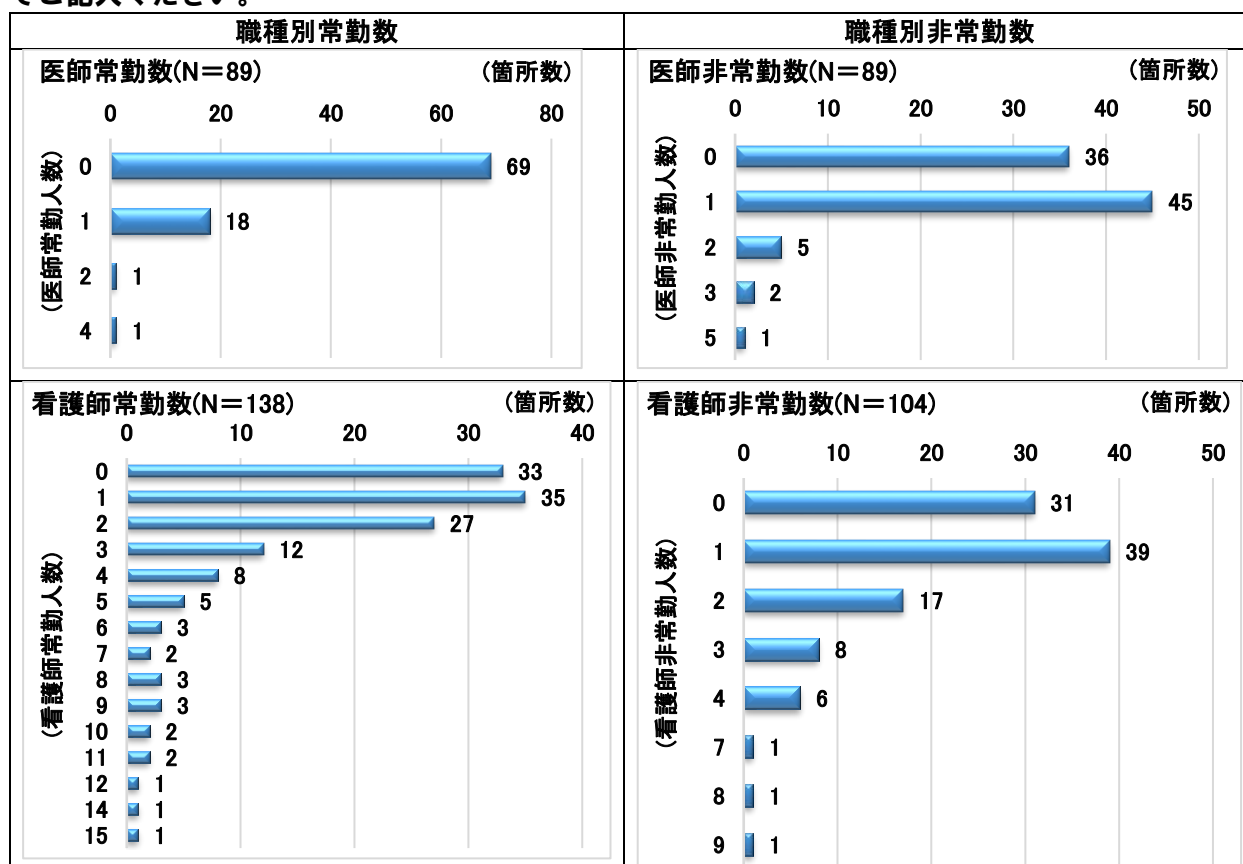
73- (2) (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤~③⑥)) 73- (1)で「①定期的に依頼している」、「②必要時依頼している」と答えた方、緊急時の対応状況はどうなっていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



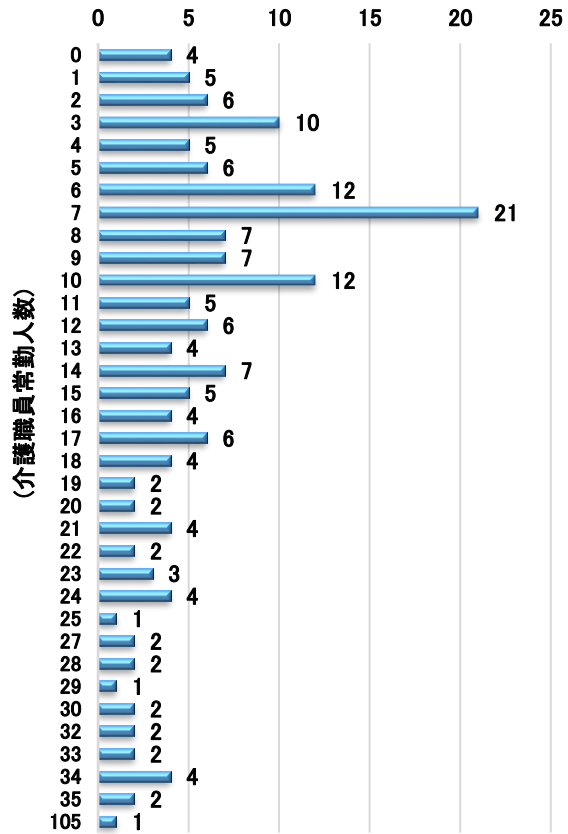
74 (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤~③⑥))訪問看護ステーションへの医学的管理の依頼状況はどうなっていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)



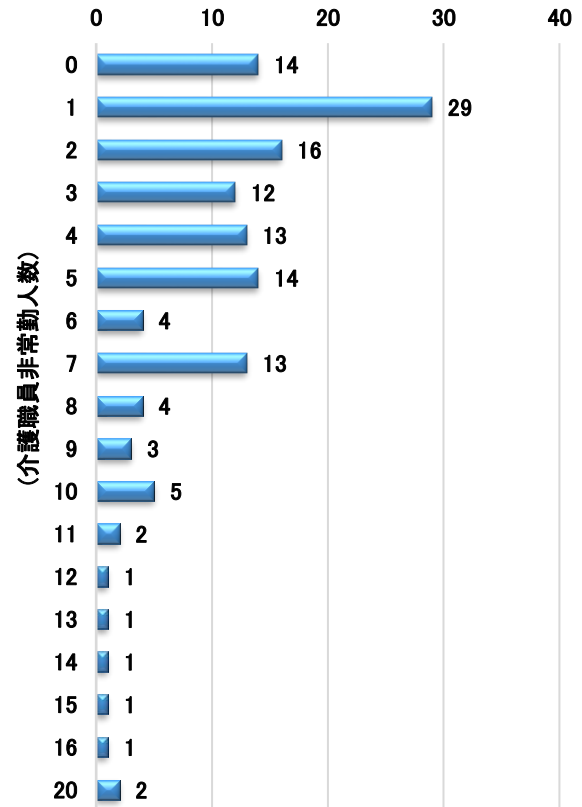
75 (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤~③⑥))R3年12月末現在の職員体制を常勤・非常勤別に数字でご記入ください。



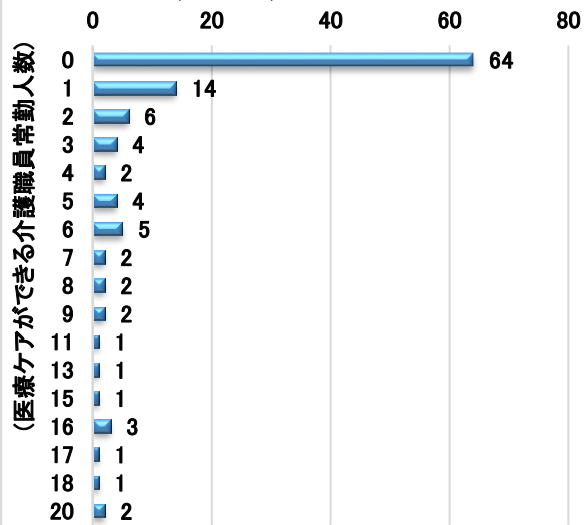
介護職員常勤数(N=172) (箇所数)



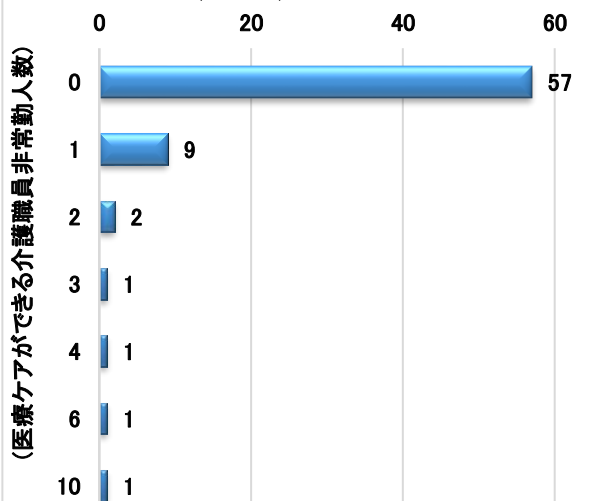
介護職員非常勤(N=136) (箇所数)



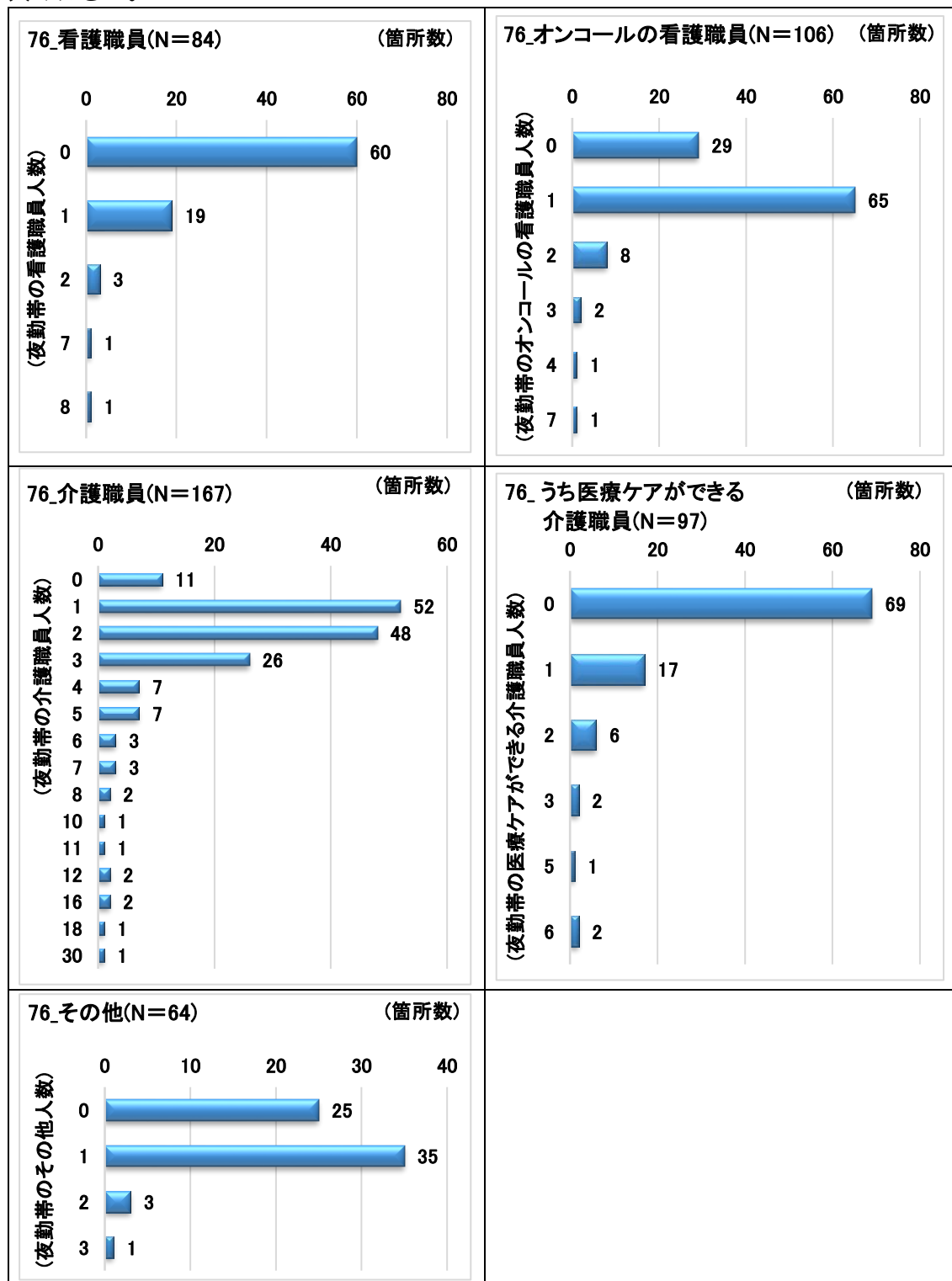
うち医療ケアができる介護職員常勤数 (箇所数) (N=115)



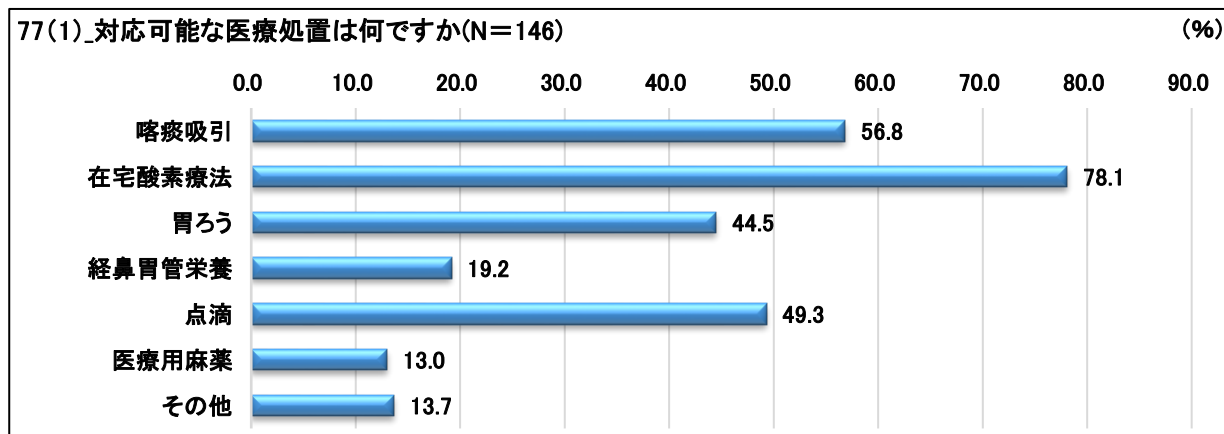
うち医療ケアができる介護職員非常勤数 (箇所数) (N=72)



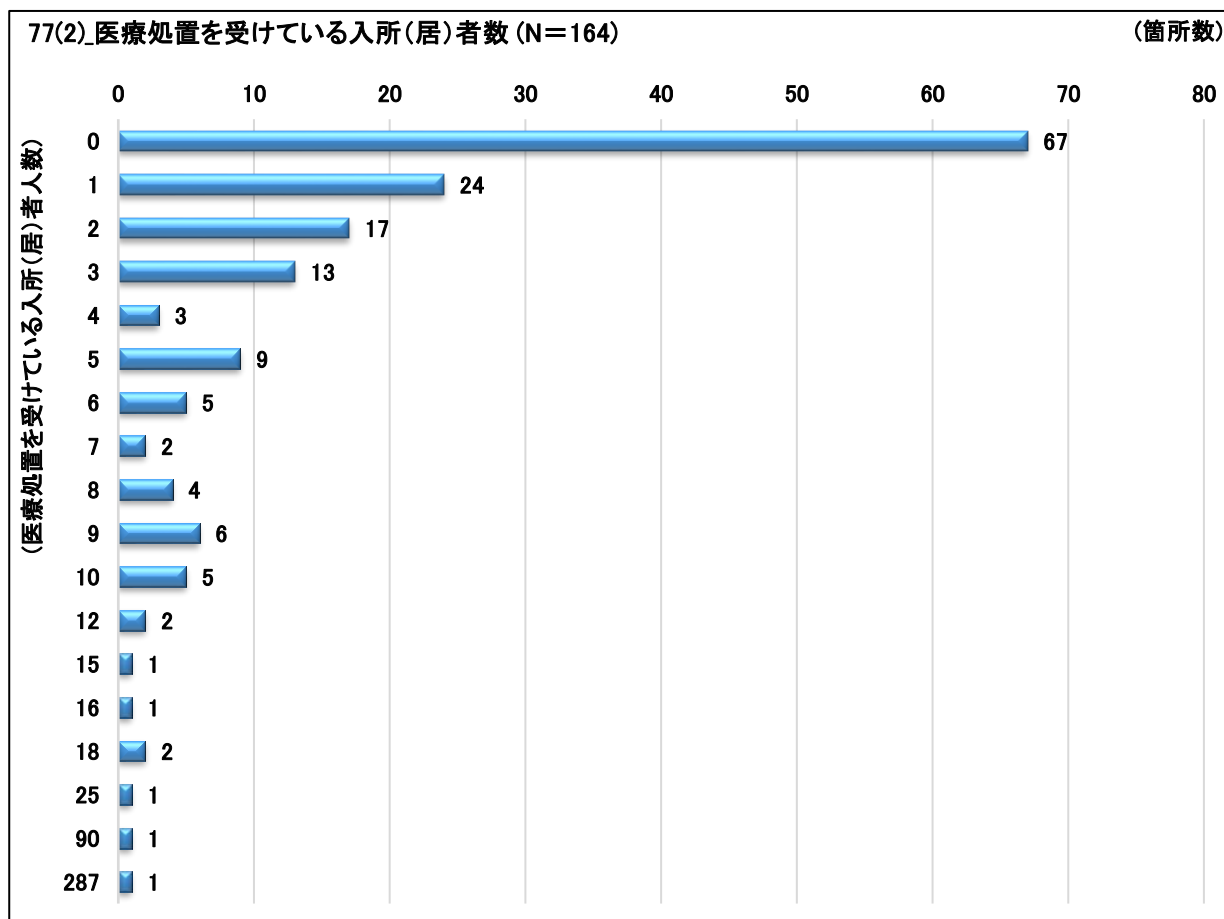
76 (※入所系施設(基本調査票の1で㉔~㉖)) R3年12月末現在の夜勤帯の職員体制を数字でご記入ください。



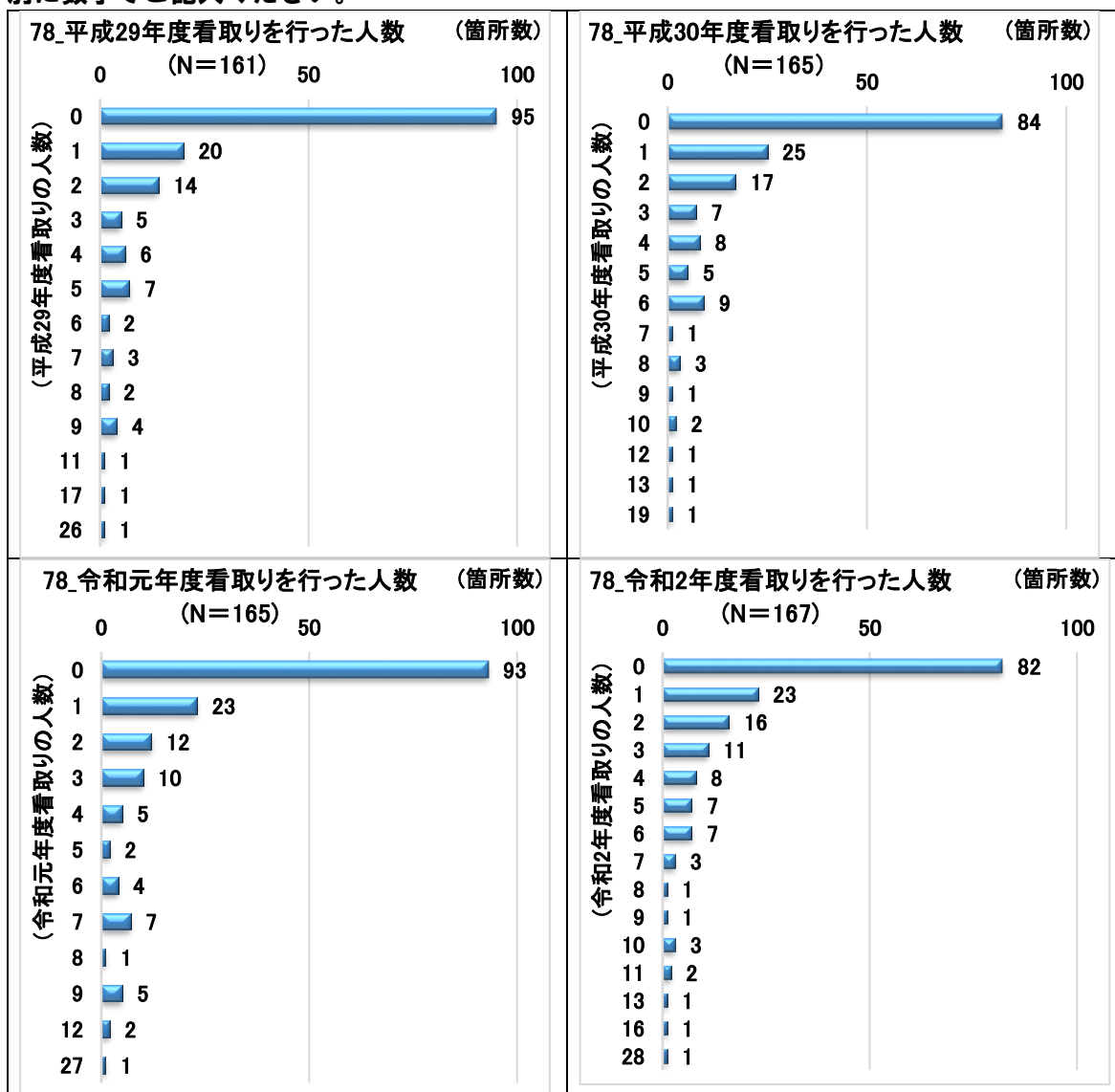
77-(1) (※入所施設(基本調査票の1で㉕~㉞)) 対応可能な医療処置は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)



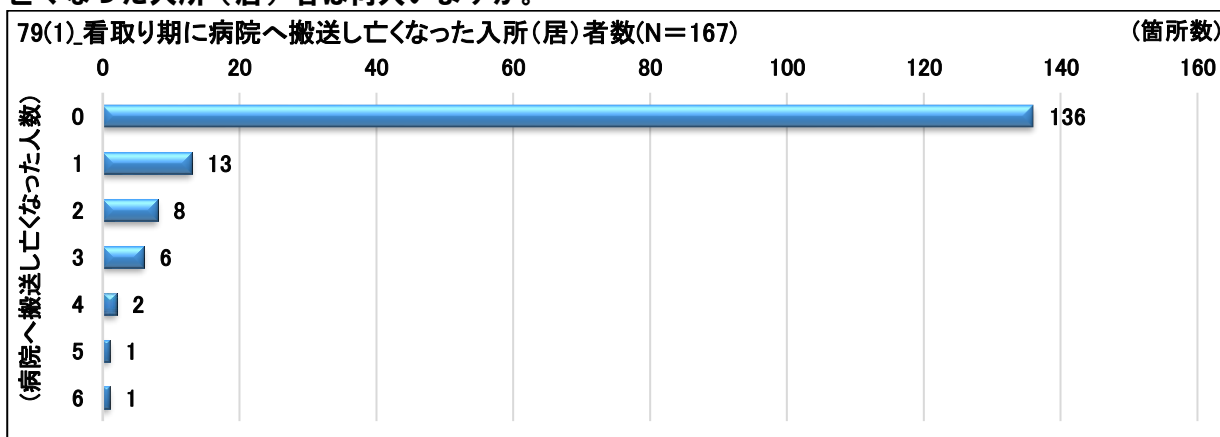
77-(2) (※入所施設(基本調査票の1で㉕~㉞)) R3年12月末現在で医療処置を受けている入所(居)者は何人いますか



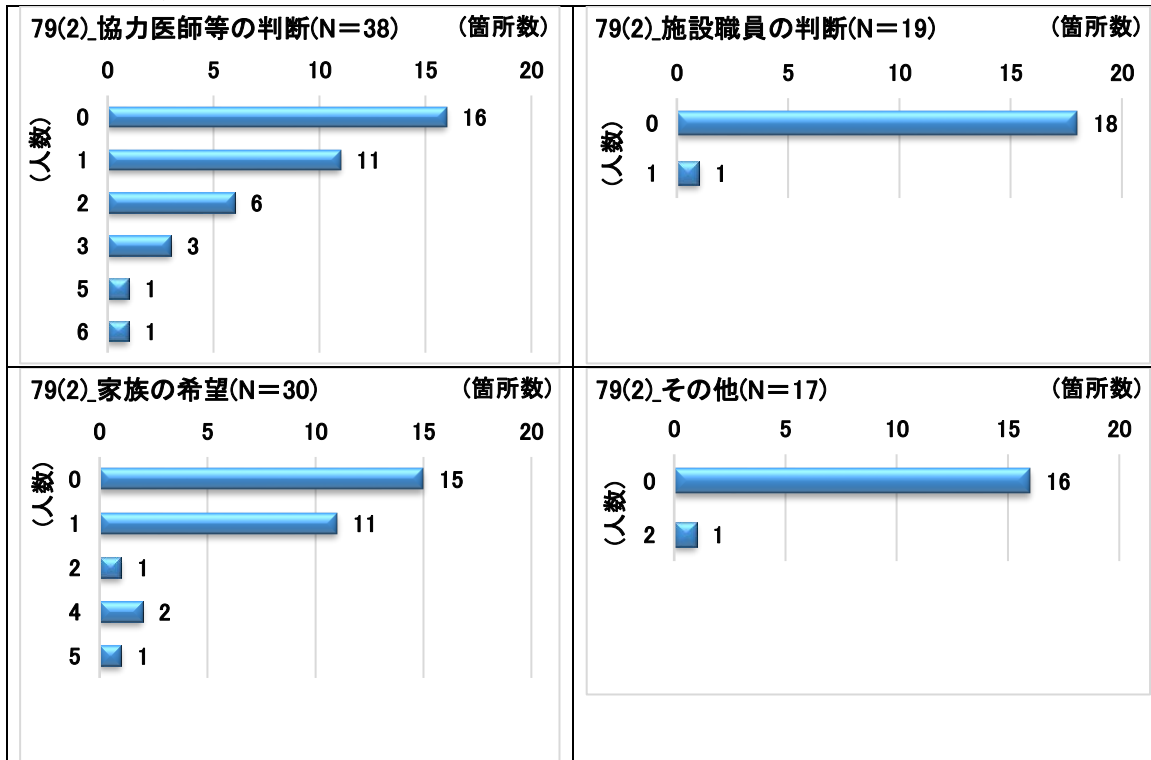
78 (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤~③⑥))H29~R2年度に貴事業所で看取りを行った人数を年度別に数字でご記入ください。



79- (1) (※入所系施設(基本調査票の1で②⑤~③⑥))令和2年度に、看取り期(回復が望めない状態)において、施設における看取り介護を実施していたにも関わらず病院へ搬送し、そのまま病院で亡くなった入所(居)者は何人いますか。



79- (2) (※入所系施設(基本調査票の1で㉕~㉞)) また、そうなったのはどのような理由からですか。内訳を数字でご記入ください。



Ⅲ 考察

本実態調査を行うにあたり、在宅医療・介護の現場の課題を抽出するため、長崎市内の在宅医療・介護専門職による「在宅医療・介護連携実態調査におけるワーキング」を設置し、調査票作成及び集計結果を分析し、その後、長崎市地域包括ケア推進協議会 医療・介護連携部会にて、課題解決策及び今後の施策の方向性について協議を行った。本考察は、それらの意見を踏まえたものである。

【基本調査票】

問 4-(1)『全体的に在宅医療と介護の連携はとれていると思うか』という設問については、「とれている」「概ねとれている」と回答した事業所が 67.8%であり、「あまりとれていない」「とれていない」と回答した事業所は 32.2%であった。

連携がとれていない理由としては、「他の職種と顔の見える関係が作れていない」が 59.2%と最も多く、次いで「情報交換する会議などの機会がない」が 49.6%、「他の職種の業務内容が共有できていない」が 41.3%であった。

問 5-(1)『地域包括支援センターが開催している地域ケア会議に参加したことがあるか』という設問については、「ほとんど参加している」「必要に応じて参加している」と回答した事業所が 51.9%であった。問 5-(2)『参加してみてどうだったか』という設問については、「多職種との顔の見える関係づくりにつながる」が 79.7%、「情報交換や意見交換の場として有効」が 77.9%であり、先述した連携がとれていない理由の解消に、地域ケア会議への参加が有効であると考えられる。

しかし一方で、地域ケア会議に「ほとんど参加していない」「参加したことがない」と回答した事業所は 48.1%で、参加しない理由として、「参加を要請されたことがない」が 54.4%、「参加したいが忙しく参加できない」が 40.2%という結果であった。

より多くの医療・介護専門職に参加していただくためには、一人ひとりが地域ケア会議の重要性を認識することや、参加しやすい体制整備をすすめていく必要があると考える。

問 7-(1)『在宅医療と介護の連携の推進のために何が必要と考えるか』という設問については、「事例検討会、研修や交流会を通じた、顔の見える関係づくり」が 63.2%と最も多く、顔の見える関係づくりの必要性を改めて確認した結果となった。

【日常の療養支援】

問 16『日常の療養支援において在宅医療と介護の連携はとれていると感じるか』という設問については、「とれている」「概ねとれている」と回答した事業所が 66.9%であり、「あまりとれていない」「とれていない」と回答した事業所は 33.0%であった。問 10ア～サ『他の職種・事業所との連携状況』については、どの職種とも「連携できている」「概ね連携できている」が 60～68%と同様の傾向であったが、歯科診療所との連携については、「連携できている」「概ね連携できている」が 45.6%と他職種との相違がみられた。

歯科診療所と連携ができていない理由としては、「日常的に連絡を取り合う必要性を感じない」が 45.5%であり、治療が必要な状態や義歯の不具合など問題が起きた場合には連携がとれているが、それ以外にどのようなことを相談して良いのか、どのようなことで連携をとってよいかかわからないという意見が多くあった。口腔の健康を維持することは、バランスの良い食事をとること等を通じた健康増進につながるだけでなく、誤嚥性肺炎予防等にも有効であり、歯科診療所との連携の必要性を他職種に周知していく必要があると考える。

問 17『日常の療養支援を行うにあたっての医療と介護の連携における課題』についての設問では、自由記載の意見やワーキングでの意見をもとにカテゴリー分けし、以下 6 つの課題、①「病院スタッフの在宅医療への知識不足」②「互いの職種への理解及び知識不足」③「顔の見える関係の確立」④「マンパワー不足」⑤「本人・家族の在宅医療への理解不足」⑥「介護職の医療知識不足・医療職の介護知識不足」を抽出した。

日常の療養支援のめざすべき姿（医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養支援をすることで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた場所で生活ができるようにする）に沿って、本市が優先的に取り組む必要があると考えたのは、②「互いの職種への理解及び知識不足」、③「顔の見える関係の確立」である。基本調査票考察でも記述したとおり、地域ケア会議等への参加が顔の見える関係づくりに有効であると考え、解決策として、スモールグループ（地域包括支援センター単位）での、地域ケア会議、研修会等を開催し、地域課題について多職種での協議や様々な研修を行うことで、互いの職種への理解及び知識不足を解消できるよう、引き続き取り組んでいくこととする。

【入退院支援】

問 35『入退院支援において在宅医療と介護の連携はとれていると感じるか』という設問については、「とれている」「概ねとれている」と回答した事業所が75.3%、「あまりとれていない」「とれていない」と回答した事業所が24.7%であった。

問 20-(1)『退院前カンファレンスに参加したことがあるか』という設問については、「カンファレンスが設定されたすべての利用者・患者について参加している」「必要と判断した利用者・患者について参加している」合わせて71.3%が参加したことがあった。問 28-(2)『退院前カンファレンス主催者である病院側が参加を呼びかける職種』については、病院外職種では、「訪問看護ステーション」が86.1%、「居宅介護支援事業所」が83.3%であった一方、「栄養士」が5.6%、「歯科診療所」が2.8%と呼びかける状況に差がみられた。このことから、退院前カンファレンスでの内容として、治療や看護に関することや、在宅サービスの調整についての検討が優先となり、栄養や口腔についての検討は後回しになっている現状がうかがえた。

また、問 26・27『病院から退院の連絡がある時期』についての設問では、希望では、「退院の1週間以上前」が52.3%だが、現実には「退院の1週間以上前」に連絡があったのは28.5%であった。また、「退院前1～3日」に連絡があることが多いと回答した事業所は20.9%、「退院当日」が3.1%、「退院後」が16.2%であり、合わせて40.2%が退院の直前から退院後の連絡となっていた。

問 36『入退院支援を行うにあたっての在宅医療と介護の連携における課題』についての設問では、自由記載の意見やワーキングでの意見をもとにカテゴリー分けし、以下4つの課題、①「医療と介護でお互いの情報がまちまち、共通認識がとれていない」②「急な退院など在宅の調整がつかないままの退院」③「カンファレンスの減少、書面での情報と実際の状況の相違」④「口腔・薬剤・栄養・リハに対する医療・介護関係者の意識の向上」を抽出した。入退院支援のめざすべき姿（入退院の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする）に沿って、本市が優先的に取り組む必要があると考えたのは、①「医療と介護でお互いの情報がまちまち、共通認識がとれていない」②「急な退院など在宅の調整がつかないままの退院」である。スムーズな入退院支援の前提として、多職種が円滑に連携するための情報共有のタイミングや内容について盛り込んだルールやエチケットの検討を解決策として進めていくこととする。

【急変時の対応】

問 45『急変時の対応において在宅医療と介護の連携はとれていると感じるか』という設問については、「とれている」「概ねとれている」と回答した事業所が73.6%であり、「あまりとれていない」「とれていない」と回答した事業所は26.5%であった。

問 42-(1)『急変時の対応について不安を感じるか』という設問については、「大いに感じる」「少し感じる」が73.0%、「あまり感じない」「全く感じない」が26.9%と多くが不安を感じており、中でも居宅介護支援事業所や訪問介護、通所介護、入所系施設等、介護職に多い傾向であった。不安を感じる理由については、「他の利用者・患者の対応など、人員体制に不安がある」が40.5%、「急変時の対応についての医療知識がない」が39.4%、「医師に連絡するか救急車を要請するか迷う」が33.8%であった。

問 47『急変時の対応を行うにあたっての在宅医療と介護の連携における課題』についての設問では、自由記載の意見やワーキングでの意見をもとにカテゴリー分けし、以下7つの課題、①「急変時の対応について家族・関係者間で統一されていない」②「介護職の急変時に対する不安が大きい、急変時に介護職から医療職へ伝達すべき事項がわからない」③「輪番病院における専門医の不在」④「土日・夜間に主治医に連絡がつかないことがある」⑤「ケアマネジャーやヘルパーに救急車同乗を求められる」⑥「夜間のマンパワー不足」⑦「情報共有ツールが紙ベースである」を抽出した。急変時の対応のめざすべき姿（医療・介護・消防（救急）が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする）に沿って、本市が優先的に取り組む必要があると考えたのは、②「介護職の急変時に対する不安が大きい、急変時に介護職から医療職へ伝達すべき事項がわからない」である。

解決策として、医療職と比較して医療知識が少ない介護職向けに、観察ポイントや救急搬送時に医療側に伝える事項等をまとめた急変時の対応（フローチャート等）の検討を進めていくこととする。

【看取り】

問 69『看取りにおいて在宅医療と介護の連携はとれていると感じるか』という設問については、「とれている」「概ねとれている」と回答した事業所が 63.3%であり、「あまりとれていない」「とれていない」と回答した事業所は 36.6%であった。

問 58-(1)『在宅で看取りを実施するうえで重要だと思うこと』についての設問では、「いつでも医師に連絡がつく体制が確保されていること」が 79.5%と最も多く、次いで「家族の理解・意思決定」が 71.4%、「利用者・患者の理解・意思決定」が 67.6%と ACP（人生会議）を重要だと思っていることがわかった。一方で、問 55『市民の ACP に対する考え方が広まっていると感じるか』については、「大いに感じる」「少し感じる」が 19.0%、問 56『医療・介護従事者の ACP に対する考え方が広まっているか』については、「大いに感じる」「少し感じる」が 35.3%といずれも低い結果であり、今後も市民及び医療・介護従事者にも周知していくことが必要である。

問 70『看取りを行うにあたっての在宅医療と介護の連携における課題』についての設問では、自由記載の意見やワーキングでの意見をもとにカテゴリー分けし、以下4つの課題、①「本人・家族の意思決定支援」②「介護職の看取りへの恐怖、経験・知識の不足、急変時の対応」③「一人夜勤の事業所は難しい、看取りを行うには職員が不足している」④「家族の身体的心理的負担や介護力不足」を抽出した。看取りのめざすべき姿（地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解をした上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・看護関係者が、対象者本人（意思が示せない場合は、家族）と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する）に沿って、本市が優先的に取り組む必要があると考えたのは、①「本人・家族の意思決定支援」である。看取りを行うためには本人・家族の理解・意思決定が重要であり、ACP については各職種が本人・家族と関わる中で聞き取った意思を、関わる多職種で共有して支援していくことが重要であるため、解決策として多職種チームでの ACP の推進に取り組んでいくこととする。

長崎市在宅医療・介護連携実態調査結果報告書

発行：令和5年2月

編集：長崎市役所 福祉部 地域包括ケアシステム推進室
